(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6927563号
(P6927563)
(45)発行日　令和3年9月1日(2021.9.1)　(24)登録日　令和3年8月10日(2021.8.10)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 304D

請求項の数 2 (全 83 頁)

(21)出願番号　特願2017-35710(P2017-35710)
(22)出願日　平成29年2月28日(2017.2.28)
(65)公開番号　特開2018-139819(P2018-139819A)
(43)公開日　平成30年9月13日(2018.9.13)
審査請求日　令和2年2月28日(2020.2.28)

(73)特許権者　599104196
株式会社サンセイアールアンドディ
愛知県名古屋市中区丸の内２丁目１１番１３号
(74)代理人　110000291
特許業務法人コスモス国際特許商標事務所
(72)発明者　小川　慎也
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目１１番１３号　株式会社サンセイアールアンドディ内
(72)発明者　林　孝政
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目１１番１３号　株式会社サンセイアールアンドディ内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の光源と、第１表示部および第２表示部を含む複数の表示部を備える構造体と、前記複数の表示部のうち、前記複数の光源の前方に配置する表示部を切り替え可能な切替機構と、を有する演出装置と、
前記複数の光源の発光を制御可能な発光制御手段と、を備え、
前記第１表示部は、透光可能な第１レンズ部を備え、
前記第２表示部は、透光可能な第２レンズ部を備え、
前記演出装置は、
前記複数の光源を仕切る光源側仕切部材と、
第１表示部側仕切部材と、
第２表示部側仕切部材と、を備え、
前記切替機構によって前記第１表示部が前記複数の光源の前方に配置されたときには、前記第１表示部側仕切部材が当該第１表示部と前記光源側仕切部材との間に配置され、
前記切替機構によって前記第２表示部が前記複数の光源の前方に配置されたときには、前記第２表示部側仕切部材が当該第２表示部と前記光源側仕切部材との間に配置され、
前記光源側仕切部材は、
前記第１表示部が前記複数の光源の前方に配置された場合には、前記第１表示部側仕切部材とともに、前記複数の光源から前記第１レンズ部までの光の進路を区画する第１仕切部材を構成する一方、

前記第２表示部が前記複数の光源の前方に配置された場合には、前記第２表示部側仕切部材とともに、前記複数の光源から前記第２レンズ部までの光の進路を区画する第２仕切部材を構成し、
前記第１仕切部材による光の進路の区画と、前記第２仕切部材による光の進路の区画とが異なることを特徴とする遊技機。
【請求項２】
請求項１に記載の遊技機であって、
前記第１表示部が前記複数の光源の前方に配置された場合には、前記複数の光源のうち前記第１光源群に該当するものが発光し、
前記第２表示部が前記複数の光源の前方に配置された場合には、前記複数の光源のうち、前記第１光源群とは組み合わせが異なる前記第２光源群に該当するものが発光することを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、パチンコ遊技機や回胴式遊技機（パチスロ遊技機）等の遊技機に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来より遊技機の一つであるパチンコ遊技機では、遊技機枠の前枠や遊技盤の前面側には、ＬＥＤ等の発光手段（光源）を内蔵した装飾部品（演出装置）が取り付けられている（例えば、特許文献１）。このパチンコ遊技機の装飾部品は、光源を配置した回路基板、および、光源を覆う透光性の部材からなるレンズ部材（表示部）で構成されている。回路基板の光源からの光がレンズ部材に透過し得る。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００３－２４５２２号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところで、そのような装飾部品（演出装置）には、遊技興趣を向上させるためにさらなる改善の余地がある。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本発明の遊技機は、
複数の光源と、第１表示部および第２表示部を含む複数の表示部を備える構造体と、前記複数の表示部のうち、前記複数の光源の前方に配置する表示部を切り替え可能な切替機構と、を有する演出装置と、
前記複数の光源の発光を制御可能な発光制御手段と、を備え、
前記第１表示部は、透光可能な第１レンズ部を備え、
前記第２表示部は、透光可能な第２レンズ部を備え、
前記演出装置は、
前記複数の光源を仕切る光源側仕切部材と、
第１表示部側仕切部材と、
第２表示部側仕切部材と、を備え、
前記切替機構によって前記第１表示部が前記複数の光源の前方に配置されたときには、前記第１表示部側仕切部材が当該第１表示部と前記光源側仕切部材との間に配置され、
前記切替機構によって前記第２表示部が前記複数の光源の前方に配置されたときには、前記第２表示部側仕切部材が当該第２表示部と前記光源側仕切部材との間に配置され、
前記光源側仕切部材は、

前記第１表示部が前記複数の光源の前方に配置された場合には、前記第１表示部側仕切部材とともに、前記複数の光源から前記第１レンズ部までの光の進路を区画する第１仕切部材を構成する一方、

前記第２表示部が前記複数の光源の前方に配置された場合には、前記第２表示部側仕切部材とともに、前記複数の光源から前記第２レンズ部までの光の進路を区画する第２仕切部材を構成し、

前記第１仕切部材による光の進路の区画と、前記第２仕切部材による光の進路の区画とが異なることを特徴とする。

【発明の効果】

【０００６】

本発明によれば、遊技興趣を向上させることが可能である。

【図面の簡単な説明】

【０００７】

【図１】本発明の一実施形態に係る遊技機を右上方手前からみたときの斜視図である。

【図２】同遊技機が備える遊技機枠の分解斜視図である。

【図３】（Ａ）内枠が閉じているときの押圧部材の状態を示す説明図である。（Ｂ）内枠が開くときの押圧部材の状態を示す説明図である。

【図４】同遊技機の正面図である。

【図５】同遊技機の右側面図である。

【図６】同遊技機の平面図である。

【図７】同遊技機を下方手前からみたときの斜視図である。

【図８】同遊技機が備える遊技盤の正面図である。

【図９】同遊技機が備える第２大入賞装置を詳細に示す概略正面図である。

【図１０】図８に示すＡ部分の拡大図であり、同遊技機が備える表示器類を示す図である。

【図１１】同遊技機が備える右側可動体ユニットの斜視図である。

【図１２】同遊技機が備える右側可動体ユニットの右側面図である。

【図１３】右側可動体ユニットの分解斜視図である。

【図１４】図１３に示す右側ベース部の分解斜視図である。

【図１５】図１４に示すラッチ構造体の分解斜視図である。

【図１６】第１位置，第２位置および第３位置のいずれかに配置されたときの右側可動体を示す説明図である。

【図１７】複数の同遊技機が横に並んでいる状態を示す説明図である。

【図１８】右隣の遊技機の前枠が開いたときの平面図である。

【図１９】同遊技機が備える左側可動体ユニットの斜視図である。

【図２０】同遊技機が備える左側可動体ユニットの左側面図である。

【図２１】左側ベース部の斜視図である。

【図２２】図２１に示す左側ベース部の分解斜視図である。

【図２３】開閉枠が開いた場合の左側ベース部を示す説明図である。

【図２４】開閉枠が閉じている場合の左側ベース部を示す説明図である。

【図２５】開閉枠が閉じている場合に左側可動体が後方に押圧された場合の左側ベース部を示す説明図である。

【図２６】左側可動体の変位を示す説明図である。

【図２７】可動体をなす回転体、光源部および台座部を右上方手前からみたときの斜視図である。

【図２８】回転体、光源部および台座部を左後方からみたときの斜視図である。

【図２９】回転体、光源部および台座部の分解斜視図である。

【図３０】光源部の正面図である。

【図３１】上側第１表示部および下側第１表示部の斜視図である。

【図３２】光源部の前方に上側第１表示部および下側第１表示部を配置したときの説明図

である。
【図３３】上側第２表示部および下側第２表示部の分解斜視図である。
【図３４】下側第２表示部における透光部材を示す説明図である。
【図３５】光源部の前方に上側第２表示部および下側第２表示部を配置したときの説明図である。
【図３６】同遊技機の主制御基板側の電気的な構成を示すブロック図である。
【図３７】同遊技機のサブ制御基板側の電気的な構成を示すブロック図である。
【図３８】大当たり種別判定テーブルである。
【図３９】大入賞口の開放態様を示すテーブルである。
【図４０】遊技制御用マイコンが取得する各種乱数を示す表である。
【図４１】（Ａ）大当たり判定テーブルである。（Ｂ）リーチ判定テーブルである。（Ｃ）普通図柄当たり判定テーブルである。（Ｄ）普通図柄変動パターン選択テーブルである。
【図４２】変動パターン判定テーブルである。
【図４３】電チューの開放パターン決定テーブルである。
【図４４】メイン側タイマ割り込み処理のフローチャートである。
【図４５】サブ側タイマ割り込み処理のフローチャートである。
【図４６】受信コマンド解析処理のフローチャートである。
【図４７】可動体の表示演出を示す説明図である。
【図４８】可動体の表示演出を示す説明図である。
【図４９】本発明の変更例に係る遊技機を示す説明図である。
【図５０】本発明の変更例に係る遊技機を示す説明図である。
【図５１】本発明の変更例に係る遊技機を示す説明図である。
【図５２】本発明の変更例に係る遊技機を示す説明図である。
【発明を実施するための形態】
【０００８】
１．遊技機の構造
本発明の一実施形態であるパチンコ遊技機について、図面に基づいて説明する。なお、以下の説明において遊技機の一例としてのパチンコ遊技機の各部の左右方向は、そのパチンコ遊技機に対面する遊技者にとっての左右方向に一致させて説明する。また、パチンコ遊技機の各部の前方向をパチンコ遊技機に対面する遊技者に近づく方向とし、パチンコ遊技機の各部の後方向をパチンコ遊技機に対面する遊技者から離れる方向として説明する。
【０００９】
図１に示すように、第１形態のパチンコ遊技機１は、当該パチンコ遊技機１の外郭を構成する遊技機枠５０と、遊技機枠５０の内部に取付けられた遊技盤２（図８参照）とを備えている。遊技機枠５０は、外枠（基枠に相当）５１と開閉枠ＫＷとを備えている。開閉枠ＫＷは、内枠（保持枠部に相当）５２と前枠（装飾枠部に相当、ガラス扉枠ともいう）５３とを備えている。外枠５１は、遊技機枠５０の外郭を構成する縦長方形状の枠体である。内枠５２は、外枠５１の内側に配置されていて、遊技盤２を取付ける縦長方形状の枠体である。前枠５３は、内枠５２の前方側に配置されていて、遊技盤２を保護する縦長方形状のものである。なお外枠５１の下端の前面側には、左右方向に長い長方形状の幕板５１ａが配されている。
【００１０】
遊技機枠５０は、左端側にヒンジ部５４を備えている。図２に示すように、ヒンジ部５４により、開閉枠ＫＷは、外枠５１に対して回動自在になっている。具体的には、前枠５３は外枠５１および内枠５２に対してそれぞれ回動自在になっていて、内枠５２は外枠５１および前枠５３に対してそれぞれ回動自在になっている。なお、開閉枠ＫＷが開いているとは、内枠５２および前枠５３の少なくとも一方が開いていることをいう。また、開閉枠ＫＷが閉じているとは、内枠５２も前枠５３も閉じていることをいう。
【００１１】

前枠５３の中央には開口部分５３ａが形成されていて、この開口部分５３ａに透明のガラス板が取付けられる。これにより遊技者は、ガラス板を通して、後述する遊技領域３を視認できるようになっている。

【００１２】

また、遊技機枠５０は、上部に押圧機構ＰＫを備えている。押圧機構ＰＫは、開閉枠ＫＷが閉じている場合に、後述の左側可動体２５３を第２位置に配置させることが可能なものである。押圧機構ＰＫは、図３（Ａ）および図３（Ｂ）に示すように、外枠５１に設けられた姿勢保持部材（基枠押圧機構に相当）５７、内枠５２に設けられた押圧部材（変位機構に相当）５８および可動部材５９からなる。なお、図３（Ａ）は、内枠５２が閉じているときの押圧機構ＰＫの状態を示した図であり、図３（Ｂ）は、内枠５２が開いているときの押圧機構ＰＫの状態を示した図である。

【００１３】

姿勢保持部材５７は、Ｌ字形状の部材であり、外枠５１の上部内側に固定されている（図２参照）。この姿勢保持部材５７は、図３に示すように、本体部５７Ａと、この本体部５７Ａの図３中の右端から、内枠５２側（図中、奥側）に延出する壁部５７Ｂとを備えている。本体部５７Ａは、外枠５１に当接して固定される部位である。壁部５７Ｂは、内枠５２の閉塞時に可動部材５９の左方から可動部材５９に当接させるためのものである（図３（Ａ）参照）。

【００１４】

押圧部材５８は、内枠５２の上端に配置されている（図２参照）。この押圧部材５８は、図３（Ａ）中、上下方向に伸びる板状の本体部５８Ａと、その本体部５８Ａの、図３（Ａ）中、下側の先端に位置する先端部５８Ｂとを備えている。本体部５８Ａの中央には、図中、上下方向に延びる長穴５８Ｃが設けられている。本体部５８Ａは、長穴５８Ｃを挿通しつつ内枠５２の上部に固定された２個のリベットＲＶによって、図３（Ａ）中、上下方向にスライド移動可能になっている。また、本体部５８Ａの図３（Ａ）中、右上側には、貫通孔５８Ｄが設けられている。この貫通孔５８Ｄは、可動部材５９の第１アーム部５９Ａの先端を挿通させるためのものである。

【００１５】

可動部材５９は、上記押圧部材５８と同じく、内枠５２の上端に配置されている。この可動部材５９は、図３（Ａ）中、左右方向に延びる板状の第１アーム部５９Ａと、この第１アーム部５９Ａの左側の端部から、図３（Ａ）中、前後方向に延びる板状の第２アーム部５９Ｂとを備えている。第１アーム部５９Ａは、図３（Ａ）および図３（Ｂ）に示すように、押圧部材５８の上方に重なって配置される。そして、第１アーム部５９Ａの右側の先端が、押圧部材５８の貫通孔５８Ｄを挿通している。なお、可動部材５９は、図３（Ａ）に示すように、第１アーム部５９Ａと第２アーム部５９Ｂとの間の位置に回動軸ＡＸがある。この回動軸ＡＸを中心にして、可動部材５９が回動可能となっている。

【００１６】

図３を用いて、内枠５２が閉じているときの押圧機構ＰＫの状態、および、内枠５２が開いているときの押圧機構ＰＫの状態を以下に説明する。図３（Ａ）に示すように、内枠５２が閉じているときには、姿勢保持部材５７の壁部５７Ｂが可動部材５９の第２アーム部５９Ｂを図中、左側から当接する。このため、可動部材５９の第２アーム部５９Ｂが、回動軸ＡＸを中心として反時計周りにそれ以上回動できず、第１アーム部５９Ａも回動できない。つまり、姿勢保持部材５７によって、回動できない姿勢で可動部材５９が固定されることになる。従って、第１アーム部５９Ａの先端が挿通する押圧部材５８の本体部５８Ａもまた、後方（図３（Ａ）中、上方）に移動することなく、その位置に固定される。よって、内枠５２が閉じているときには、押圧部材５８の先端部５８Ｂは、内枠５２の縁から前方に距離Ｆ１突出した状態に固定されることになる。かくして、開閉枠ＫＷの閉塞時には、そのような押圧部材５８の押圧によって、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６は押圧されて、左側可動体２５３は第２位置に配置可能となっている。なお、姿勢保持部材５７は、開閉枠ＫＷの閉塞時に、押圧部材５８が左第１

アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６を押圧する状態にその押圧部材５８をさせ得るものである。また、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１、左第３アーム２７６および左側可動体２５３については、後ほど詳述する。

【００１７】

一方、図３（Ｂ）に示すように、内枠５２が開いている場合には、可動部材５９の第２アーム部５９Ｂが姿勢保持部材５７の壁部５７Ｂから離れている。具体的には、内枠５２の閉塞時よりも、姿勢保持部材５７の壁部５７Ｂと回動軸ＡＸとの間に隙間が生じることになる。このため、可動部材５９の第２アーム部５９Ｂが、回動軸ＡＸを中心として反時計周りに回動可能となり、それに伴って第１アーム部５９Ａも回動可能となる。この回動によって、第１アーム部５９Ａの先端が挿通する押圧部材５８の本体部５８Ａもまた、後方に移動可能になる。従って、内枠５２が開くと、押圧部材５８の先端部５８Ｂは、内枠５２の縁から前方に距離Ｆ２だけ突出した状態になる。この距離Ｆ２は、内枠５２の閉塞時の距離Ｆ１よりも短いため（Ｆ２＜Ｆ１）、内枠５２が開くと押圧部材５８の突出量が相対的に小さくなり、押圧部材５８が左側可動体ユニット２０２Ｌに届かなくなる。かくして、内枠５２が開いている場合には、押圧部材５８によって、後述の左側可動体２５３を第２位置に配置させることができない。

【００１８】

図２に戻り、前枠５３は、後方側にベース枠５６を備えている。また前枠５３は、図４に示すように、前方側に上側装飾部２００と左側装飾部４１０と右側装飾部４２０と操作機構部４３０とを備えている。ベース枠５６は、前面側で上側装飾部２００と左側装飾部４１０と右側装飾部４２０と操作機構部４３０とを着脱可能に取付ける枠体である。

【００１９】

上側装飾部（上部装飾部）２００は、遊技機枠５０（前枠５３）の上部を装飾するものである（図４参照）。上側装飾部２００は、図４に示すように、左右方向の中央に中央可動体ユニット２０１を備え、その中央可動体ユニット２０１の左方に左側可動体ユニット２０２Ｌ、右方に右側可動体ユニット２０２Ｒを備えている。中央可動体ユニット２０１は、枠可動体１５を移動可能に組付けるユニットであり、前後方向に長いものである。本形態では左側可動体ユニット２０２Ｌおよび右側可動体ユニット２０２Ｒの構成に特徴があり、これら左側可動体ユニット２０２Ｌおよび右側可動体ユニット２０２Ｒの詳細な構成については後述する。

【００２０】

この上側装飾部２００（中央可動体ユニット２０１）は、図５に示すように、ベース枠５６に取付けられている他のどの部分（左側装飾部４１０，右側装飾部４２０，操作機構部４３０）よりも、前方に突出している。具体的には、図５に示すように、上側装飾部２００の前方側の先端Ｐ１と上記幕板５１ａの前表面Ｐ２との間の距離Ｌ１が、操作機構部４３０の前方側の先端Ｐ３と幕板５１ａの上記前表面Ｐ２との間の距離Ｌ２の２倍以上になっている。これにより、上側装飾部２００による前方への突出が非常に強調されていて、従来の遊技機枠に比べて大きなインパクトを与えることが可能である。

【００２１】

左側装飾部４１０は、遊技機枠５０（前枠５３）の左部を装飾するものである（図４参照）。右側装飾部４２０は、遊技機枠５０の右部を装飾するものであり、剣役物ユニット３２１を備えている。剣役物ユニット３２１には、剣の形を模した剣役物３２２が押込操作可能に設けられている。これにより遊技の進行に伴って実行される演出時に、遊技者に対して剣役物３２２への押込操作が促されるようになっている。

【００２２】

操作機構部４３０は、遊技や演出を進行するための操作機構を備えるものである。操作機構部４３０は、図１に示すように、右側の下部に回転角度に応じた発射強度で遊技球を発射させるためのハンドル６０を備え、上側の後部に遊技球を貯留する打球供給皿（上皿）６１を備え、ハンドル６０よりも左方に打球供給皿６１に収容しきれない遊技球を貯留する余剰球受皿（下皿）６２を備えている。また、操作機構部４３０のうち上皿６１より

も前方には、遊技の進行に伴って実行される演出時等に遊技者が操作し得る演出ボタン６３や十字キー６８が設けられている（図１参照）。

【００２３】

本形態のパチンコ遊技機１では、図４に正面図が示され、図５に右側面図が示され、図６に平面図が示されている。ここで、図４および図５に示すように、遊技場の島設備において鉛直方向に起立した垂直壁面ＳＨのうち遊技機１の上方には、データカウンタ１６０が配されている。データカウンタ１６０は、垂直壁面ＳＨに固定されている固定部材１６１と、この固定部材１６１に対して前傾姿勢になるように傾動可能に取付けられているデータ表示装置１６２とを備えている。

【００２４】

データ表示装置１６２は、後述する大当たり遊技状態の発生回数や高確率状態の発生回数等を表示する略直方体形状のものである。またデータ表示装置１６２は、遊技者がホールの従業員を呼ぶための呼び出しボタン等を有している。このデータカウンタ１６０では、垂直壁面ＳＨに対するデータ表示装置１６２の前傾角度θ１を１５度から２５度まで可変できるようになっている。なお、図５では、データ表示装置１６２の前傾角度θ１が最大の２５度になっている状態が示されている。

【００２５】

また本形態のパチンコ遊技機１では、図７に示すように、遊技機枠５０のうち上側装飾部２００の後方の下側に、左右一対の左側スピーカ６７Ｌおよび右側スピーカ６７Ｒが設けられている。また上側装飾部２００、左側装飾部４１０、右側装飾部４２０および操作機構部４３０には、様々な発光色で発光可能な枠ランプ６６（図３７参照）が多数設けられている。

【００２６】

次に、図８を参照して遊技盤２について説明する。図８に示すように、遊技盤２の前面側には、鉛直方向に起立した遊技面２ａが形成されている。この遊技面２ａの前方に、ハンドル６０の操作により発射された遊技球が流下する遊技領域３が、レール部材４で囲まれて形成されている。また遊技盤２には、様々な発光色で発光可能な盤ランプ５（図３７参照）が多数設けられている。なお遊技盤２は、前側に配されている板状部材と、後側に配されている裏ユニット（後述する各種制御基板、第１画像表示装置６、第２画像表示装置７、ハーネス等を取付けるユニット）とが一体化されたものである。

【００２７】

遊技盤２の遊技面２ａには、遊技球を誘導する複数の遊技釘（図示省略）が突設されている。また遊技面２ａよりも内側であって且つ遊技面２ａよりも後方には、液晶表示装置である第１画像表示装置（第１表示手段）６が配されている。第１画像表示装置６は、鉛直方向に起立した状態で固定されている。

【００２８】

第１画像表示装置６の表示画面６ａには、後述の第１特別図柄および第２特別図柄の変動表示（可変表示）に同期した装飾図柄（演出図柄）８Ｌ，８Ｃ，８Ｒの変動表示を行う装飾図柄表示領域がある。装飾図柄表示領域は、例えば「左」「中」「右」の３つの図柄表示エリアからなる。左の図柄表示エリアには左演出図柄８Ｌが表示され、中の図柄表示エリアには中演出図柄８Ｃが表示され、右の図柄表示エリアには右演出図柄８Ｒが表示される。装飾図柄はそれぞれ、例えば「１」～「９」までの数字をあらわした複数の図柄からなる。第１画像表示装置６は、左、中、右の装飾図柄の組み合わせによって、後述の第１特別図柄表示器４１ａおよび第２特別図柄表示器４１ｂ（図１０参照）にて表示される第１特別図柄および第２特別図柄の変動表示の結果（つまりは大当たり抽選の結果）を、わかりやすく表示する。

【００２９】

例えば、大当たりに当選した場合には「７７７」などのゾロ目で装飾図柄を停止表示する。また、はずれであった場合には「２６３」などのバラケ目で装飾図柄を停止表示する。これにより、遊技者にとっては遊技の進行状況の把握が容易となる。つまり遊技者は、

一般的には大当たり抽選の結果を第１特別図柄表示器４１ａや第２特別図柄表示器４１ｂにより把握するのではなく、第１画像表示装置６にて把握する。なお、図柄表示エリアの位置は固定的でなくてもよい。また、装飾図柄の変動表示の態様としては、例えば上下方向にスクロールする態様がある。また、各抽選結果に応じてどのような装飾図柄の組み合わせを停止表示するかは任意に変更可能である。

【００３０】

第１画像表示装置６は、上記のような装飾図柄を用いた装飾図柄変動演出（「演出図柄変動演出」や単に「変動演出」ともいう）のほか、大当たり遊技に並行して行われる大当たり演出や、客待ち用のデモ演出などを表示画面６ａに表示する。なお装飾図柄変動演出では、数字等の装飾図柄のほか、背景画像やキャラクタ画像などの装飾図柄以外の演出画像も表示される。

【００３１】

また第１画像表示装置６の表示画面６ａには、後述の第１特図保留の記憶数に応じて演出保留画像９Ａを表示する第１演出保留表示エリア９ａと、後述の第２特図保留の記憶数に応じて演出保留画像９Ｂを表示する第２演出保留表示エリア９ｂとがある。演出保留画像９Ａ，９Ｂの表示により、後述の第１特図保留表示器４３ａ（図１０参照）にて表示される第１特図保留の記憶数および第２特図保留表示器４３ｂ（図１０参照）にて表示される第２特図保留の記憶数を、遊技者にわかりやすく示すことが可能となっている。

【００３２】

また本形態のパチンコ遊技機１には、図８に示すように、第１画像表示装置６よりも上方に第２画像表示装置（第２表示手段）７が設けられている。第２画像表示装置７の表示画面７ａでは、第１画像表示装置６の表示画面６ａで実行される装飾図柄変動演出、大当たり演出、客待ち用のデモ演出などに合わせて、背景画像やキャラクタ画像など様々な演出画像が表示されるようになっている。

【００３３】

この第２画像表示装置７は、前方に向かって斜め上方に傾斜した状態で固定されている。そして、第２画像表示装置７の表示画面７ａの上部７ｂは、遊技盤２の遊技面２ａよりも前方に飛び出ている。これにより遊技者には、より近い位置で表示画面７ａの上部７ｂを見せることが可能である。更に、第２画像表示装置７の表示画面７ａの上部７ｂは、図８に示すように、遊技領域３の上端部よりも上方に飛び出ている。これにより遊技者には、遊技領域３の外側でも表示画面７ａの上部７ｂを見せることが可能である。こうして本形態では、第１画像表示装置６の表示画面６ａと第２画像表示装置７の表示画面７ａとにより、斬新な表示画面が形成されていて、遊技者には広範囲且つ近い距離で演出画像を見せることが可能である。その結果、表示画面６ａ，７ａで表示される演出画像のインパクトを高めることが可能である。

【００３４】

図８に示すように、遊技領域３の中央付近であって第１画像表示装置６の前方には、センター装飾体１０が配されている。センター装飾体１０の下部には、上面を転動する遊技球を、後述の第１始動口２０へと誘導可能なステージ部１１が形成されている。またセンター装飾体１０の左下方には、入口から遊技球を流入させ、出口からステージ部１１へ遊技球を流出させるワープ部１２が設けられている。

【００３５】

遊技領域３における第１画像表示装置６の下方には、第１始動口（第１始動入賞口、第１入球口、固定始動口）２０を備える固定入賞装置１９が設けられている。第１始動口２０は、遊技球の入球し易さが常に変わらない入賞口である。第１始動口２０への遊技球の入賞は、第１特別図柄の抽選（大当たり抽選、すなわち大当たり乱数等の取得と判定）の契機となっている。

【００３６】

また第１始動口２０の下方には、第２始動口（第２始動入賞口、第２入球口、可変始動口）２１を備える普通可変入賞装置（いわゆる電チュー）２２が設けられている。第２始

動口２１は、遊技球の入球し易さが変化可能な入賞口である。なお本形態の第２始動口２１は、上下方向且つ前後方向に延びる平面で形成される開口部分である。第２始動口２１への遊技球の入賞は、第２特別図柄の抽選の契機となっている。

【００３７】

電チュー２２は、前後方向に進退可能な可動部材（入球口開閉部材）２３を備え、可動部材２３の作動によって第２始動口２１を開閉するものである。可動部材２３は、電チューソレノイド２４（図３６参照）により駆動される。第２始動口２１は、可動部材２３が前方に進出しているとき（つまり開状態であるとき）だけ遊技球が入球可能となる。つまり、可動部材２３が前方に進出しているときには、流下する遊技球が可動部材２３の上側に当接すると、左方へ誘導される。これにより、遊技球が第２始動口２１に入球可能となる。

【００３８】

一方、第２始動口２１は、後方に退避しているとき（つまり閉状態であるとき）には遊技球が入球不可能となる。つまり、可動部材２３が後方に退避しているときには、流下する遊技球が可動部材２３に当接しない。これにより、遊技球は第２始動口２１に入球することなく、後述するアウト口１６へ向かう。なお、第２始動口２１は、可動部材２３が閉状態にあるときには開状態にあるときよりも遊技球が入球困難となるものであれば、可動部材２３が閉状態であるときに完全に入球不可能となるものでなくても良い。

【００３９】

また第１始動口２０の右斜め上方には、第１大入賞口（第１特別入賞口）３０を備えた第１大入賞装置（第１特別可変入賞装置）３１が設けられている。第１大入賞装置３１は、開状態と閉状態とをとる開閉部材（第１特別入賞口開閉部材）３２を備え、開閉部材３２の作動により第１大入賞口３０を開閉するものである。開閉部材３２は、第１大入賞口ソレノイド３３（図３６参照）により駆動される。第１大入賞口３０は、開閉部材３２が開いているとき（つまり開状態であるとき）だけ遊技球が入球可能となる。

【００４０】

また第１大入賞口３０の上方には、遊技球が通過可能なゲート（通過領域）２８が設けられている。ゲート２８への遊技球の通過は、電チュー２２を開放するか否かを決める普通図柄抽選（すなわち普通図柄乱数（当たり乱数）の取得と判定）の実行契機となっている。

【００４１】

また、ゲート２８の右斜め上方には、第２大入賞口（第２特別入賞口）３５を備えた第２大入賞装置（第２特別可変入賞装置）３６が設けられている。第２大入賞装置３６は、開状態と閉状態とをとる開閉部材（第２特別入賞口開閉部材）３７を備え、開閉部材３７の作動により第２大入賞口３５を開閉するものである。開閉部材３７は、第２大入賞口ソレノイド３８（図３６参照）により駆動される。第２大入賞口３５は、開閉部材３７が開いているときだけ（つまり開状態であるとき）だけ遊技球が入球可能となる。

【００４２】

より詳細には、図９（Ａ）に示すように、第２大入賞装置３６の内部には、第２大入賞口３５を通過した遊技球が通過可能な特定領域（Ｖ領域）３９および非特定領域７０が形成されている。なお、第２大入賞装置３６において、特定領域３９および非特定領域７０の上流には、第２大入賞口３５への遊技球の入賞を検知する第２大入賞口センサ３５ａが配されている。また、特定領域３９には、特定領域３９への遊技球の通過を検知する特定領域センサ３９ａが配されている。また、非特定領域７０には、非特定領域７０への遊技球の通過を検知する非特定領域センサ７０ａが配されている。また、第２大入賞装置３６は、第２大入賞口３５を通過した遊技球を特定領域３９または非特定領域７０のいずれかに振り分ける振分部材７１と、振分部材７１を駆動する振分部材ソレノイド７３とを備えている。振分部材７１は、左右方向に進退するものであり、左方に進出した進出状態（第１の状態）又は右方に退避した退避状態（第２の状態）をとる。

【００４３】

図９（Ａ）は、振分部材ソレノイド７３の通電時を示している。図９（Ａ）に示すように、振分部材ソレノイド７３の通電時には、振分部材７１は特定領域３９への遊技球の通過を許容する第１の状態にある。振分部材７１が第１の状態にあるときは、第２大入賞口３５に入賞した遊技球は、第２大入賞口センサ３５ａを通過したあと特定領域３９を通過する。この遊技球のルートを第１のルートという。

【００４４】

図９（Ｂ）は、振分部材ソレノイド７３の非通電時を示している。図９（Ｂ）に示すように、振分部材ソレノイド７３の非通電時には、振分部材７１は特定領域３９への遊技球の通過を妨げる第２の状態にある。振分部材７１が第２の状態にあるときは、第２大入賞口３５に入賞した遊技球は、第２大入賞口センサ３５ａを通過したあと振分部材７１の上面を転動して非特定領域７０を通過する。この遊技球のルートを第２のルートという。

【００４５】

なお本パチンコ遊技機１では、特定領域３９への遊技球の通過が後述の高確率状態への移行の契機となっている。つまり特定領域３９は、確変作動口となっている。これに対して非特定領域７０は、確変作動口ではない。また、第１大入賞装置３１には、確変作動口としての特定領域は設けられていない。すなわち非特定領域しか設けられていない。

【００４６】

図８に戻り、遊技領域３の左下部や右下部には、普通入賞口２７が設けられている。また遊技領域３の最下部には、遊技領域３へ打込まれたもののいずれの入賞口にも入賞しなかった遊技球を遊技領域３外へ排出するアウト口１６が設けられている。

【００４７】

このように各種の入賞口等が配されている遊技領域３には、左右方向の中央より左側の左遊技領域（第１遊技領域）３Ａと、右側の右遊技領域（第２遊技領域）３Ｂとがある。左遊技領域３Ａを遊技球が流下するように遊技球を発射する打方を、左打ちという。一方、右遊技領域３Ｂを遊技球が流下するように遊技球を発射する打方を、右打ちという。本形態のパチンコ遊技機１では、左打ちにて遊技したときに遊技球が流下し得る流路を、第１流路Ｒ１といい、右打ちにて遊技したときに遊技球が流下する流路を、第２流路Ｒ２という。

【００４８】

第１流路Ｒ１上には、普通入賞口２７と、第１始動口２０と、第２始動口２１と、アウト口１６とが設けられている。遊技者は左打ちをすることで、第１始動口２０への入賞を狙う。なお、第１流路Ｒ１を流下した遊技球が第２始動口２１へ入賞することは、ほとんどないように構成されている。

【００４９】

一方、第２流路Ｒ２上には、第２大入賞装置３６と、第１大入賞装置３１と、普通入賞口２７と、第２始動口２１と、アウト口１６とが設けられている。遊技者は右打ちをすることで、第２大入賞口３５への入賞（特定領域３９への通過）、ゲート２８への通過、又は第１大入賞口３０への入賞を狙う。

【００５０】

また図８に示すように、遊技盤２の左下部には表示器類４０が配置されている。表示器類４０には、図１０に示すように、第１特別図柄（第１識別図柄）を可変表示する第１特別図柄表示器４１ａ、第２特別図柄（第２識別図柄）を可変表示する第２特別図柄表示器４１ｂ、および、普通図柄を可変表示する普通図柄表示器４２が含まれている。また表示器類４０には、第１特別図柄表示器４１ａの作動保留（第１特図保留）の記憶数を表示する第１特図保留表示器４３ａ、第２特別図柄表示器４１ｂの作動保留（第２特図保留）の記憶数を表示する第２特図保留表示器４３ｂ、および、普通図柄表示器４２の作動保留（普図保留）の記憶数を表示する普図保留表示器４４が含まれている。

【００５１】

第１特別図柄の可変表示は、第１始動口２０への遊技球の入賞を契機として行われる。第２特別図柄の可変表示は、第２始動口２１への遊技球の入賞を契機として行われる。な

お以下の説明では、第１特別図柄および第２特別図柄を総称して特別図柄（識別図柄）ということがある。また第１特図保留および第２特図保留を総称して特図保留ということがある。また、第１特別図柄表示器４１ａおよび第２特別図柄表示器４１ｂを総称して特別図柄表示器４１ということがある。また、第１特図保留表示器４３ａおよび第２特図保留表示器４３ｂを総称して特図保留表示器４３ということがある。

【００５２】

特別図柄表示器４１では、特別図柄を可変表示したあと停止表示することにより、第１始動口２０又は第２始動口２１への入賞に基づく抽選（特別図柄抽選、大当たり抽選）の結果を報知する。停止表示される特別図柄（停止図柄、可変表示の表示結果として導出表示される特別図柄）は、特別図柄抽選によって複数種類の特別図柄の中から選択された一つの特別図柄である。停止図柄が予め定めた特定特別図柄（特定の停止態様の特別図柄すなわち大当たり図柄）である場合には、停止表示された特定特別図柄の種類に応じた開放パターンにて第１大入賞口３０又は第２大入賞口３５を開放させる特別遊技（大当たり遊技）が行われる。なお、特別遊技における大入賞口（第１大入賞口３０および第２大入賞口３５）の開放パターンについては後述する。

【００５３】

特別図柄表示器４１は、例えば横並びに配された８個のＬＥＤから構成されており、その点灯態様によって大当たり抽選の結果に応じた特別図柄を表示するものである。例えば大当たり（後述の複数種類の大当たりのうちの一つ）に当選した場合には、「○○●●○○●●」（○：点灯、●：消灯）というように左から１，２，５，６番目にあるＬＥＤが点灯した大当たり図柄を表示する。また、ハズレである場合には、「●●●●●●●○」というように一番右にあるＬＥＤのみが点灯したハズレ図柄を表示する。ハズレ図柄として全てのＬＥＤを消灯させる態様を採用してもよい。また、特別図柄が停止表示される前には所定の変動時間にわたって特別図柄の変動表示（可変表示）がなされるが、その変動表示の態様は、例えば左から右へ光が繰り返し流れるように各ＬＥＤが点灯するという態様である。なお変動表示の態様は、各ＬＥＤが停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、全ＬＥＤが一斉に点滅するなどなんでもよい。

【００５４】

本パチンコ遊技機１では、第１始動口２０又は第２始動口２１への遊技球の入賞（入球）があると、その入賞に対して取得した大当たり乱数等の各種乱数の値（入賞情報）は、特図保留記憶部８５（図３６参照）に一旦記憶される。詳細には、第１始動口２０への入賞であれば第１特図保留として第１特図保留記憶部８５ａ（図３６参照）に記憶され、第２始動口２１への入賞であれば第２特図保留として第２特図保留記憶部８５ｂ（図３６参照）に記憶される。各々の特図保留記憶部８５に記憶可能な特図保留の数には上限があり、本形態における上限値はそれぞれ４個となっている。

【００５５】

特図保留記憶部８５に記憶された特図保留は、その特図保留に基づく特別図柄の可変表示が可能となったときに消化される。特図保留の消化とは、その特図保留に対応する大当たり乱数等を判定して、その判定結果を示すための特別図柄の可変表示を実行することをいう。従って本パチンコ遊技機１では、第１始動口２０又は第２始動口２１への遊技球の入賞に基づく特別図柄の可変表示がその入賞後にすぐに行えない場合、すなわち特別図柄の可変表示の実行中や特別遊技の実行中に入賞があった場合であっても、所定個数を上限として、その入賞に対する大当たり抽選の権利を留保することができるようになっている。

【００５６】

そしてこのような特図保留の数は、特図保留表示器４３に表示される。具体的には特図保留表示器４３は、例えば４個のＬＥＤで構成されており（図１０参照）、特図保留の数だけＬＥＤを点灯させることにより特図保留の数を表示する。

【００５７】

普通図柄の可変表示は、ゲート２８への遊技球の通過を契機として行われる。普通図柄

表示器４２では、普通図柄を可変表示したあと停止表示することにより、ゲート２８への遊技球の通過に基づく普通図柄抽選の結果を報知する。停止表示される普通図柄（普図停止図柄、可変表示の表示結果として導出表示される普通図柄）は、普通図柄抽選によって複数種類の普通図柄の中から選択された一つの普通図柄である。停止表示された普通図柄が予め定めた特定普通図柄（所定の停止態様の普通図柄すなわち普通当たり図柄）である場合には、現在の遊技状態に応じた開放パターンにて第２始動口２１を開放させる補助遊技が行われる。なお、第２始動口２１の開放パターンについては後述する。

【００５８】

普通図柄表示器４２は、例えば２個のＬＥＤから構成されており（図１０参照）、その点灯態様によって普通図柄抽選の結果に応じた普通図柄を表示するものである。例えば抽選結果が当たりである場合には、「○○」（○：点灯、●：消灯）というように両ＬＥＤが点灯した普通当たり図柄を表示する。また抽選結果がハズレである場合には、「●○」というように右のＬＥＤのみが点灯した普通ハズレ図柄を表示する。普通ハズレ図柄として全てのＬＥＤを消灯させる態様を採用してもよい。普通図柄が停止表示される前には所定の変動時間にわたって普通図柄の変動表示（可変表示）がなされるが、その変動表示の態様は、例えば両ＬＥＤが交互に点灯するという態様である。なお変動表示の態様は、各ＬＥＤが停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、全ＬＥＤが一斉に点滅するなどなんでもよい。

【００５９】

本パチンコ遊技機１では、ゲート２８への遊技球の通過があると、その通過に対して取得した普通図柄乱数（当たり乱数）の値は、普図保留記憶部８６（図３６参照）に普図保留として一旦記憶される。普図保留記憶部８６に記憶可能な普図保留の数には上限があり、本形態における上限値は４個となっている。

【００６０】

普図保留記憶部８６に記憶された普図保留は、その普図保留に基づく普通図柄の可変表示が可能となったときに消化される。普図保留の消化とは、その普図保留に対応する普通図柄乱数（当たり乱数）を判定して、その判定結果を示すための普通図柄の可変表示を実行することをいう。従って本パチンコ遊技機１では、ゲート２８への遊技球の通過に基づく普通図柄の可変表示がその通過後にすぐに行えない場合、すなわち普通図柄の可変表示の実行中や補助遊技の実行中に入賞があった場合であっても、所定個数を上限として、その通過に対する普通図柄抽選の権利を留保することができるようになっている。

【００６１】

そしてこのような普図保留の数は、普図保留表示器４４に表示される。具体的には普図保留表示器４４は、例えば４個のＬＥＤで構成されており（図１０参照）、普図保留の数だけＬＥＤを点灯させることにより普図保留の数を表示するものである。

【００６２】

２．右側可動体ユニットの構成

次に図１１～図２６に基づいて、右側可動体ユニット２０２Ｒおよび左側可動体ユニット２０２Ｌの構成を説明する。右側可動体ユニット２０２Ｒは、前枠５３のベース枠５６に図示しないビスにより着脱可能になっている。こうして、本形態の右側可動体ユニット２０２Ｒは、他の部材と連係（係合）せずに着脱可能であるため、故障や点検の際に容易に交換することが可能である。

【００６３】

右側可動体ユニット２０２Ｒは、図１２に示すように、右側ベース部２１０と右側可動体（可動体，演出装置に相当）２０３と外側カバー２０４とを備え、これらが一体としてユニット化されたものである。本形態の右側可動体ユニット２０２Ｒでは、後述するように右側可動体２０３が、手動で前後方向に変位可能に構成されている点に特徴がある（図１６参照）。

【００６４】

まず外側カバー２０４について、図１１および図１２に基づいて説明する。図１１は外

側カバー２０４を右斜め上方から見たときの斜視図である。また、図１２は外側カバー２０４を右方から見た側面図である。樹脂部材からなる板状の外側カバー２０４は、図１１および図１２に示すように、上部から下部にかけて前後方向の幅が徐々に狭くなっている。そのため、例えば図１６に示す、右側可動体２０３が第２位置にあるときのような、右側可動体２０３の後方と右側ベース部との間に隙間が生じている場合には、右方の外部から指や異物などが入ってしまうのを防ぐことが可能となっている。

【００６５】

右側可動体２０３は、図１１に示すように、筒状の形態をなしている。本パチンコ遊技機１では、特別図柄の変動中や、大当たり遊技中に表示演出が実行可能となっている（図４７参照）。なお、右側可動体２０３の詳細構造については、後ほど説明する。

【００６６】

右側ベース部２１０は、図１４に示すように、右ベース本体２１１と、右第１アーム２２１と、右第２アーム２２６と、右ベースカバー２３１と、ラッチ構造体（ラッチ機構に相当）２４０とを備えている。右ベース本体２１１と、右第１アーム２２１と、右第２アーム２２６とは金属からなり、右ベースカバー２３１は樹脂からなる。

【００６７】

右ベース本体２１１は、図１４に示すように、略Ｌ字形状をなしている。具体的には、右ベース本体２１１は、図１４中、左上側から右下側に延びる第１ベース本体部２１２と、その第１ベース本体部２１２の下端から、図１４中、左下側に延びる第２ベース本体部２１３とからなる。第１ベース本体部２１２の背面（図１４中、右上側を向く面）には、前枠５３が当接する。また、第１ベース本体部２１２の上部には、アーム接続部２１２Ｘが設けられている。このアーム接続部２１２Ｘには、右第１アーム２２１が回動可能に接続される。

【００６８】

第２ベース本体部２１３の先端には、可動体接続部２１３Ｘが設けられている。この可動体接続部２１３Ｘには、右側可動体２０３が回動可能に接続される。具体的には、右側可動体２０３の下方に設けられた挿通孔と、可動体接続部２１３Ｘに設けられた挿通孔とを、軸部（不図示）が連結している。このため、右側可動体２０３は、第２ベース本体部２１３の可動体接続部２１３Ｘを中心にして回動可能になっている。

【００６９】

右第１アーム２２１は、中央部の断面がコの字形状になった棒状部材である（図１４参照）。右第１アーム２２１には、図１４に示すように、図中、上側にある第１端部２２１Ｓと、下側にある第２端部２２１Ｔとがある。右第１アーム２２１は、右ベース本体２１１および右第２アーム２２６と回動可能に連結している。なお、右第２アーム２２６については、後ほど説明する。

【００７０】

また、この右第１アーム２２１には、図中、左側を向く側面２２１Ｊに、図中、左上側から右下側に延びる長穴２２１Ｃが設けられている。長穴２２１Ｃは、ラッチ構造体２４０の回動アーム２４３の先端に設けられた突出部２４３Ｔを挿通させるためのものである。このため、右第１アーム２２１が可動すると、それにあわせて突出部２４３Ｔを長穴２２１Ｃに沿って移動させることが可能となっている。そして、突出部２４３Ｔを移動させることによって回動アーム２４３を回動させることが可能となっている。回動アーム２４３の突出部２４３Ｔについては、後ほど説明する。

【００７１】

右第２アーム２２６は、略Ｌ字形状をなしている（図１４参照）。具体的には、右第２アーム２２６は、図中、左上側から右下側に延びる係合部２２７と、その係合部２２７の上端から、図中、左下側に延びる補助係合部２２８とからなる（図１４参照）。係合部２２７には、右側可動体２０３の背面部３０１Ｂ（図１３参照）が当接する。なお、補助係合部２２８は、右側可動体２０３の内部に配置される。つまり、右第２アーム２２６は、係合部２２７および補助係合部２２８を通じて右側可動体２０３を固定している。

【００７２】
この右第２アーム２２６には、係合部２２７の、図中、右下部に、接続部２２７Ｎが設けられている。接続部２２７Ｎには、図中、左上側から右下側に延びる長穴２２７Ｃがある。この長穴２２７Ｃには、右第１アーム２２１の上記第２端部２２１Ｔの挿通孔を挿通する軸部（不図示）が挿通する。よって、右第１アーム２２１と右第２アーム２２６とは、回動可能であるとともに、長穴２２７Ｃに沿って移動可能になっている。このため、右第２アーム２２６が可動すると、それにあわせて軸部を接続部２２７Ｎの長穴２２７Ｃに沿って移動させるとともに、右第１アーム２２１を移動（可動）させることが可能となっている。
【００７３】
右ベースカバー２３１は、右ベース本体２１１の上記第１ベース本体部２１２の前方に配置されている。右側可動体２０３が、直立する状態の位置である第１位置の場合には、右第２アーム２２６の係合部２２７が右ベースカバー２３１のすぐ前方に位置することになる。
【００７４】
本形態では、図１４に示すように、この右ベースカバー２３１の内部、かつ、右ベース本体２１１の前方、かつ、右第１アーム２２１の左方にラッチ構造体２４０を配置している。ラッチ構造体２４０から露出している回動アーム２４３の突出部２４３Ｔが、上述したように右第１アーム２２１の長穴２１２Ｃに左方から挿入されている。
【００７５】
次に、ラッチ構造体２４０について、図１５を用いて説明する。ラッチ構造体２４０は、図１５に示すように、ケース基板部２４１とケース包囲部２４２と回動アーム２４３と板部材２４４と軸部材２４５とコイルスプリング２４６とを備えている。
【００７６】
ケース基板部２４１は、ケース包囲部２４２とともにラッチ構造体２４０のケースをなしている。ケース基板部２４１の内側には、図中、左上から右下に延びる円柱棒状の第１固定部２４１Ａおよび第２固定部２４１Ｂが設けられている。具体的には、これら第１固定部２４１Ａおよび第２固定部２４１Ｂは、ラッチ構造体２４０における軸部材２４５の軸心方向に平行に延びている。第１固定部２４１Ａは、ラッチ構造体２４０にて板部材２４４の第１挿通孔２４４Ａに挿通されるものである。第２固定部２４１Ｂは、ラッチ構造体２４０にて板部材２４４の第２挿通孔２４４Ｂに挿通されるものである。
【００７７】
またケース基板部２４１には、第１固定部２４１Ａと第２固定部２４１Ｂとの間の位置に基板側軸受２４１Ｃが設けられている。この基板側軸受２４１Ｃは、有底円筒状に窪んだ形状であり、軸部材２４５の先端が進入可能になっている。
【００７８】
ケース包囲部２４２には、ケース基板部２４１の上記第１固定部２４１Ａの先端を挿通させるための第１挿通孔２４２Ａと、上記第２固定部２４１Ｂの先端を挿通させるための第２挿通孔２４２Ｂとを備えている。また、第１挿通孔２４２Ａと第２挿通孔２４２Ｂとの間の位置の、ケース包囲部２４２の内側には、包囲側軸受２４２Ｃが設けられている。この包囲側軸受２４２Ｃは、有底円筒状に窪んだ形状であり、軸部材２４５の先端が進入可能になっている。
【００７９】
板部材２４４には、図１５中、左上側に第１挿通孔２４４Ａが、右下側に第２挿通孔２４４Ｂがそれぞれ設けられている。第１挿通孔２４４Ａは、ケース基板部２４１の上記第１固定部２４１Ａを挿通させるためのものであり、第２挿通孔２４４Ｂは、上記第２固定部２４１Ｂを挿通させるためのものである。
【００８０】
板部材２４４は、図１５に示すように、ラッチ構造体２４０において、軸部材２４５の軸心方向に直交する状態で配置される。このような板部材２４４の複数の挿通孔（第１挿

通孔２４４Ａ，第２挿通孔２４４Ｂ）にそれぞれ固定部（第１固定部２４１Ａ，第２固定部２４１Ｂ）を挿通させることで、軸部材２４５を中心とした回動アーム２４３の回動に伴って、その軸部材２４５の直交方向に板部材２４４が移動するのを防止可能となっている。

【００８１】

また、板部材２４４には、第１挿通孔２４４Ａと第２挿通孔２４４Ｂとの間の位置に、図中、左上側から右下側に円盤状に隆起した隆起部２４４Ｒが設けられている。この隆起部２４４Ｒの中央には、軸部材２４５を貫通可能な板側貫通孔２４４Ｃが、また、隆起部２４４Ｒの周縁表面には、複数の板側表面突起２４４Ｋが形成されている（図１５参照）。

【００８２】

板側表面突起２４４Ｋは、図１５に示すように、回動アーム２４３側に突出したものである。具体的には、２つの斜面部２４４Ｓと頂部２４４Ｔとからなる山形形状をなしている。

【００８３】

なお、上記板部材２４４では、第１挿通孔２４４Ａの内径を、円柱棒状の第１固定部２４１Ａの外径よりも大きく、第２挿通孔２４４Ｂの内径を、円柱棒状の第２固定部２４１Ｂの外径よりも大きくしている。また、板側貫通孔２４４Ｃの内径を、軸部材２４５の外径よりも大きくしている。このため、板部材２４４は、ラッチ構造体２４０内にて、軸部材２４５の軸心方向に沿って移動可能になっている。

【００８４】

回動アーム２４３は、図１５中、上下方向に延びるアーム部２４３Ｘと、アーム部２４３Ｘの下端に位置し、アーム部２４３Ｘから図１５中、右下側に突出する突出部２４３Ｔと、アーム部２４３Ｘの上端に位置する当接端部２４３Ｚとを備えている。突出部２４３Ｔは、上述した右第１アーム２２１の長穴２２１Ｃに挿通可能な円柱形状をなしている。

【００８５】

当接端部２４３Ｚは、上記板部材２４４の隆起部２４４Ｒに当接する部位である。この当接端部２４３Ｚは、板部材２４４の隆起部２４４Ｒと同径の円形形状をなしている。当接端部２４３Ｚの中央には、上記軸部材２４５を貫通可能なアーム側貫通孔２４３Ｃが形成されている。また、板部材２４４に面する表面の周縁には、複数のアーム側表面突起２４３Ｋが形成されている（図１５参照）。

【００８６】

アーム側表面突起２４３Ｋは、図１５に示すように、板部材２４４側に突出したものである。具体的には、上述した板側表面突起２４４Ｋと同様、２つの斜面部２４３Ｍと頂部２４３Ｎとからなる山形形状をなしている。

【００８７】

本形態では、板側表面突起２４４Ｋとアーム側表面突起２４３Ｋとが互いに噛み合う構成になっている。すなわち、隣り合う板側表面突起２４４Ｋの間にアーム側表面突起２４３Ｋが、また、隣り合うアーム側表面突起２４３Ｋの間に板側表面突起２４４Ｋが配置されるようになっている。このように板側表面突起２４４Ｋとアーム側表面突起２４３Ｋとが噛み合っている場合には、噛み合っていない場合よりも、軸部材２４５を中心に回動アーム２４３が回動し難くなっている。

【００８８】

コイルスプリング２４６は、板部材２４４を付勢するためのものである。このコイルスプリング２４６は、ラッチ構造体２４０においては、軸部材２４５を挿通した状態でケース基板部２４１と板部材２４４との間に配置される。このとき、軸部材２４５の軸心方向に圧縮された状態（具体的には、図１５中に示す自然長よりも圧縮された状態）で配置されることになる。よって、ラッチ構造体２４０において、コイルスプリング２４６は、板部材２４４について、図中、左上側から右下側に付勢可能となる。従って、ラッチ構造体２４０において、アーム側表面突起２４３Ｋと板側表面突起２４４Ｋとが噛み合っている

ときには、コイルスプリング２４６の付勢によって、板部材２４４が回動アーム２４３側に寄せられて、アーム側表面突起２４３Ｋと板側表面突起２４４Ｋとの噛み合いが解除され難くなっている。

【００８９】

なお、本形態では、アーム側表面突起２４３Ｋとアーム側表面突起２４４Ｋとが噛み合っているときのコイルスプリング２４６は、軸部材２４５の軸心方向に沿ってさらに圧縮可能になっている。具体的には、ラッチ構造体２４０において、アーム側表面突起２４３Ｋと板側表面突起２４４Ｋとが噛み合っているときの板部材２４４とケース基板部２４１との離間距離を、コイルスプリング２４６がさらに圧縮可能な距離にしている。

【００９０】

アーム側表面突起２４３Ｋと板側表面突起２４４Ｋとが噛み合っているときに、回動アーム２４３が軸部材２４５を中心に回動し始めると、アーム側表面突起２４３Ｋの斜面部２４３Ｍが板側表面突起２４４Ｋの斜面部２４４Ｍを押圧することになる。なお、アーム側表面突起２４３Ｋの斜面部２４３Ｍおよび板側表面突起２４４Ｋの斜面部２４４Ｍはいずれも、回動アームの移動方向（回動方向）に対して傾いた面をなしている。また、上述したように、板側表面突起２４４Ｋを備える板部材２４４は軸心方向に移動可能である。さらに、表面突起２４３Ｋ，２４４Ｋ同士が噛み合っているときのコイルスプリング２４６は、軸部材２４５の軸心方向に沿ってさらに圧縮可能となっている。従って、アーム側表面突起２４３Ｋの斜面部２４３Ｍによる板側表面突起２４４Ｋの斜面部２４４Ｍへの押圧力が、コイルスプリング２４６の付勢力に抗して、板部材２４４をケース基板部２４１側に移動させながら、回動アーム２４３が回動することになる。

【００９１】

さらに、回動アーム２４３の回動が続いて、アーム側表面突起２４３Ｋの頂部２４３Ｎが板側表面突起２４４Ｋの頂部２４４Ｎを超えると、アーム側表面突起２４３Ｋの斜面部２４３Ｍによる板側表面突起２４４Ｋの斜面部２４３Ｍへの押圧力は無くなり、コイルスプリング２４６の付勢力によって、アーム側表面突起２４３Ｋと板側表面突起２４４Ｋとが噛み合うよう回動アーム２４３を回動させる。かくして、ラッチ構造体２４０は、アーム側表面突起２４３Ｋの突起１つ分の移動が可能となっている。

【００９２】

本形態で、右側可動体２０３は、図１６に示すように、第１位置、第２位置又は第３位置に配置される。第１位置とは、右側可動体２０３が、直立した状態になる位置である。すなわち、前面部３０１Ｆが前方を向く状態になる位置である。第２位置とは、右側可動体２０３が、後方から前方にかけて下向きに傾斜した状態となる位置である。すなわち、第１位置から角度θ２（具体的には２４度）、後方から前方にかけて下向きに傾倒した位置である。第３位置とは、第１位置と第２位置との間の中間位置にあたる。すなわち、第１位置から角度θ３（具体的には１２度）、後方から前方にかけて傾倒した位置である。また、第２位置から角度θ４（具体的には１２度）、前方から後方にかけて上向きに立ち上がった位置である。

【００９３】

なお本形態では、ラッチ構造体２４０のアーム側表面突起２４３Ｋ（板側表面突起２４４Ｋ）の突起１つ分の移動で、右側可動体２０３について第１位置と第３位置との間を変位可能となっている。また、右側可動体２０３について第２位置と第３位置との間を変位可能となっている。また、ラッチ構造体２４０のアーム側表面突起２４３Ｋ（板側表面突起２４４Ｋ）の突起２つ分の移動で、右側可動体２０３について第１位置と第２位置との間を変位可能となっている。

【００９４】

遊技場（ホール）では通常、図１７に示すように、複数の本パチンコ遊技機１が横に並んでいる。そして、図１８に示すように、２台のパチンコ遊技機１のうち、右隣のものの開閉枠ＫＷが開いた場合には、左隣のものの右側可動体２０３が第２位置（二点鎖線）にあると、右隣の例えば中央可動体ユニット２０１が右側可動体２０３に衝突してしまう場

合がある。
【００９５】
これに対し、右側可動体２０３は、第２位置から第１位置又は第３位置に変位させることで、右隣のパチンコ遊技機１の開閉枠ＫＷが開いたときに、右側可動体２０３への衝突を回避可能となっている。
【００９６】
また、右側可動体２０３が変位可能な複数の位置として、第１位置と第２位置との間の中間位置にあたる第３位置がある（図１６参照）。よって、右側可動体２０３を第１位置に配置すると右側可動体２０３の後方にあるホール設備に干渉してしまう場合には、第１位置を除いた、第２位置と第３位置との間で右側可動体２０３を変位させることが可能となっている。従って、右隣のパチンコ遊技機１の開閉枠ＫＷが開くときに、第２位置から第３位置に右側可動体２０３を変位させることで、その右側可動体２０３への衝突を回避可能となっている。
【００９７】
また、遊技機枠５０は、第１位置および第２位置を含む複数の位置に右側可動体２０３を固定し得るラッチ構造体２４０を備えているので、右側可動体２０３を変位させる際に、第１位置、第２位置又は第３位置といった所定の位置に右側可動体２０３を配置させ易い。
【００９８】
ところで、左側に配された回動軸を中心として開閉枠ＫＷが開く場合に、左側可動体２５３および右側可動体２０３のうち、回動軸に遠い遊技機枠５０の右側に配置されている右側可動体２０３の方が、左側可動体２５３よりも、右隣のパチンコ遊技機１の開いた開閉枠ＫＷが衝突しやすい。
【００９９】
これに対し、本パチンコ遊技機１では、回動軸に遠い右側に配置された右側可動体２０３について、第２位置から第３位置、又は第１位置に変位可能になっている。このため、右隣のパチンコ遊技機１の開閉枠ＫＷが開くときに第２位置から第１位置に右側可動体２０３を変位させることで、右側可動体２０３への衝突を回避可能となっている。
【０１００】
３．左側可動体ユニットの構成
次に左側可動体ユニット２０２Ｌの構成を説明する。左側可動体ユニット２０２Ｌは、前枠５３のベース枠５６に図示しないビスにより着脱可能になっている。こうして、本形態の左側可動体ユニット２０２Ｌは、他の部材と連係（係合）せずに着脱可能であるため、故障や点検の際に容易に交換することが可能である。
【０１０１】
左側可動体ユニット２０２Ｌは、図１９に示すように、左側ベース部（変位機構に相当）２６０と左側可動体（可動体，演出装置に相当）２５３と外側カバー２５４とを備え、これらが一体としてユニット化されたものである。本形態の左側可動体ユニット２０２Ｌでは、後述するように左側可動体２５３が、開閉枠ＫＷの開閉によって前後方向に変位可能に構成されている点に特徴がある（図２６参照）。
【０１０２】
まず外側カバー２５４について、図２０に基づいて説明する。図２０は外側カバー２５４を左方から見た側面図である。樹脂部材からなる板状の外側カバー２５４は、図２０に示すように、上部から下部にかけて前後方向の幅が徐々に狭くなっている。そのため、例えば図２４に示す、左側可動体２５３が第２位置にあるときのような、左側可動体２５３の後方と左側ベース部との間に隙間が生じている場合には、左方の外部から指や異物などが入ってしまうのを防ぐことが可能となっている。
【０１０３】
左側可動体２５３は、図１９に示すように、筒状の形態をなしている。本パチンコ遊技機１では、特別図柄の変動中や、大当たり遊技中に表示演出が実行可能となっている（図

４７参照）。なお、左側可動体２５３の構造については、後ほど詳述する。

【０１０４】

左側ベース部２６０は、図２１および図２２に示すように、左ベース本体２６１と、左第１アーム２６６と、左第２アーム２７１と、左第３アーム２７６と、第１補強アーム２８１と、第２補強アーム２８６と、左ベースカバー２９１と、台座２９５と、コイルスプリング２９９とを備えている。左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６は位置変更部材、コイルスプリング２９９は、誘導部材，付勢部材にそれぞれ相当する。左ベース本体２６１と、左第２アーム２７１と、左第３アーム２７６と、第１補強アーム２８１と、第２補強アーム２８６と、台座２９５とは金属からなり、左ベースカバー２９１は樹脂からなる。

【０１０５】

左ベース本体２６１は、略Ｌ字形状をなしている（図２２参照）。具体的には、左ベース本体２６１は、上下方向に延びる第１ベース本体部２６２と、その第１ベース本体部２６２の下端から前方に延びる第２ベース本体部２６３とからなる（図２２参照）。第１ベース本体部２６２は、前枠５３のベース枠５６と当接する。また、第１ベース本体部２６２の上部には、アーム接続部２６２Ｘが設けられている。このアーム接続部２６２Ｘには、左第１アーム２６６および第１補強アーム２８１が回動可能に接続される。具体的には、アーム接続部２６２Ｘに設けられた挿通孔と、左第１アーム２６６の先端部２６６Ｓに設けられた挿通孔と、第１補強アーム２８１の第１先端部２８１Ｘに設けられた挿通孔とを、軸部（不図示）で連結している。このため、第１ベース本体部２６２のアーム接続部２６２Ｘは、左第１アーム２６６および第１補強アーム２８１の回動中心になっている。つまり、そのアーム接続部２６２Ｘを中心にして、左第１アーム２６６および第１補強アーム２８１が回動可能になっている。

【０１０６】

また、第２ベース本体部２６３の先端には、台座接続部２６３Ｘが設けられている。この台座接続部２６３Ｘには、台座２９５および左第３アーム２７６が回動可能に接続される。具体的には、台座接続部２６３Ｘに設けられた挿通孔と、台座２９５の支持部２９５Ｅに設けられた挿通孔と、左第３アーム２７６の第１接続部２７６Ｆに設けられた挿通孔とを、軸部（不図示）を用いて連結している。このため、第２ベース本体部２６３の台座接続部２６３Ｘは、台座２９５および左第３アーム２７６の回動中心になっている。つまり、その台座接続部２６３Ｘを中心にして、台座２９５および左第３アーム２７６が回動可能になっている。

【０１０７】

また、第２ベース本体部２６３には、図２２に示すように、図中、左上側の後端から、図中、左下側に延出した係止部２６３Ｗが設けられている。この係止部２６３Ｗは、図２３および図２４に示すように、コイルスプリング２９９の一端部を取り付けるための部位である。

【０１０８】

左第１アーム２６６は、図２２中、上下方向に延びる部材である。この左第１アーム２６６は、図２２中、下側に先端部２６６Ｓを備えている。この先端部２６６Ｓは、上述したように、第１ベース本体部２６２および第１補強アーム２８１に対して回動可能になっている。

【０１０９】

また、左第１アーム２６６は、図２２中、上側に被押圧部２６６Ｔを備えている。被押圧部２６６Ｔは、内枠５２に設けられた上記の押圧部材５８によって押圧され得る。本形態では、左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔが押圧部材５８に押圧されると、それに伴い左第１アーム２６６が可動する構成になっている。具体的には、押圧部材５８の被押圧部２６６Ｔへの押圧によって、左第１アーム２６６が前方に可動する構成になっている。

【０１１０】

さらに、左第１アーム２６６には、先端部２６６Ｓと被押圧部２６６Ｔとの中間の位置に押圧部２６６Ｒが形成されている。押圧部２６６Ｒは、左第２アーム２７１の被押圧部２７１Ｒを押圧可能な部位である。本形態では、押圧部材５８の押圧によって、左第１アーム２６６が前方に可動した場合には、その左第１アーム２６６の押圧部２６６Ｒが左第２アーム２７１の被押圧部２７１Ｒを前方に押圧する。なお、左側ベース部２６０において、押圧部材５８の押圧に伴う、被押圧部２６６Ｔや押圧部２６６Ｒを含んだ左第１アーム２６６の動きについては、後ほど詳述する。

【０１１１】

左第２アーム２７１は、図２２中、上下方向に延びる部材である。この左第２アーム２７１は、図２２中、上側に第１先端部２７１Ｐ、および、図中、下側に第２先端部２７１Ｑを備えている。また、これら第１先端部２７１Ｐおよび第２先端部２７１Ｑとの間に、左第１アーム２６６に押圧され得る被押圧部２７１Ｒがある。

【０１１２】

第１先端部２７１Ｐは、左ベースカバー２９１に回動可能に接続されている。具体的には、第１先端部２７１Ｐに設けられた挿通孔と、左ベースカバー２９１に設けられた挿通孔とを、軸部（不図示）を用いて連結している。なおこのとき、図２３に示すように、左ベースカバー２９１の内側に第１先端部２７１Ｐが配置されている。かくして、第１先端部２７１Ｐを中心にして、左ベースカバー２９１に対して左第２アーム２７１が回動可能になっている。

【０１１３】

また、左第２アーム２７１の第２先端部２７１Ｑには、図中、左上側から右下側に延びる長穴２７１Ｃが設けられている。この長穴２７１Ｃは、左第３アーム２７６の第２接続部２７６Ｊの挿通孔とともに軸部（不図示）を用いて連結される。よって、左第２アーム２７１と左第３アーム２７６とは、回動可能であるとともに、長穴２７１Ｃに沿って移動可能になっている。このため、左第２アーム２７１が可動すると、それにあわせて軸部を長穴２７１Ｃに沿って移動させるとともに、左第３アーム２７６を移動（可動）させることが可能となっている。なお、左側ベース部２６０において、押圧部材５８の押圧に伴う左第２アーム２７１の動きについては、後ほど詳述する。

【０１１４】

左第３アーム２７６は、図２２中、左上側から右下側に延びる部材である。左第３アーム２７６には、図中、右下側の先端に位置する先端部２７６Ｇと、その先端部２７６Ｇよりも、図中、左上側に位置する第１接続部２７６Ｆと、図中、左上側の後端から上方に突出する第２接続部２７６Ｊと、後端から、図中、左側に延出した係止部２７６Ｕとがある。

【０１１５】

先端部２７６Ｇは、台座２９５の前方の部位を下方から支持可能な部位である。この先端部２７６Ｇがどの位置にあるかによって、台座２９５がとれる姿勢（第１姿勢，第２姿勢）が決まる。また、係止部２７６Ｕは、図２３および図２４に示すように、コイルスプリング２９９の一端部を取り付けるための部位である。なお、左側ベース部２６０において、先端部２７６Ｇの位置による台座２９５の姿勢については、後ほど詳述する。

【０１１６】

また、第１接続部２７６Ｆは、上述したように、第１ベース本体部２６２および台座２９５に対して回動可能に配置されている。また、第２接続部２７６Ｊは、上述したように、軸部（不図示）を用いて、左第２アーム２７１の長穴２７１Ｃに連結されている。よって、第２接続部２７６Ｊは、左第２アーム２７１の長穴２７１Ｃ内を移動したり回動したりすることが可能である。なお、左側ベース部２６０において、押圧部材５８の押圧に伴う左第３アーム２７６の動きについては、後ほど詳述する。

【０１１７】

第１補強アーム２８１は、図２２中、左上側から右下側に延びる部材である。この第１補強アーム２８１は、図２２に示すように、第１先端部２８１Ｘ、および、第２先端部２

８１Ｙを備えている。第１先端部２８１Ｘは、上述したように、第１ベース本体部２６２および左第１アーム２６６に対して回動可能になっている。

【０１１８】

また、第２先端部２８１Ｙには、第２補強アーム２８６が回動可能に接続される。具体的には、第２先端部２８１Ｙに設けられた挿通孔と、第２補強アーム２８６の第１先端部２８６Ｍに設けられた挿通孔とを、軸部（不図示）を用いて連結している。このため、第１補強アーム２８１の第２先端部２８１Ｙを中心にして、第２補強アーム２８６が回動可能になっている。

【０１１９】

第２補強アーム２８６は、図２２中、左上側から右下側に延びる部材である。この第２補強アーム２８６は、図２２に示すように、第２先端部２８６Ｍ、および、第２先端部２８６Ｎを備えている。第１先端部２８６Ｍは、上述したように、第１補強アーム２８１に対して回動可能になっている。また、第２先端部２８６Ｎは、左側可動体２５３の背面２５３Ｙに設けられた接続部（不図示）に回動可能に接続されている。

【０１２０】

なお、本形態では、第１補強アーム２８１の第２先端部２８１Ｙと、第２補強アーム２８６の第１先端部２８６Ｍとを連結する軸部に、図２２に示すねじれスプリングＳＰを挿通させた構成になっている。具体的には、第１補強アーム２８１の第２先端部２８１Ｙの内側にねじれスプリングＳＰを配置した状態で、軸部が、第２先端部２８１Ｙの挿通孔、第１先端部２８６Ｍの挿通孔、および、ねじれスプリングＳＰをいずれも挿通している。このとき、ねじれスプリングＳＰの一端部が第１補強アーム２８１の内側に係止され、他端部が第２補強アーム２８６の内側に係止される。このようなねじれスプリングＳＰによって、第１補強アーム２８１と第２補強アーム２８６とは、第２先端部２８１Ｙおよび第１先端部２８６Ｍで屈曲している状態よりも屈曲していない状態になり易い。すなわち、第１補強アーム２８１と第２補強アーム２８６とは、第２先端部２８１Ｙおよび第１先端部２８６Ｍで屈曲している場合には、ねじれスプリングＳＰの付勢力が第１補強アーム２８１および第２補強アーム２８６に働いて、第２先端部２８１Ｙおよび第１先端部２８６Ｍで屈曲していない状態になる。

【０１２１】

よって、例えば図２３や図２４に示す、第１補強アーム２８１および第２補強アーム２８６が第２先端部２８１Ｙおよび第１先端部２８６Ｍで屈曲している状態では、ねじれスプリングＳＰが、第１補強アーム２８１と第２補強アーム２８６とが屈曲しない状態になるよう、第１補強アーム２８１および第２補強アーム２８６を付勢する。このため、図２３や図２４に示すように、第１補強アーム２８１および第２補強アーム２８６が屈曲した状態では、第２補強アーム２８６が左側可動体２５３を後方から前方に向けて押圧することになる。つまり、本形態では、図２３に示す状態でも図２４に示す状態でも、左側可動体２５３には、前方に倒れて第２位置になるような力がかかっている。

【０１２２】

図２２に戻り、左ベースカバー２９１は、左ベース本体２６１の上記第１ベース本体部２６２の上部を包囲しつつ配置されている。左側可動体２５３が、直立する状態の位置である第１位置の場合には、その左側可動体２５３の背面２５３Ｙが左ベースカバー２９１のすぐ前方に位置することになる。

【０１２３】

本形態では、図２１や図２３や図２４に示すように、この左ベースカバー２９１の内部に左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔおよび左第２アーム２７１の第１先端部２７１Ｐを配置している。

【０１２４】

台座２９５は、板状形状の台座本体部２９５Ｂと、この台座本体部２９５Ｂから、図２２中、下方に延出する支持部２９５Ｅとを備えている。台座本体部２９５Ｂの、図中、上側には、左側可動体２５３が固定配置される。また、支持部２９５Ｅは、上述したように

、第１ベース本体部２６１および左第３アーム２７６に対して回動可能になっている。よって、台座２９５は、左側可動体２５３の変位（移動）とともに、姿勢を変えることが可能となっている。なお、左側可動体２５３の変位（移動）による台座２９５の姿勢については、後ほど詳述する。

【０１２５】

図２３および図２４を用いて、押圧部材５８によって被押圧部２６６Ｔが押圧されないとき、および、押圧されるときの左側ベース部２６０の状態を説明する。図２３に示すように、内枠５２が開いていて、押圧部材５８によって被押圧部２６６Ｔが押圧されないときには、左第１アーム２６６のうち、被押圧部２６６Ｔが最も後方に配置される。このため、左第１アーム２６６が左第２アーム２７１を前方に押圧しないので、左第２アーム２７１がコイルスプリング２９９によって下方にひっぱられた状態になる。この状態では、左第３アーム２７６の第２接続部２７６Ｊが上方に持ち上げられないため、左第３アーム２７６の先端部２７６Ｇが台座２９５を第１姿勢に保持する。第１姿勢とは、左側可動体２５３を直立した状態になる第１位置にする姿勢をさす。また、図２３に示す左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６の状態を「第１状態」ともいう。

【０１２６】

一方、図２４に示すように、内枠５２が閉じて、押圧部材５８によって被押圧部２６６Ｔが押圧されると、それに伴い、左第１アーム２６６が前方に移動して、左第２アーム２７１を前方に押圧する。そして、コイルスプリング２９９の張力に抗して、左第２アーム２７１が前方に移動するとともに、左第３アーム２７６の第２接続部２７６Ｊが上方に持ち上げられる（図２４参照）。これにより、左第３アーム２７６の先端部２７６Ｇが台座２９５を第２姿勢に変化させる。第２姿勢とは、左側可動体２５３を後方から前方にかけて下向きに傾斜した状態になる第２位置にする姿勢をさす。なお、図２４に示す左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６の状態を「第２状態」ともいう。また、第２位置とは、左側可動体２５３が、第１位置から角度θ５（具体的には２４度）、後方から前方にかけて下向きに傾倒した位置である。

【０１２７】

なお本形態では、台座２９５は、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６が図２４に示す第２状態のときに、第２位置から第１位置に左側可動体２５３が変位した場合には、その変位とともに、第２姿勢から第１姿勢に変更され得る。具体的には、図２５に示すように、左側可動体２５３が後方に移動しても、台座２９５は、台座接続部２６３Ｘを中心に回動して、左第３アーム２７６の先端部２７６Ｇから離間する。このとき、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６について第２状態を保持できる（図２５参照）。また、押圧部材５８も被押圧部２６６Ｔを押圧した状態を保持できる。

【０１２８】

従って、例えば遊技者によって、第２位置にある左側可動体２５３が第１位置に故意に変位させられたとしても、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６について第２状態のままとし、押圧部材５８について左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔを押圧した状態のままとすることが可能となっている。つまり、第２位置にある左側可動体２５３にそのような変位が生じた場合でも、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６や押圧部材５８に無理な力が掛かって不具合が発生するのを防止可能となっている。

【０１２９】

次に、開閉枠ＫＷの開閉に伴う左側可動体２５３の変位について、図２６を用いて説明する。図２６（Ｄ）に示すように、開閉枠ＫＷのうちの前枠５３が開いている場合には、左側可動体２５３は第１位置にある（図２６（Ａ）参照）。これは、前枠５３が開いていることで、左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔが押圧部材５８に押圧されず、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６が第１状態（図２３）にな

っているためである。
【０１３０】
図２６（Ｅ）に示すように、開いていた前枠５３が閉じると（但し、内枠５２も閉じているときには）、左側可動体２５３は、第１位置から第２位置に変位する（図２６（Ｂ）参照）。これは、前枠５３が閉じることで、左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔが押圧部材５８によって押圧されることになり、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６が第２状態（図２４）になるためである。
【０１３１】
左側可動体２５３が第２位置にあるときに前枠５３が開くと（図２６（Ｆ）参照）、左側可動体２５３は、第２位置から第１位置に変位する（図２６（Ｃ）参照）。これは、前枠５３が開くことで、左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔが押圧部材５８に押圧されなくなり、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６が第１状態（図２３）になるためである。
【０１３２】
なお、図２６を用いて、開閉枠ＫＷのうちの前枠５３の開閉に伴う左側可動体２５３の変位について説明したが、開閉枠ＫＷのうちの内枠５２の開閉に伴う左側可動体２５３の変位は、以下の通りである。
【０１３３】
すなわち、前枠５３の開閉によらず、内枠５２が開いている場合には、左側可動体２５３は第１位置にある（図２６（Ａ）参照）。これは、内枠５２が開いていることで、左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔが押圧部材５８に押圧されず、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６が第１状態（図２３）になっているためである。
【０１３４】
開いていた内枠５２が閉じると（但し、前枠５３も閉じているときには）、左側可動体２５３は、第１位置から第２位置に変位する（図２６（Ｂ）参照）。これは、内枠５２が閉じることで、左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔが押圧部材５８によって押圧されることになり、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６が第２状態（図２４）になるためである。
【０１３５】
左側可動体２５３が第２位置にあるときに内枠５２が開くと、左側可動体２５３は、第１位置に変位する（図２６（Ｃ）参照）。これは、内枠５２が開くことで、左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔが押圧部材５８に押圧されなくなり、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６が第１状態（図２３）になるためである。
【０１３６】
４．可動体（右側可動体２０３，左側可動体２５３）の構成
次に、図２７～図３５を用いて、可動体（右側可動体２０３，左側可動体２５３）について説明する。本形態では、右側可動体２０３および左側可動体２５３は、ほぼ同じ構造になっているため、以下では、右側可動体２０３を中心に説明する。
【０１３７】
右側可動体２０３は、回転体３１０と、回転体３１０の内側に配置された光源部３４０と、回転体３１０の下方に配置された台座部３０５と、台座部３０５とともに回転体３１０を包囲する外周部３００とを備えている。
【０１３８】
外周部３００は、プラスチック製であり、筒状をなしている側面部３０１と、この側面部３０１の上方に位置し、側面部３０１を閉塞する天井部３０２とを備えている（図１１、図１２および図１３参照）。天井部３０２は、回転体３１０を軸支可能な構造になっている。すなわち、天井部３０２の内側には、回転体３１０の上側回転体３２０の円形突出部３２６Ｘ（図２９参照）を軸支可能な軸受部（不図示）が形成されている。このため、回転体３１０の上側回転体３２０が、回転軸を中心にして回転可能になっている。上側回

転体３２０および円形突出部３２６Ｘについては、後ほど説明する。
【０１３９】
また、側面部３０１には、前側に配置された前面部３０１Ｆと、後側に配置された背面部３０１Ｂとがある（図１１参照）。前面部３０１Ｆは、無色透明な部材からなる。よって、この前面部３０１Ｆを通して、外周部３００内の回転体３１０の各表示部を遊技者に視認させることが可能となっている。また、回転体３１０が回転移動するのを遊技者に視認させることが可能となっている。回転体３１０の表示部については、後ほど説明する。
【０１４０】
また、背面部３０１Ｂには、上述した本体２１０の右第２アーム２２６が係合する（図１２および図１３参照）。
【０１４１】
回転体３１０は、２つの回転体（上側回転体３２０および下側回転体３３０）からなる。具体的には、図２７および図２８に示すように、上側回転体（構造体、第１構造体に相当）３２０は、外見上、回転体３１０の上側半分をなしているものであり、下側回転体（構造体、第２構造体に相当）３３０は、外見上、回転体３１０の下側半分をなしているものである。
【０１４２】
上側回転体３２０は、図２９に示すように筒状をなしている。本体部３２５と、この本体部３２５の上部に配置された４つの上側表示部（上側第１表示部３２１、上側第２表示部３２２、上側第３表示部３２３および上側第４表示部３２４）と、これら上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４の上方に配置された板状の固定部３２６とを備えている。
【０１４３】
４つの上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４はいずれも、透光可能な部位を備えている。よって、上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４は、その透光可能な部位を通じて、背後側からの光が透過可能になっている。
【０１４４】
具体的に、上側第１表示部（第１表示部に相当）３２１は、図２７に示すように、透光可能な概矩形状のレンズ部（第１レンズ部に相当）３２１Ｘと、このレンズ部３２１Ｘの外周に位置し、透光不能な不透光部３２１Ｙとを備えている。このレンズ部３２１Ｘは、上側第１表示部３２１において概矩形状の窓を模した表示形態をなしている。
【０１４５】
上側第２表示部（第２表示部に相当）３２２は、図２８に示すように、透光可能な第１部分レンズ部３２２Ｄ、第２部分レンズ部３２２Ｅ、第３部分レンズ部３２２Ｆおよび第４部分レンズ部３２２Ｇと、これら部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇの外周をなす、透光不能な不透光部３２２Ｙとを備えている。第１部分レンズ部３２２Ｄ、第２部分レンズ部３２２Ｅ、第３部分レンズ部３２２Ｆおよび第４部分レンズ部３２２Ｇは、「第２レンズ部」、「レンズ部」にそれぞれ相当する。
【０１４６】
これら第１部分レンズ部３２２Ｄ、第２部分レンズ部３２２Ｅ、第３部分レンズ部３２２Ｆおよび第４部分レンズ部３２２Ｇは、上側第２表示部３２２において「７セグメント」の４つ分のセグメントを模した表示形態をなしている。つまり、上側第１表示部３２１におけるレンズ部３２１Ｘの表示態様とは異なっている。なお、表示形態が異なるとは、形状、色彩および大きさの少なくともいずれかが異なることをいう。
【０１４７】
上側第３表示部３２３は、図２８に示すように、透光可能なレンズ部３２３Ｘと、このレンズ部３２３Ｘの外周に位置し、透光不能な不透光部３２３Ｙとを備えている。このレンズ部３２３Ｘは、上側第３表示部３２３において文字「激」を模した表示形態をなしている。
【０１４８】
上側第４表示部３２４は、図２７に示すように、透光可能なレンズ部３２４Ｘと、この

レンズ部３２４Ｘの外周に位置し、透光不能な不透光部３２４Ｙとを備えている。このレンズ部３２４Ｘは、上側第４表示部３２４において文字「Ｖ」の上半分を模した表示形態をなしている。

【０１４９】

また、本体部３２５は、無色透明のプラスチックからなる筒状のものである。この本体部３２５は、後述の切替機構３７０によって、回転軸を中心に回転可能となっている。この本体部３２５は、図２９に示すように、その回転軸を含む内側に光源部３４０を配置している。このため、光源部３４０のＬＥＤ３６５から光が発光されると、その光は本体部３２５の内側から外側に向けて照射される。

【０１５０】

なお、本体部３２５の外側の上部には、４つの上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４がそれぞれ固定されている。図２７および図２８に示すように、上側回転体３２０は、４つの上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４を四方に配置した構造になっている。つまり、４つの上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４が、上側回転体３２０の上部の周壁ＵＷをなしている。

【０１５１】

よって、上側回転体３２０の上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４のいずれかの上側表示部が、光源部３４０のＬＥＤ３６５の前方に配置された場合には、その上側表示部の背後からの光がその上側表示部の透光部に透過し得る。

【０１５２】

また、本体部３２５の突出部３２５Ｘが、後述の上側回転盤３７７の本体部３７７Ａに嵌合可能となっている。よって、上側回転盤３７７の回転動作に伴って、上側回転体３２０が回転可能となっている。

【０１５３】

また、固定部３２６は、上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４を本体部３２５に固定するための部材である。この固定部３２６には、下方から上方に、円管状に突出する円形突出部３２６Ｘが設けられている。この円形突出部３２６Ｘは、上述の外周部３００の天井部３０２に軸支される。

【０１５４】

次に、下側回転体３３０について説明する。この下側回転体３３０は、図２９に示すように、有底筒状をなしている。矩形板状の底部３３５と、この底部３３５の４つの端に配置された４つの下側表示部（下側第１表示部３３１、下側第２表示部３３２、下側第３表示部３３３および下側第４表示部３３４）とを備えている。

【０１５５】

４つの下側表示部３３１，３３２，３３３，３３４はいずれも、透光可能な部位を備えている。よって、上述した上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４と同じく、下側表示部３３１，３３２，３３３，３３４は、その透光可能な部位を通じて、背後側からの光が透過可能になっている。

【０１５６】

具体的に、下側第１表示部（第１表示部に相当）３３１は、図２７に示すように、透光可能な概矩形状のレンズ部（第１レンズ部に相当）３３１Ｘと、このレンズ部３３１Ｘの外周に位置し、透光不能な不透光部３３１Ｙとを備えている。このレンズ部３３１Ｘは、下側第１表示部３３１において概矩形状の窓を模した表示形態をなしている。下側第１表示部３３１については、後ほど詳述する。

【０１５７】

下側第２表示部（第２表示部、表示部に相当）３３２は、図２８に示すように、透光可能な第１部分レンズ部３３２Ｄ、第２部分レンズ部３３２Ｅおよび第３部分レンズ部３３２Ｆと、これら部分レンズ３３２Ｄ，３３２Ｅ，３３２Ｆの外周をなす、透光不能な不透光部材３３２Ｙとを備えている。第１部分レンズ部３３２Ｄ、第２部分レンズ部３３２Ｅおよび第３部分レンズ部３３２Ｆは、「第２レンズ部」，「レンズ部」に相当する。

【０１５８】
これら第１部分レンズ部３３２Ｄ、第２部分レンズ部３３２Ｅおよび第３部分レンズ部３３２Ｆは、下側第２表示部３３２において「７セグメント」の３つ分のセグメントを模した表示形態をなしている。つまり、上述した下側第１表示部３３１におけるレンズ部３３１Ｘの表示態様とは異なっている。下側第２表示部３３２については、後ほど詳述する。
【０１５９】
下側第３表示部３３３は、図２７に示すように、透光可能なレンズ部３３３Ｘと、このレンズ部３３３Ｘの外周に位置し、透光不能な不透光部３３３Ｙとを備えている。このレンズ部３３３Ｘは、下側第３表示部３３３において文字列「アツ」を模した表示形態をなしている。
【０１６０】
下側第４表示部３３４は、図２８に示すように、透光可能なレンズ部３３４Ｘと、このレンズ部３３４Ｘの外周に位置し、透光不能な不透光部３３４Ｙとを備えている。このレンズ部３３４Ｘは、下側第４表示部３３４において文字「Ｖ」の下半分を模した表示形態をなしている。
【０１６１】
また、底部３３５は、下側表示部３３１，３３２，３３３，３３４とともに下側回転体３３０を構成する部材である。この底部３３５には、図２９に示すように、上方から下方に、切り欠き円管状に突出する突出部３３５Ｘが設けられている。この突出部３３５Ｘは、後述の下側回転盤３７４に嵌合可能となっている。よって、下側回転盤３７４の回転動作に伴って、下側回転体３３０が回転可能となっている。
【０１６２】
下側回転体３３０は、図２７および図２８に示すように、４つの下側表示部３３１，３３２，３３３，３３４を四方に配置した構造になっている。つまり、４つの下側表示部３３１，３３２，３３３，３３４が、下側回転体３３０の周壁ＤＷをなしている。
【０１６３】
本形態では、この下側回転体３３０を、上述の上側回転体３２０の本体部３２５の下部の外側に配置している。よって、下側回転体３３０の下側表示部３３１，３３２，３３３，３３４のいずれかの下側表示部が、光源部３４０のＬＥＤ３６５の前方に配置された場合には、その下側表示部の背後から光がその下側表示部の透光部に透過し得る。
【０１６４】
本パチンコ遊技機１では、上側回転体３２０の上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４と下側回転体３３０の下側表示部３３１，３３２，３３３，３３４とで１つのモチーフを形成している。モチーフとは、思想や思いを表現（シンボル化）したものをさす。
【０１６５】
具体的には、上側第１表示部３２１と下側第１表示部３３１とで、図４７（Ａ）に示すような「メータ」を形成する。また、上側第２表示部３２２と下側第２表示部３３２とで、図４７（Ｂ）に示すような「７セグメント（７セグ）」を形成する。また、上側第３表示部３２３と下側第３表示部３３３とで、図４７（Ｃ）に示すような文字列「激アツ」を形成する。また、上側第４表示部３２４と下側第４表示部３３４とで、図４７（Ｄ）に示すような文字「Ｖ」を形成する。
【０１６６】
なお、上側回転体３２０の上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４と、それに対応する下側回転体３３０の下側表示部３３１，３３２，３３３，３３４とを組み合わせた表示部は、上側回転体３２０の上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４のみや、下側回転体３３０の下側表示部３３１，３３２，３３３，３３４のみよりも広面積となっている。よって、そのような表示部を用いて各種演出を行った場合には、上側回転体３２０の上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４だけを用いた場合や、下側回転体３３０の下側表示部３３１，３３２，３３３，３３４を用いた場合よりも、遊技者にインパクトを与え

ることが可能となっている。
【０１６７】
図２９に戻り、台座部３０５には、上述の２つの回転体（上側回転体３２０，下側回転体３３０）を回転させて、各回転体の外周部をなしている各種表示部を切り替える切替機構３７０がある。切替機構３７０は、駆動モータ３７１、第１ギヤ３７２、第２ギヤ３７３、第３ギヤ３７５、第４ギヤ３７６、下側回転盤３７４および上側回転盤３７７からなる。駆動モータ３７１は、サブ制御基板９０の制御に基づいて回転駆動する。この駆動モータ３７１は、その出力軸に第１ギヤ３７２を取付けていて、駆動によってその第１ギヤ３７２を回転させるものである。
【０１６８】
なお、第１ギヤ３７２は、２段歯車である。図２９に示すように、第１ギヤ３７２には、図２９中、上側の上段ギヤ部３７２Ａと、この上段ギヤ３７２Ａよりも下側の下段ギヤ部（不図示）とがある。上段ギヤ部３７２Ａおよび下段ギヤ部はいずれも同軸を中心にして回転する。
【０１６９】
第２ギヤ３７３は、上記第１ギヤ３７２の上段ギヤ部３７２Ａに噛み合う（図２９参照）。また、下側回転盤３７４は、円盤形状をなしており、本体部３７４Ａと本体部３７４Ａの外周に設けられたギヤ部３７４Ｂとを備えている。このギヤ部３７４Ｂは、第２ギヤ３７３に噛み合う。また、本体部３７４Ａには、上述した底部３３５の突出部３３５Ｘが嵌合する。よって、駆動モータ３７１により第１ギヤ３７２と第２ギヤ３７３とが回動することで、下側回転盤３７４が回動するとともに、下側回転体３３０が回動するようになっている。
【０１７０】
なお、本形態で、下側回転盤３７４には、本体部３７４Ａの中心位置に、上下方向に沿って延びる貫通孔３７４Ｃが設けられている。この貫通孔３７４Ｃには、上側回転盤３７７の本体部３７７Ａが挿通可能になっている。よって、下側回転盤３７４にかかわらず、上側回転盤３７７への上側回転体３２０の嵌合が可能となっている。
【０１７１】
第３ギヤ３７５は、上記第１ギヤ３７２の下段ギヤ部に噛み合う。また、第４ギヤ３７６は、第３ギヤ３７５に噛み合う。また、上側回転盤３７７は、円盤形状をなしており、本体部３７７Ａと、この本体部３７７Ａの下部の外周に設けられたギヤ部３７７Ｂとを備えている。このギヤ部３７７Ｂは、第４ギヤ３７６に噛み合う。また、本体部３７７Ａには、上述した上側回転体３２０の本体部３２５の突出部３２５Ｘが嵌合する。よって、駆動モータ３７１により第１ギヤ３７２と第３ギヤ３７５と第４ギヤ３７６とが回動することで、上側回転盤３７７が回動するとともに、上側回転体３２０が回動するようになっている。
【０１７２】
なお、本形態では、上側回転盤３７７には、本体部３７７Ａの中心位置に、上下方向に沿って延びる貫通孔３７７Ｃが設けられている。この貫通孔３７７Ｃには、光源部３４０の下端部３６８が挿通可能になっている。よって、この貫通孔３７７Ｃを通じて、光源部３４０の下端部３６８を台座部３０５に到達させることが可能となっている。つまり、光源部３４０の下端部３６８を台座部３０５に固定可能となっている。
【０１７３】
また、本形態では、上側回転体３２０と下側回転体３３０とは互いに逆の方向に回転する。駆動モータ３７１から上側回転盤３７７までのギヤの数と、駆動モータ３７１から下側回転盤３７４までのギヤの数とを、１つだけ異ならせている。これにより、上側回転盤３７７の回転方向と下側回転盤３７４の回転方向とを逆にすることが可能となっている。よって、上側回転体３２０の回転動作と下側回転体３３０の回転動作とを互いに異ならせることが可能であり、遊技者の注目度を向上可能となっている。
【０１７４】

光源部３４０は、図３０に示すように、基板上に配置した複数（本形態では４６個）のＬＥＤ（光源に相当）３６５と、複数のＬＥＤ３６５を仕切る光源側仕切部材３６６とを備えている。光源側仕切部材３６６は、図３０中、奥側から手前側に延出する板状のものである。

【０１７５】

光源側仕切部材３６６には、上下方向中央に位置し、左右方向に延びる第１横仕切部３４１と、第１横仕切部３４１よりも下側に位置し、左右方向に延びる第２横仕切部３４２と、第２横仕切部３４２よりも下側に位置し、左右方向に延びる第３横仕切部３４３と、第３横仕切部３４３よりも下側に位置する第４横仕切部３４４とがある（図３０参照）。また、第１横仕切部３４１よりも上側に位置する第５横仕切部３４５と、第５横仕切部３４５よりも上側に位置し、左右方向に延びる第６横仕切部３４６と、第６横仕切部３４６よりも上側に位置する第７横仕切部３４７とがある（図３０参照）。

【０１７６】

また、第１横仕切部３４１と第２横仕切部３４２の間にそれぞれ位置し、上下方向に延びる第１縦仕切部３５１および第２縦仕切部３５２と、第２横仕切部３４２と第３横仕切部３４３の間にそれぞれ位置し、上下方向に延びる第３縦仕切部３５３および第４縦仕切部３５４と、第３横仕切部３４３と第４横仕切部３４４の間にそれぞれ位置し、上下方向に延びる第５縦仕切部３５５および第６縦仕切部３５６とがある（図３０参照）。また、第５横仕切部３４５と第６横仕切部３４６の間にそれぞれ位置し、上下方向に延びる第７縦仕切部３５１および第８縦仕切部３５８と、第６横仕切部３４６と第７横仕切部３４７の間にそれぞれ位置し、上下方向に延びる第９縦仕切部３５９および第１０縦仕切部３６０とがある（図３０参照）。

【０１７７】

光源部３４０は、上述したように、上側回転体３２０の内側に配置されている（図２９参照）。そして、光源部３４０の複数のＬＥＤ３６５はいずれも前方を向いて固定されている。具体的には、光源部３４０の下端部３６８が底部３０５に、上端部３６９が外周部３００の天井部３０２にそれぞれ固定されている。しかも、上述したように、光源側仕切部材３６６は、図３０中、奥側から手前側に延出する板状部材であるため、ＬＥＤ３６５から発光された光が後方から前方に進行しや易くなっている。

【０１７８】

また、本形態では、図３１に示すように、上側第１表示部３２１の背後側に上側仕切部材（第１表示部側仕切部材に相当）３２１Ｓ、下側第１表示部３３１の背後側に下側仕切部材（第１表示部側仕切部材に相当）３３１Ｓを設けている。

【０１７９】

上側仕切部材３２１Ｓは、左右方向に延びる仕切部３２１Ｌと、仕切部３２１Ｌの左右両端に位置し、上側仕切部材３２１Ｓを上側第１表示部３２１の背後に固定するための固定部３２１Ｔとを備えている（図３１参照）。仕切部３２１Ｌは、図３１中、左下側から右上側に延出する板状である。仕切部３２１Ｌは、レンズ部３２１Ｘの背後側に配置される。また、固定部３２１Ｔは、不透光部３２１Ｙの背後側に当接する。

【０１８０】

また、下側仕切部材３３１Ｓは、いずれも左右方向に延びる第１仕切部３３１Ｌ、第２仕切部３３１Ｍおよび第３仕切部３３１Ｎと、これら仕切部３３１Ｌ，３３１Ｍ，３３１Ｎの左右両端に位置する固定部３３１Ｔとを備えている（図３１参照）。第１仕切部３３１Ｌ、第２仕切部３３１Ｍおよび第３仕切部３３１Ｎは、上側仕切部材３２１Ｓの仕切部３２１Ｌと同じく、図３１中、左下側から右上側に延出する板状である。第１仕切部３３１Ｌ、第２仕切部３３１Ｍおよび第３仕切部３３１Ｎは、レンズ部３３１Ｘの背後側に配置される。また、固定部３３１Ｔは、不透光部３３１Ｙの背後側に当接する。

【０１８１】

図３２を用いて、光源部３４０の複数のＬＥＤ３６５の前方に上側第１表示部３２１および下側第１表示部３３１が配置された場合について説明する。図３２（Ａ）は、光源部

３４０の複数のＬＥＤ３６５の前方に上側第１表示部３２１および下側第１表示部３３１が配置されたときの、光源部３４０と上側仕切部材３２１Ｓおよび下側仕切部材３３１Ｓとの位置関係を示す説明図である。図３２（Ｂ）は、光源部３４０の複数のＬＥＤ３６５の前方に上側第１表示部３２１および下側第１表示部３３１が配置されたときの、上側第１表示部３２１のレンズ部３２１Ｘと上側仕切部材３２１Ｓ、および、下側第１表示部３３１のレンズ部３３１Ｘと下側仕切部材３３１Ｓとの位置関係を示す説明図である。なお、図３２（Ａ）および図３２（Ｂ）では、図中、奥側がパチンコ遊技機１の「後方」であり、図中、手前側が「前方」である。

【０１８２】

上述したように、上側仕切部材３２１Ｓの仕切部３２１Ｌは、図３１中、左下側から右上側に延出する板状であるので、光源部３４０の複数のＬＥＤ３６５の前方に上側第１表示部３２１が配置されたときには、仕切部３２１Ｌは、光源側仕切部材３６６と同じく、奥側から手前側に延出していることになる（図３２（Ａ）参照）。下側仕切部材３３１Ｓの各仕切部３３１Ｌ，３３１Ｍ，３３１Ｎもまた、光源部３４０の前方に下側第１表示部３３１が配置されたときには、光源側仕切部材３６６と同じく、奥側から手前側に延出していることになる（図３２（Ａ）参照）。

【０１８３】

また、本形態では、図３２（Ａ）に示すように、光源部３４０の前方に上側第１表示部３２１が配置されたときには、上側仕切部材３２１Ｓの仕切部３２１Ｌが、光源部３４０の第６横仕切部３４６の前方に配置される。つまり、光源部３４０の前方に上側第１表示部３２１が配置されたときには、仕切部３２１Ｌと第６横仕切部３４６とが前後方向に並ぶことになる。

【０１８４】

また、光源部３４０の前方に下側第１表示部３３１が配置されたときには、第１仕切部３３１Ｌが第２横仕切部３４２の前方に、第２仕切部３３１Ｍが第３横仕切部３４３の前方に、第３仕切部３３１Ｎが第４横仕切部３４４の一部の前方にそれぞれ配置される。つまり、光源部３４０の前方に下側第１表示部３３１が配置されたときには、第１仕切部３３１Ｌと第２横仕切部３４２、第２仕切部３３１Ｍと第３横仕切部３４３、および、第３仕切部３３１Ｎと第４横仕切部３４４の一部とが前後方向に並ぶことになる。

【０１８５】

よって、上側仕切部材３２１Ｓの仕切部３２１Ｌと光源側仕切部材３６６の第６横仕切部３４６とは、第６横仕切部３４６よりも上側に位置するＬＥＤ３６５から上側第１表示部３２１のレンズ部３２１Ｘまでの光の進路を区画している。さらに、第６横仕切部３４６と第１横仕切部３４１との間に位置するＬＥＤ３６５から上側第１表示部３２１のレンズ部３２１Ｘまでの光の進路を区画している。

【０１８６】

また、下側仕切部材３３１Ｓの第１仕切部３３１Ｌと光源側仕切部材３６６の第２横仕切部３４２とは、第１横仕切部３４１と第２横仕切部３４２との間に位置するＬＥＤ３６５から下側第１表示部３３１のレンズ部３３１Ｘまでの光の進路を区画している。また、下側仕切部材３３１Ｓの第２仕切部３３１Ｍと光源側仕切部材３６６の第３横仕切部３４３とは、第２横仕切部３４２と第３横仕切部３４３との間に位置するＬＥＤ３６５から下側第１表示部３３１のレンズ部３３１Ｘまでの光の進路を区画している。また、下側仕切部材３３１Ｓの第３仕切部３３１Ｎと光源側仕切部材３６６の第４横仕切部３４４とは、第３横仕切部３４３と第４横仕切部３４４との間に位置するＬＥＤ３６５から下側第１表示部３３１のレンズ部３３１Ｘまでの光の進路、さらに、第４横仕切部３４４よりも下側に位置するＬＥＤ３６５から下側第１表示部３３１のレンズ部３３１Ｘまでの光の進路を区画している。

【０１８７】

なお、第６横仕切部３４６よりも上側に配置されたＬＥＤ３６５からの光は、上側第１表示部３２１のレンズ部３２１Ｘの上側の部位に到達する。すなわち、図３２（Ｂ）に示

す上位レンズ部３２１Ｄに達する。また、第６横仕切部３４６と第１横仕切部３４１との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光は、レンズ部３２１Ｘの下側の部位に到達する。すなわち、図３２（Ｂ）に示す下位レンズ部３２１Ｅに達する。

【０１８８】

また、第１横仕切部３４１と第２横仕切部３４２との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光は、下側第１表示部３３１のレンズ部３３１Ｘの最上部に到達する。すなわち、図３２（Ｂ）に示す最上位レンズ部３３１Ｄに達する。また、第２横仕切部３４２と第３横仕切部３４３との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光は、最上位レンズ部３３１Ｄよりも下側の上位レンズ部３３１Ｅに達する（図３２（Ｂ）参照）。また、第３横仕切部３４３と第４横仕切部３４４との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光は、上位レンズ部３３１Ｅよりも下側の下位レンズ部３３１Ｆに達する（図３２（Ｂ）参照）。また、第４横仕切部３４４よりも下側に配置されたＬＥＤ３６５からの光は、下位レンズ部３３１Ｆよりも下側の最下位レンズ部３３１Ｇに達する（図３２（Ｂ）参照）。

【０１８９】

かくして、光源部３４０の光源側仕切部材３６６と上側仕切部材３２１Ｓとは、第１横仕切部３４１よりも上側にあるＬＥＤ３６５から、上側第１表示部３２１のレンズ部３２１Ｘまでの光の進路を区画する仕切部材（第１仕切部材に相当）ＳＢ１を構成している。仕切部材ＳＢ１は、上側仕切部材３２１Ｓの仕切部３２１Ｌ、および、光源側仕切部材３６６の第６横仕切部３４６からなる（図３２（Ａ）参照）。

【０１９０】

また、光源部３４０の光源側仕切部材３６６と下側仕切部材３３１Ｓとは、第１横仕切部３４１よりも下側にあるＬＥＤ３６５から、下側第１表示部３３１のレンズ部３３１Ｘまでの光の進路を区画する仕切部材ＳＢ２，ＳＢ３，ＳＢ４を構成している。仕切部材（第１仕切部材に相当）ＳＢ２は、下側仕切部材３３１Ｓの第１仕切部３３１Ｌ、および、光源側仕切部材３６６の第２横仕切部３４２からなる（図３２（Ａ）参照）。また、仕切部材（第１仕切部材に相当）ＳＢ３は、下側仕切部材３３１Ｓの第２仕切部３３１Ｍ、および、光源側仕切部材３６６の第３横仕切部３４３からなる（図３２（Ａ）参照）。また、仕切部材（第１仕切部材に相当）ＳＢ４は、下側仕切部材３３１Ｓの第３仕切部３３１Ｎ、および、光源側仕切部材３６６の第４横仕切部３４４からなる（図３２（Ａ）参照）。

【０１９１】

本パチンコ遊技機１では、仕切部材ＳＢ１によって、第６横仕切部３４６よりも上側に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、上位レンズ部３２１Ｄに好適に到達させることが可能となっている。すなわち、下位レンズ部３２１Ｄ等、他のレンズ部に入射（分散）させることなく、上位レンズ部３２１Ｄに入射させることが可能となっている。さらに、第６横仕切部３４６と第１横仕切部３４１との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、下位レンズ部３２１Ｅに好適に到達させることが可能となっている。すなわち、上位レンズ部３２１Ｄ等、他のレンズ部に入射（分散）させることなく、上下位レンズ部３２１Ｅに入射させることが可能となっている。

【０１９２】

また、仕切部材ＳＢ２によって、第１横仕切部３４１と第２横仕切部３４２との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、最上位レンズ部３３１Ｄに好適に到達させることが可能となっている。さらに、第２横仕切部３４２と第３横仕切部３４３との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、上位レンズ部３３１Ｅに好適に到達させることが可能となっている。

【０１９３】

また、仕切部材ＳＢ３によって、第２横仕切部３４２と第３横仕切部３４３との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、上位レンズ部３３１Ｅに好適に到達させることが可能となっている。さらに、第３横仕切部３４３と第４横仕切部３４４との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、下位レンズ部３３１Ｆに好適に到達させることが可能となってい

る。
【０１９４】
また、仕切部材ＳＢ４によって、第３横仕切部３４３と第４横仕切部３４４との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、下位レンズ部３３１Ｆに好適に到達させることが可能となっている。さらに、第４横仕切部３４４よりも下側に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、最下位レンズ部３３１Ｇに好適に到達させることが可能となっている。
【０１９５】
なお、本形態で、光源部３４０の前方に上側第１表示部３２１および下側第１表示部３３１が配置された場合には、光源部３４０のＬＥＤ３６５全部を発光させる。つまり、この場合、ＬＥＤ３６５全部からなる光源群が第１光源群に相当する。
【０１９６】
次に、上側第２表示部３２２および下側第２表示部３３２の構造について、図３３を用いて説明する。上側第２表示部３２２は、図３３に示すように、透光可能な透光部材３２２Ｘと、透光不能な不透光部材３２２Ｙとを備えている。
【０１９７】
透光部材３２２Ｘは、無色透明なプラスチック製の部材であり、上述した第１部分レンズ部３２２Ｄ、第２部分レンズ部３２２Ｅ、第３部分レンズ部３２２Ｆおよび第４部分レンズ部３２２Ｇと、これら部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇの間に介在する、板状の介在部３２２Ｈとからなる。つまり、透光部材３２２Ｘは、図３３に示すように、部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇと介在部３２２Ｈとを備える１部材からなる。介在部３２２Ｈの中央には、図中、上下方向に延びる長穴状の嵌合部３２２Ｊが設けられている。
【０１９８】
不透光部材３２２Ｙは、黒色のプラスチック製の板状部材である。この不透光部材３２２Ｙには、４つの挿通孔がある。すなわち、図３３中、上下方向に延びる第１挿通孔３２２Ｙ１および第３挿通孔３２２Ｙ３と、図中、左右方向に延びる第２挿通孔３２２Ｙ２および第４挿通孔３２２Ｙ４とがある。第１挿通孔３２２Ｙ１には第１部分レンズ部３２２Ｄが、第２挿通孔３２２Ｙ２には第２部分レンズ部３２２Ｅが、第３挿通孔３２２Ｙ３には第３部分レンズ部３２２Ｆが、そして、第４挿通孔３２２Ｙ４には第４部分レンズ部３２２Ｇが、それぞれ配置される。
【０１９９】
本形態では、不透光部材３２２Ｙは、背後側に突出する凸部３２２Ｗを備えている（図３３参照）。この凸部３２２Ｗは、透光部材３２２Ｘの嵌合部３２２Ｊに嵌合する。よって、不透光部材３２２Ｙに対する透光部材３２２Ｘの位置ズレを防止可能となっている。また、透光不能な凸部３２２Ｗと、透光部材３２２Ｘの介在部３２２Ｈに設けられた嵌合部３２２Ｊとが嵌合するので、部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇから介在部３２２Ｈの嵌合部３２２Ｊ付近まで、透光部材３２２Ｘ内を光が移動してきた場合には、その光について凸部３２２Ｗで遮蔽することが可能となっている。
【０２００】
下側第２表示部３３２もまた、上側第２表示部３２２と同じく、透光可能な透光部材３３２Ｘと、透光不能な不透光部材３３２Ｙとを備えている（図３３参照）。
【０２０１】
透光部材３３２Ｘは、無色透明なプラスチック製の部材であり、上述した第１部分レンズ部３３２Ｄ、第２部分レンズ部３３２Ｅおよび第３部分レンズ部３３２Ｆと、これら部分レンズ部３３２Ｄ，３３２Ｅ，３３２Ｆの間に介在する、板状の介在部３３２Ｈとからなる。つまり、下側第２表示部３３２の透光部材３２２Ｘも、部分レンズ部３３２Ｄ，３３２Ｅ，３３２Ｆと介在部３３２Ｈとを備える１部材からなる。介在部３３２Ｈの中央には、図中、上下方向に延びる嵌合部３３２Ｊが設けられている。
【０２０２】
不透光部材３３２Ｙは、黒色のプラスチック製の板状部材である。この不透光部材３３

２Ｙには、３つの挿通孔がある。すなわち、図３３中、上下方向に延びる第１挿通孔３３２Ｙ１および第３挿通孔３３２Ｙ３と、図中、左右方向に延びる第２挿通孔３３２Ｙ２とがある。第１挿通孔３３２Ｙ１には第１部分レンズ部３３２Ｄが、第２挿通孔３３２Ｙ２には第２部分レンズ部３３２Ｅが、第３挿通孔３３２Ｙ３には第３部分レンズ部３３２Ｆがそれぞれ配置される。

【０２０３】

本形態では、不透光部材３３２Ｙは、背後側に突出する凸部３３２Ｗを備えている（図３３参照）。この凸部３３２Ｗは、透光部材３３２Ｘの嵌合部３３２Ｊに嵌合する。よって、不透光部材３３２Ｙに対する透光部材３３２Ｘの位置ズレを防止可能となっている。また、部分レンズ部３３２Ｄ，３３２Ｅ，３３２Ｆから介在部３３２Ｈの嵌合部３３２Ｊ付近まで、透光部材３３２Ｘ内を光が移動してきた場合には、その光について凸部３３２Ｗで遮蔽することが可能となっている。

【０２０４】

なお、本形態では、図３４（Ａ）に示すように、下側第２表示部３３２において、第１部分レンズ部３３２Ｄと第２部分レンズ部３３２Ｅとの距離（第１距離Ｚ１）は、第１部分レンズ部３３２Ｄと第３部分レンズ部３３２Ｆとの距離（第２距離Ｚ２）よりも近くなっている。そこで、図３４（Ａ）に示す第１距離Ｚ１で、第１部分レンズ部３３２Ｄと第２部分レンズ部３３２Ｅとを結ぶような介在部を設けずに、第１部分レンズ部３３２Ｄから第２部分レンズ部３３２Ｅまでの介在部３３２Ｈを通しての距離（第３距離Ｚ３）が第１距離Ｚ１よりも長くなるよう、第１部分レンズ部３３２Ｄと第２部分レンズ部３３２Ｅとの間の介在部３３２Ｈを設けている。第３距離Ｚ３が第１距離Ｚ１よりも長くなっている分、第１部分レンズ部３３２Ｄと第２部分レンズ部３３２Ｅとの間の距離を稼ぐことが可能であり、第１部分レンズ部３３２Ｄと第２部分レンズ部３３２Ｅとの間で光の移動（透光）が生じ難いパチンコ遊技機１とすることが可能となっている。

【０２０５】

また、凸部３３２Ｗを、第１部分レンズ部３３２Ｄと第３部分レンズ部３３２Ｆとの間に配置している（図３４（Ａ）参照）。よって、第１部分レンズ部３３２Ｄ又は第３部分レンズ部３３２Ｆからその凸部３３２Ｗまでの透光部材３３２Ｘ内を光が移動してきた場合には、その光を凸部３３２Ｗで遮蔽可能である。よって、第１部分レンズ部３３２Ｄと第３部分レンズ部３３２Ｆとの間で光の移動（透光）が生じるのを抑えることが可能となっている。

【０２０６】

しかも、図３４（Ｂ）に示すように、凸部３３２Ｗは、嵌合部３３２Ｊの厚み方向（図中、上下方向）の全域に嵌合しているので、各部分レンズ部３３２Ｄ，３３２Ｆから介在部３３２Ｈの嵌合部３３２Ｊ付近まで透光部材３３２Ｘ内を光が移動してきた場合には、その光が凸部３３２Ｗの反対側に届くのを抑制可能となっている。

【０２０７】

図３３に戻り、本形態では、上側第２表示部３２２の不透光部材３２２Ｙ、および、透光部材３２２Ｘの背後側に上側仕切部材（第２表示部側仕切部材に相当）３２２Ｓ、下側第２表示部３３２の不透光部材３３２Ｙ、および、透光部材３３２Ｘの背後側に下側仕切部材（第２表示部側仕切部材に相当）３３２Ｓを設けている。

【０２０８】

上側仕切部材３２２Ｓには、３つの仕切孔がある。すなわち、図３３中、上下方向に延びる第１仕切孔３２２Ｓ１および第２仕切孔３２２Ｓ３と、図中、左右方向に延びる第３仕切孔３２２Ｓ４とがある。また、下端には、切欠部３２２Ｓ２がある。

【０２０９】

第１仕切孔３２２Ｓ１は、透光部材３２２Ｘの第１部分ガラス部３２２Ｄの背後に配置される。この第１仕切孔３２２Ｓ１は、第１部分ガラス部３２２Ｄの後方からの光が進入できる空間を設けるためのものである。また、第２仕切孔３２２Ｓ３は、透光部材３２２Ｘの第３部分ガラス部３２２Ｆの背後に配置される。この第２仕切孔３２２Ｓ３は、第３

部分ガラス部３２２Ｆの後方からの光が進入できる空間を設けるためのものである。また、第３仕切孔３２２Ｓ４は、透光部材３２２Ｘの第４部分ガラス部３２２Ｇの背後に配置される。この第３仕切孔３２２Ｓ４は、第４部分ガラス部３２２Ｇの後方からの光が進入できる空間を設けるためのものである。また、切欠部３２２Ｓ２は、透光部材３２２Ｘの第２部分ガラス部３２２Ｅの背後に配置される。この切欠部３２２Ｓ２は、第２部分ガラス部３２２Ｅの後方からの光が進入できる空間を設けるためのものである。

【０２１０】

また、下側仕切部材３３２Ｓには、３つの仕切孔がある。すなわち、図３３中、上下方向に延びる第１仕切孔３３２Ｓ１および第３仕切孔３３２Ｓ３と、図中、左右方向に延びる第２仕切孔３３２Ｓ２とがある。

【０２１１】

第１仕切孔３３２Ｓ１は、透光部材３３２Ｘの第１部分ガラス部３３２Ｄの背後に配置される。この第１仕切孔３３２Ｓ１は、第１部分ガラス部３３２Ｄの後方からの光が進入できる空間を設けるためのものである。また、第２仕切孔３３２Ｓ２は、透光部材３３２Ｘの第２部分ガラス部３３２Ｅの背後に配置される。この第２仕切孔３３２Ｓ２は、第２部分ガラス部３３２Ｅの後方からの光が進入できる空間を設けるためのものである。また、第３仕切孔３３２Ｓ３は、透光部材３３２Ｘの第３部分ガラス部３３２Ｆの背後に配置される。この第３仕切孔３３２Ｓ３は、第３部分ガラス部３３２Ｆの後方からの光が進入できる空間を設けるためのものである。

【０２１２】

図３５を用いて、光源部３４０の複数のＬＥＤ３６５の前方に上側第２表示部３２２および下側第２表示部３３２が配置された場合について説明する。図３５（Ａ）は、光源部３４０の複数のＬＥＤ３６５の前方に上側第２表示部３２２および下側第２表示部３３２が配置されたときの、光源部３４０と上側仕切部材３２２Ｓおよび下側仕切部材３３２Ｓとの位置関係を示す説明図である。図３５（Ｂ）は、光源部３４０の複数のＬＥＤ３６５の前方に上側第２表示部３２２および下側第２表示部３３２が配置されたときの、上側第２表示部３２２の部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇと上側仕切部材３２２Ｓ、および、下側第２表示部３３２の部分レンズ部３３２Ｄ，３３２Ｅ，３３２Ｆと下側仕切部材３３２Ｓとの位置関係を示す説明図である。なお、図３５（Ａ）および図３５（Ｂ）では、図中、奥側がパチンコ遊技機１の「後方」であり、図中、手前側が「前方」である。

【０２１３】

光源部３４０の複数のＬＥＤ３６５の前方に上側第２表示部３２２が配置されたときには、上側仕切部材３２２Ｓの各仕切孔３２２Ｓ１，３２２Ｓ３，３２２Ｓ４は、奥側から手前側に貫通している（図３５（Ａ）参照）。下側仕切部材３３２Ｓの各仕切孔３３２Ｓ１，３３２Ｓ２，３３２Ｓ３もまた、光源部３４０の前方に下側第２表示部３３２が配置されたときには、奥側から手前側に貫通している（図３５（Ａ）参照）。

【０２１４】

また、本形態では、図３５（Ａ）に示すように、光源部３４０の前方に上側第２表示部３２２が配置されたときには、上側仕切部材３２２Ｓの第１仕切孔３２２Ｓ１の周囲の部位が、光源部３４０の第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第７縦仕切部３５７および第９縦仕切部３５９の前方に配置される。つまり、光源部３４０の前方に上側第２表示部３２２が配置されたときには、上側仕切部材３２２Ｓと第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第７縦仕切部３５７および第９縦仕切部３５９とが前後方向に並ぶことになる。

【０２１５】

また、光源部３４０の前方に上側第２表示部３２２が配置されたときには、上側仕切部材３２２Ｓのうちの切欠部３２２Ｓ２をなしている部位が、光源部３４０の第５横仕切部３４５の前方に配置される。つまり、光源部３４０の前方に上側第２表示部３２２が配置されたときには、上側仕切部材３２２Ｓと第５横仕切部３４５とが前後方向に並ぶことに

なる。
【０２１６】
また、上側仕切部材３２２Ｓの第２仕切孔３２２Ｓ３の周囲の部位が、光源部３４０の第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第８縦仕切部３５８および第１０縦仕切部３６０の前方に配置される。つまり、光源部３４０の前方に上側第２表示部３２２が配置されたときには、上側仕切部材３２２Ｓと第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第８縦仕切部３５８および第１０縦仕切部３６０とが前後方向に並ぶことになる。
【０２１７】
また、上側仕切部材３２２Ｓの第３仕切孔３２２Ｓ４の周囲の部位が、光源部３４０の第７横仕切部３４７の前方に配置される。つまり、光源部３４０の前方に上側第２表示部３２２が配置されたときには、上側仕切部材３２２Ｓと第７横仕切部３４７とが前後方向に並ぶことになる。
【０２１８】
また、光源部３４０の前方に下側第２表示部３３２が配置されたときには、下側仕切部材３３２Ｓの第１仕切孔３３２Ｓ１の周囲の部位が、光源部３４０の第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第１縦仕切部３５１、第３縦仕切部３５３および第５縦仕切部３５５の前方に配置される。つまり、光源部３４０の前方に下側第２表示部３３２が配置されたときには、下側仕切部材３３２Ｓと第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第１縦仕切部３５１、第３縦仕切部３５３および第５縦仕切部３５５とが前後方向に並ぶことになる。
【０２１９】
また、下側仕切部材３３２Ｓの第２仕切孔３３２Ｓ２の周囲の部位が、光源部３４０の第４横仕切部３４４の前方に配置される。つまり、光源部３４０の前方に下側第２表示部３３２が配置されたときには、下側仕切部材３３２Ｓと第４横仕切部３４４とが前後方向に並ぶことになる。
【０２２０】
また、下側仕切部材３３２Ｓの第３仕切孔３３２Ｓ３の周囲の部位が、光源部３４０の第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第２縦仕切部３５２、第４縦仕切部３５４および第６縦仕切部３５６の前方に配置される。つまり、光源部３４０の前方に下側第２表示部３３２が配置されたときには、下側仕切部材３３２Ｓと第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第２縦仕切部３５２、第４縦仕切部３５４および第６縦仕切部３５６とが前後方向に並ぶことになる。
【０２２１】
よって、上側仕切部材３２２Ｓの第１仕切孔３２２Ｓ１と光源側仕切部材３６６の第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第７縦仕切部３５７および第９縦仕切部３５９とは、これら第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第７縦仕切部３５７および第９縦仕切部３５９で仕切られたＬＥＤ３６５から上側第２表示部３２２の第１部分レンズ部３２２Ｄまでの光の進路を区画している。
【０２２２】
また、上側仕切部材３２２Ｓの切欠部３２２Ｓ２と光源側仕切部材３６６の第５横仕切部３４５とは、第５横仕切部３４５と第１横仕切部３４１との間に配置されたＬＥＤ３６５から上側第２表示部３２２の第２部分レンズ部３２２Ｅまでの光の進路を区画している。
【０２２３】
また、上側仕切部材３２２Ｓの第２仕切孔３２２Ｓ３と光源側仕切部材３６６の第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第８縦仕切部３５８および第１０縦仕切部３６０とは、これら第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第８縦仕切部３５８および第１０縦仕切部３６０で仕切られたＬＥＤ３６５から上側第２表示部３２２の第３部分レンズ部３２２Ｆまでの光の進路を区画している。
【０２２４】

また、上側仕切部材３２２Ｓの第３仕切孔３２２Ｓ４と光源側仕切部材３６６の第７横仕切部３４７とは、第７横仕切部３４７よりも上側に配置されたＬＥＤ３６５から上側第２表示部３２２の第４部分レンズ部３２２Ｇまでの光の進路を区画している。

【０２２５】

また、下側仕切部材３３２Ｓの第１仕切孔３３２Ｓ１と光源側仕切部材３６６の第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第１縦仕切部３５１、第３縦仕切部３５３および第５縦仕切部３５５とは、これら第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第１縦仕切部３５１、第３縦仕切部３５３および第５縦仕切部３５５で仕切られたＬＥＤ３６５から下側第２表示部３３２の第１部分レンズ部３３２Ｄまでの光の進路を区画している。

【０２２６】

また、下側仕切部材３３２Ｓの第２仕切孔３３２Ｓ２と光源側仕切部材３６６の第４横仕切部３４４とは、第４横仕切部３４４よりも下側に配置されたＬＥＤ３６５から下側第２表示部３３２の第２部分レンズ部３３２Ｅまでの光の進路を区画している。

【０２２７】

また、下側仕切部材３３２Ｓの第３仕切孔３３２Ｓ３と光源側仕切部材３６６の第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第２縦仕切部３５２、第４縦仕切部３５４および第６縦仕切部３５６とは、これら第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第２縦仕切部３５２、第４縦仕切部３５４および第６縦仕切部３５６で仕切られたＬＥＤ３６５から下側第２表示部３３２の第３部分レンズ部３３２Ｆまでの光の進路を区画している。

【０２２８】

かくして、光源部３４０の光源側仕切部材３６６と上側仕切部材３２２Ｓとは、光源部３４０のＬＥＤ３６５から、上側第２表示部３２２の各部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇまでの光の進路を区画する仕切部材ＳＣ１，ＳＣ２，ＳＣ３，ＳＣ４を構成している。

【０２２９】

仕切部材（第２仕切部材に相当）ＳＣ１は、上側仕切部材３２２Ｓの第１仕切孔３２２Ｓ１の壁部、および、光源側仕切部材３６６の第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第７縦仕切部３５７および第９縦仕切部３５９からなる（図３５（Ａ）参照）。また、仕切部材（第２仕切部材に相当）ＳＣ２は、上側仕切部材３２２Ｓの切欠部３２２Ｓ２、および、光源側仕切部材３６６の第５横仕切部３４５からなる（図３５（Ａ）参照）。また、仕切部材（第２仕切部材に相当）ＳＣ３は、上側仕切部材３２２Ｓの第２仕切孔３２２Ｓ３の壁部、および、光源側仕切部材３６６の第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第８縦仕切部３５８および第１０縦仕切部３６０からなる（図３５（Ａ）参照）。また、仕切部材（第２仕切部材に相当）ＳＣ４は、上側仕切部材３２２Ｓの第３仕切孔３２２Ｓ４の壁部、および、光源側仕切部材３６６の第７横仕切部３４７からなる（図３５（Ａ）参照）。

【０２３０】

また、光源部３４０の光源側仕切部材３６６と下側仕切部材３３２Ｓとは、光源部３４０のＬＥＤ３６５から、下側第２表示部３３２の各部分レンズ部３３２Ｄ，３３２Ｅ，３３２Ｆまでの光の進路を区画する仕切部材ＳＣ５，ＳＣ６，ＳＣ７を構成している。

【０２３１】

仕切部材（第２仕切部材に相当）ＳＣ５は、下側仕切部材３３２Ｓの第１仕切孔３３２Ｓ１の壁部、および、光源側仕切部材３６６の第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第１縦仕切部３５１、第３縦仕切部３５３および第５縦仕切部３５５からなる（図３５（Ａ）参照）。また、仕切部材（第２仕切部材に相当）ＳＣ６は、下側仕切部材３３２Ｓの第２仕切孔３３２Ｓ２の壁部、および、光源側仕切部材３６６の第４横仕切部３４４からなる（図３５（Ａ）参照）。また、仕切部材（第２仕切部材に相当）ＳＣ７は、下側仕切部材３３２Ｓの第３仕切孔３３２Ｓ３の壁部、および、光源側仕切部材３６６の第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第２縦仕切部３５２、第４縦仕切部３５４および第６縦仕切部３５６からなる（図３５（Ａ）参照）。

【０２３２】
本パチンコ遊技機１では、仕切部材ＳＣ１によって、第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第７縦仕切部３５７および第９縦仕切部３５９で仕切られたＬＥＤ３６５からの光を、他の部分レンズ部に達することなく、第１部分レンズ部３２２Ｄに好適に到達させることが可能となっている。すなわち、他の部分レンズ部に入射（分散）させることなく、第１部分レンズ部３２２Ｄに入射させることが可能となっている。また、仕切部材ＳＣ２によって、第５横仕切部３４５と第１横仕切部３４１との間に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、第２部分レンズ部３２２Ｅに好適に到達させることが可能となっている。また、仕切部材ＳＣ３によって、第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第８縦仕切部３５８および第１０縦仕切部３６０で仕切られたＬＥＤ３６５からの光を、第３部分レンズ部３２２Ｆに好適に到達させることが可能となっている。また、仕切部材ＳＣ４によって、第７横仕切部３４７よりも上側に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、第４部分レンズ部３２２Ｇに好適に到達させることが可能となっている。
【０２３３】
また、仕切部材ＳＣ５によって、第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第１縦仕切部３５１、第３縦仕切部３５３および第５縦仕切部３５５で仕切られたＬＥＤ３６５からの光を、第１部分レンズ部３３２Ｄに好適に到達させることが可能となっている。また、仕切部材ＳＣ６によって、第４横仕切部３４４よりも下側に配置されたＬＥＤ３６５からの光を、他の部分レンズ部に達することなく、第２部分レンズ部３３２Ｅに好適に到達させることが可能となっている。また、仕切部材ＳＣ７によって、第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第２縦仕切部３５２、第４縦仕切部３５４および第６縦仕切部３５６で仕切られたＬＥＤ３６５からの光を、第３部分レンズ部３３２Ｆに好適に到達させることが可能となっている。
【０２３４】
本形態では、光源部３４０の前方に上側第２表示部３２２および下側第２表示部３３２が配置された場合には、光源部３４０のＬＥＤ３６５のうち、上述したＬＥＤ３６５を発光させる。換言すると、第１縦仕切部３５１と第２縦仕切部３５２との間のＬＥＤ３６５、第３縦仕切部３５３と第４縦仕切部３５４との間のＬＥＤ３６５、第５縦仕切部３５５と第６縦仕切部３５６との間のＬＥＤ３６５、第７縦仕切部３５７と第８縦仕切部３５８との間のＬＥＤ３６５、および、第９縦仕切部３５９と第１０縦仕切部３６０との間のＬＥＤ３６５は、発光させない。よって、上側第２表示部３２２および下側第２表示部３３２を用いる場合には、上側第１表示部３２１および下側第１表示部３３１を用いる場合とは異なり、消費電力を抑えることが可能となっている。
【０２３５】
なお本形態では、第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第７縦仕切部３５７および第９縦仕切部３５９で仕切られたＬＥＤ３６５と、第５横仕切部３４５と第１横仕切部３４１との間に配置されたＬＥＤ３６５と、第５横仕切部３４５、第７横仕切部３４７、第８縦仕切部３５８および第１０縦仕切部３６０で仕切られたＬＥＤ３６５と、第７横仕切部３４７よりも上側に配置されたＬＥＤ３６５と、第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第１縦仕切部３５１、第３縦仕切部３５３および第５縦仕切部３５５で仕切られたＬＥＤ３６５と、第４横仕切部３４４よりも下側に配置されたＬＥＤ３６５と、第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第２縦仕切部３５２、第４縦仕切部３５４および第６縦仕切部３５６で仕切られたＬＥＤ３６５とからなる光源群が第２光源群に相当する。
【０２３６】
また、第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第１縦仕切部３５１、第３縦仕切部３５３および第５縦仕切部３５５で仕切られたＬＥＤ３６５が、第１部分レンズ部３３２Ｄに透過させる光を発光可能な第１光源に相当する。また、第４横仕切部３４４よりも下側に配置されたＬＥＤ３６５が、第２部分レンズ部３３２Ｅに透過させる光を発光可能な第２光源に相当する。また、第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第２縦仕切部３５２、第４縦仕切部３５４および第６縦仕切部３５６で仕切られたＬＥＤ３６５が、第３

部分レンズ部３３２Ｆに透過させる光を発光可能な第３光源に相当する。

【０２３７】

また本形態で、光源側仕切部材３６６は、前方に上側第１表示部３２１および下側第１表示部３３１を配置した場合には、仕切部材ＳＢ１，ＳＢ２，ＳＢ３，ＳＢ４を構成し（図３２参照）、前方に上側第２表示部３２２および下側第２表示部３３２を配置した場合には、仕切部材ＳＣ１，ＳＣ２，ＳＣ３，ＳＣ４，ＳＣ５，ＳＣ６，ＳＣ７を構成する（図３５参照）。すなわち、光源側仕切部材３６６は、各横仕切部３４１，３４２，３４３，３４４，３４５，３４６，３４７および各縦仕切部３５１，３５２，３５３，３５４，３５５，３５６，３５７，３５８，３５９，３６０で、上側仕切部材３２１Ｓと上側仕切部材３２２Ｓとの両方に対応する仕切パターンと、下側仕切部材３３１Ｓと下側仕切部材３３２Ｓとの両方に対応する仕切パターンとを有している。つまり、光源側仕切部材３６６は、第１表示部（上側第１表示部３２１，下側第１表示部３３１）および第２表示部（上側第２表示部３２２，下側第２表示部３３２）の両方に対応した仕切パターンを有している。

【０２３８】

５．遊技機の電気的構成

次に、図３６および図３７に基づいて、本パチンコ遊技機１における電気的な構成を説明する。図３６および図３７に示すようにパチンコ遊技機１は、大当たり抽選や遊技状態の移行などの遊技利益に関する制御を行う主制御基板（遊技制御手段に相当）８０、遊技の進行に伴って実行する演出に関する制御を行うサブ制御基板（演出制御手段，発光制御手段に相当）９０、遊技球の払い出しに関する制御を行う払出制御基板１１０等を備えている。主制御基板８０は、メイン制御部を構成し、サブ制御基板９０は、後述する画像制御基板１００、音声制御基板１０６およびランプ制御基板１０７とともにサブ制御部ＤＫを構成する。なお、サブ制御部ＤＫは、少なくともサブ制御基板９０を備え、演出手段（画像表示装置６，７や盤ランプ５、枠ランプ６６、スピーカ６７、中央可動体ユニット２０１の枠可動体１５等）を用いた遊技演出を制御可能であればよい。

【０２３９】

またパチンコ遊技機１は、電源基板１５０を備えている。電源基板１５０には、電源回路（電源手段）１５１およびバックアップ電源回路１５２が設けられている。電源回路１５１は、主制御基板８０、サブ制御基板９０および払出制御基板１１０に対して電力を供給するとともに、これらの基板を介してその他の機器に対して必要な電力を供給する。バックアップ電源回路１５２は、本パチンコ遊技機１に対して電力が供給されていない場合に、後述する主制御基板８０のＲＡＭ８４やサブ制御基板９０のＲＡＭ９４に対して電力を供給する。従って、主制御基板８０のＲＡＭ８４やサブ制御基板９０のＲＡＭ９４に記憶されている情報は、パチンコ遊技機１の電断時であっても保持される。また、電源基板１５０には、電源スイッチ１５５が接続されている。電源スイッチ１５５のＯＮ／ＯＦＦ操作により、電源の投入／遮断が切替えられる。なお、主制御基板８０のＲＡＭ８４に対するバックアップ電源回路を主制御基板８０に設けたり、サブ制御基板９０のＲＡＭ９４に対するバックアップ電源回路をサブ制御基板９０に設けたりしてもよい。

【０２４０】

図３６に示すように、主制御基板８０には、プログラムに従ってパチンコ遊技機１の遊技の進行を制御する遊技制御用ワンチップマイコン（以下「遊技制御用マイコン」）８１が実装されている。遊技制御用マイコン８１には、遊技の進行を制御するためのプログラム等を記憶したＲＯＭ８３、ワークメモリとして使用されるＲＡＭ８４、ＲＯＭ８３に記憶されたプログラムを実行するＣＰＵ８２、データや信号の入出力を行うためのＩ／Ｏポート部（入出力回路）８７が含まれている。なお、ＲＯＭ８３は外付けであってもよい。

【０２４１】

ＲＡＭ８４には、上述した特図保留記憶部８５（第１特図保留記憶部８５ａおよび第２特図保留記憶部８５ｂ）が設けられている。第１特図保留記憶部８５ａは、記憶可能な第１特図保留の数に対応した４つの記憶領域からなる。また、第２特図保留記憶部８５ｂは

記憶可能な第２特図保留の数に対応した４つの記憶領域からなる。記憶領域とは、後述の大当たり乱数を記憶する領域、当たり種別乱数を記憶する領域、リーチ乱数を記憶する領域、および、変動パターン乱数を記憶する領域である。

【０２４２】

また主制御基板８０には、図３６に示すように、中継基板８８を介して各種センサやソレノイドが接続されている。そのため、主制御基板８０には各センサから信号が入力され、各ソレノイドには主制御基板８０から信号が出力される。具体的にはセンサ類としては、第１始動口センサ２０ａ、第２始動口センサ２１ａ、ゲートセンサ２８ａ、第１大入賞口センサ３０ａ、第２大入賞口センサ３５ａ、特定領域センサ３９ａ、非特定領域センサ７０ａおよび普通入賞口センサ２７ａが接続されている。

【０２４３】

第１始動口センサ２０ａは、第１始動口２０内に設けられて第１始動口２０に入賞した遊技球を検出するものである。第２始動口センサ２１ａは、第２始動口２１内に設けられて第２始動口２１に入賞した遊技球を検出するものである。ゲートセンサ２８ａは、ゲート２８内に設けられており、ゲート２８を通過した遊技球を検出するものである。第１大入賞口センサ３０ａは、第１大入賞口３０内に設けられて第１大入賞口３０に入賞した遊技球を検出するものである。第２大入賞口センサ３５ａは、第２大入賞口３５内に設けられて第２大入賞口３５に入賞した遊技球を検出するものである。特定領域センサ３９ａは、第２大入賞口３５内の特定領域３９に設けられて特定領域３９を通過した遊技球を検出するものである。非特定領域センサ７０ａは、第２大入賞口３５内の非特定領域７０に設けられて非特定領域７０を通過した遊技球を検出するものである。普通入賞口センサ２７ａは、各普通入賞口２７内にそれぞれ設けられて普通入賞口２７に入賞した遊技球を検出するものである。

【０２４４】

またソレノイド類としては、電チューソレノイド２４、第１大入賞口ソレノイド３３、第２大入賞口ソレノイド３８および振分部材ソレノイド７３が接続されている。電チューソレノイド２４は、電チュー２２の可動部材２３を駆動するものである。第１大入賞口ソレノイド３３は、第１大入賞装置３１の開閉部材３２を駆動するものである。第２大入賞口ソレノイド３８は、第２大入賞装置３６の開閉部材３７を駆動するものである。振分部材ソレノイド７３は、第２大入賞装置３６の振分部材７１を駆動するものである。

【０２４５】

さらに主制御基板８０には、第１特別図柄表示器４１ａ、第２特別図柄表示器４１ｂ、普通図柄表示器４２、第１特図保留表示器４３ａおよび第２特図保留表示器４３ｂが接続されている。すなわち、これらの表示器類４０の表示制御は、遊技制御用マイコン８１によりなされる。

【０２４６】

また主制御基板８０は、払出制御基板１１０に各種コマンドを送信するとともに、払い出し監視のために払出制御基板１１０から信号を受信する。払出制御基板１１０には、賞球払出装置１２０、貸球払出装置１３０およびカードユニット１３５（パチンコ遊技機１に隣接して設置され、挿入されたプリペイドカード等の情報に基づいて球貸しを可能にするもの）が接続されているとともに、発射制御回路１１１を介して発射装置１１２が接続されている。発射装置１１２には、ハンドル６０（図１参照）が含まれる。

【０２４７】

払出制御基板１１０は、遊技制御用マイコン８１からの信号や、パチンコ遊技機１に接続されたカードユニット１３５からの信号に基づいて、賞球払出装置１２０の賞球モータ１２１を駆動して賞球の払い出しを行ったり、貸球払出装置１３０の球貸モータ１３１を駆動して貸球の払い出しを行ったりする。払い出される賞球は、その計数のため賞球センサ１２２により検知される。また払い出される貸球は、その計数のため球貸センサ１３２により検知される。なお遊技者による発射装置１１２のハンドル６０（図１参照）の操作があった場合には、タッチスイッチ１１４がハンドル６０への接触を検知し、発射ボリュ

ーム１１５がハンドル６０の回転量を検知する。そして、発射ボリューム１１５の検知信号の大きさに応じた強さで遊技球が発射されるよう発射モータ１１３が駆動されることとなる。なお本パチンコ遊技機１においては、０．６秒程度で一発の遊技球が発射されるようになっている。

【０２４８】

また主制御基板８０は、サブ制御基板９０に対し各種コマンドを送信する。主制御基板８０とサブ制御基板９０との接続は、主制御基板８０からサブ制御基板９０への信号の送信のみが可能な単方向通信接続となっている。すなわち、主制御基板８０とサブ制御基板９０との間には、通信方向規制手段としての図示しない単方向性回路（例えばダイオードを用いた回路）が介在している。

【０２４９】

図３７に示すように、サブ制御基板９０には、プログラムに従ってパチンコ遊技機１の演出を制御する演出制御用ワンチップマイコン（以下「演出制御用マイコン」）９１が実装されている。演出制御用マイコン９１には、遊技の進行に伴って演出を制御するためのプログラム等を記憶したＲＯＭ９３、ワークメモリとして使用されるＲＡＭ９４、ＲＯＭ９３に記憶されたプログラムを実行するＣＰＵ９２、データや信号の入出力を行うためのＩ／Ｏポート部（入出力回路）９７が含まれている。なお、ＲＯＭ９３は外付けであってもよい。

【０２５０】

サブ制御基板９０には、図３７に示すように、画像制御基板１００、音声制御基板１０６、ランプ制御基板１０７および枠中継基板９９が接続されている。サブ制御基板９０の演出制御用マイコン９１は、主制御基板８０から受信したコマンドに基づいて、画像制御基板１００のＣＰＵ１０２に第１画像表示装置６および第２画像表示装置７の表示制御を行わせる。画像制御基板１００のＲＡＭ１０４は、画像データを展開するためのメモリである。画像制御基板１００のＲＯＭ１０３には、第１画像表示装置６および第２画像表示装置７に表示される静止画データや動画データ、具体的にはキャラクタ、アイテム、図形、文字、数字および記号等（装飾図柄を含む）や背景画像等の画像データが格納されている。画像制御基板１００のＣＰＵ１０２は、演出制御用マイコン９１からの指令に基づいてＲＯＭ１０３から画像データを読み出す。そして、読み出した画像データに基づいて表示制御を実行する。

【０２５１】

また演出制御用マイコン９１は、主制御基板８０から受信したコマンドに基づいて、音声制御基板１０６を介してスピーカ６７（左側スピーカ６７Ｌ，右側スピーカ６７Ｒ）から音声、楽曲、効果音等を出力する。スピーカ６７から出力する音声等の音響データは、サブ制御基板９０のＲＯＭ９３に格納されている。なお、音声制御基板１０６にＣＰＵを実装してもよく、その場合、そのＣＰＵに音声制御を実行させてもよい。さらにこの場合、音声制御基板１０６にＲＯＭを実装してもよく、そのＲＯＭに音響データを格納してもよい。また、スピーカ６７を画像制御基板１００に接続し、画像制御基板１００のＣＰＵ１０２に音声制御を実行させてもよい。さらにこの場合、画像制御基板１００のＲＯＭ１０３に音響データを格納してもよい。

【０２５２】

また、演出制御用マイコン９１は、主制御基板８０から受信したコマンドに基づいて、ランプ制御基板１０７を介して枠ランプ６６や盤ランプ５等のランプの点灯制御を行う。詳細には演出制御用マイコン９１は、枠ランプ６６や盤ランプ５等のランプの発光態様を決める発光パターンデータ（点灯/消灯や発光色等を決めるデータ、ランプデータともいう）を作成し、発光パターンデータに従って枠ランプ６６や盤ランプ５などのランプの発光を制御する。なお、発光パターンデータの作成にはサブ制御基板９０のＲＯＭ９３に格納されているデータを用いる。

【０２５３】

また、演出制御用マイコン９１は、主制御基板８０から受信したコマンドに基づいて、

枠中継基板９９に接続された枠可動体１５（図３７参照）を動作させる。演出制御用マイコン９１は、枠可動体１５の動作態様を決める動作パターンデータ（駆動データともいう）を作成し、動作パターンデータに従って枠可動体１５の動作を制御する。動作パターンデータの作成にはサブ制御基板９０のＲＯＭ９３に格納されているデータを用いる。

【０２５４】

また、枠中継基板９９には、演出ボタン検出スイッチ（ＳＷ）６３ａおよび十字キー検出スイッチ６８ａが接続されている。演出ボタン検出スイッチ６３ａは、演出ボタン６３（図１参照）が押下操作されたことを検出するものである。演出ボタン６３が押されると演出ボタン検出スイッチ６３ａからサブ制御基板９０に対して検知信号が出力される。また、十字キー検出スイッチ６８ａは、十字キー６８（図１参照）が操作されたことを検出するものである。十字キー６８をなす各種ボタン（「上ボタン」，「下ボタン」，「右ボタン」，「左ボタン」）が操作されると、その操作に応じた検知信号が、十字キー検出スイッチ６８ａからサブ制御基板９０に対して出力される。

【０２５５】

なお、ランプ制御基板１０７にＣＰＵを実装してもよく、そのＣＰＵにランプの点灯制御を実行させてもよい。また、ランプ制御基板１０７に枠可動体６００を接続して、ランプ制御基板１０７に枠可動体１５の動作制御をさせてもよい。さらにこの場合、ランプ制御基板１０７にＲＯＭを実装してもよく、そのＲＯＭに発光パターンや動作パターンに関するデータを格納してもよい。

【０２５６】

６．大当たり等の説明

本形態のパチンコ遊技機１では、大当たり抽選（特別図柄抽選）の結果として、「大当たり」と「はずれ」がある。「大当たり」のときには、特別図柄表示器４１に「大当たり図柄」が停止表示される。「はずれ」のときには、特別図柄表示器４１に「ハズレ図柄」が停止表示される。大当たりに当選すると、停止表示された特別図柄の種類（大当たりの種類）に応じた開放パターンにて、大入賞口（第１大入賞口３０および第２大入賞口３５）を開放させる「大当たり遊技」が実行される。大当たり遊技は、特別遊技の一例である。

【０２５７】

大当たり遊技は、本形態では、複数回のラウンド遊技（単位開放遊技）と、初回のラウンド遊技が開始される前のオープニング（ＯＰとも表記する）と、最終回のラウンド遊技が終了した後のエンディング（ＥＤとも表記する）とを含んでいる。各ラウンド遊技は、ＯＰの終了又は前のラウンド遊技の終了によって開始し、次のラウンド遊技の開始又はＥＤの開始によって終了する。ラウンド遊技間の大入賞口の閉鎖の時間（インターバル時間）は、その閉鎖前の開放のラウンド遊技に含まれる。

【０２５８】

大当たりには複数の種別がある。大当たりの種別については図３８に示す通りである。図３８に示すように、本形態では大当たりの種別としては、大きく分けて２つ（Ｖロング大当たりとＶショート大当たり）ある。「Ｖロング大当たり」は、その大当たり遊技中に特定領域３９への遊技球の通過が容易に可能な第１開放パターン（Ｖロング開放パターン）で開閉部材３２および開閉部材３７を作動させる大当たりである。「Ｖショート大当たり」は、その大当たり遊技中に特定領域３９への遊技球の通過が不可能又は困難な第２開放パターン（Ｖショート開放パターン）で開閉部材３２および開閉部材３７を作動させる大当たりである。

【０２５９】

より具体的には、「Ｖロング大当たり」は、総ラウンド数が１６Ｒである（図３８参照）。１Ｒから１３Ｒまでと１５Ｒは第１大入賞口３０を１Ｒ当たり最大２９．５秒にわたって開放する。１４Ｒと１６Ｒは第２大入賞口３５を１Ｒ当たり最大２９．５秒にわたって開放する。この１４Ｒおよび１６Ｒでは、第２大入賞口３５内の特定領域３９への通過が容易に可能である。

【０２６０】
これに対して、「Ｖショート大当たり」は、総ラウンド数は１６Ｒであるものの、実質的な総ラウンド数は１３Ｒである（図３９参照）。つまり、１Ｒから１３Ｒまでは第１大入賞口３０を１Ｒ当たり最大２９．５秒にわたって開放するが、１５Ｒでは第１大入賞口３０を１Ｒ当たり０．１秒しか開放せず、また、１４Ｒと１６Ｒでも第２大入賞口３５を１Ｒ当たり０．１秒しか開放しない。従って、このＶショート大当たりでは１４Ｒから１６Ｒまでは、大入賞口の開放時間が極めて短く、賞球の見込めないラウンドとなっている。つまり、Ｖショート大当たりは実質１３Ｒの大当たりとなっている。
【０２６１】
また、Ｖショート大当たりにおける１４Ｒと１６Ｒでは第２大入賞口３５が開放されるものの、その開放時間が極めて短く、第２大入賞口３５内の特定領域３９に遊技球が通過することはほぼ不可能となっている。なお、Ｖショート大当たりにおける１４Ｒおよび１６Ｒでは、第２大入賞口３５の開放時間が短いことだけでなく、第２大入賞口３５の開放タイミングと振分部材７１の作動タイミング（第２の状態（図９（Ｂ）参照）から第１の状態（図９（Ａ）参照）に制御されるタイミング）との関係からも、特定領域３９に遊技球が通過することはほぼ不可能となっている。
【０２６２】
本形態のパチンコ遊技機１では、大当たり遊技中の特定領域３９への遊技球の通過に基づいて、その大当たり遊技の終了後の遊技状態を、後述の高確率状態に移行させる。従って、上記のＶロング大当たりに当選した場合には、大当たり遊技の実行中に特定領域３９へ遊技球を通過させることで、大当たり遊技後の遊技状態を高確率状態に移行させ得る。これに対して、Ｖショート大当たりに当選した場合には、その大当たり遊技の実行中に特定領域３９へ遊技球を通過させることができないため、その大当たり遊技後の遊技状態は、後述の通常確率状態（非高確率状態）となる。
【０２６３】
なお、図３８に示すように、第１特別図柄（特図１）の抽選における大当たりの振分率は、Ｖロング大当たりが５０％、Ｖショート大当たりが５０％となっている。これに対して、第２特別図柄（特図２）の抽選において当選した大当たりは、全てＶロング大当たりとなっている。すなわち、後述の電サポ制御の実行により入球可能となる第２始動口２１への入賞に基づく抽選により大当たりに当選した場合には、必ずＶロング大当たりとなる。このように本パチンコ遊技機１では、第１始動口２０に遊技球が入賞して行われる大当たり抽選（第１特別図柄の抽選）よりも、第２始動口２１に遊技球が入賞して行われる大当たり抽選（第２特別図柄の抽選）の方が、遊技者にとって有利となるように設定されている。
【０２６４】
ここで本パチンコ遊技機１では、大当たりか否かの抽選は「大当たり乱数」に基づいて行われ、当選した大当たりの種別の抽選は「大当たり種別乱数」に基づいて行われる。図４０（Ａ）に示すように、大当たり乱数は０～６５５３５までの範囲で値をとる。大当たり種別乱数は、０～９までの範囲で値をとる。なお、第１始動口２０又は第２始動口２１への入賞に基づいて取得される乱数には、大当たり乱数および大当たり種別乱数の他に、「リーチ乱数」および「変動パターン乱数」がある。
【０２６５】
リーチ乱数は、大当たり判定の結果がはずれである場合に、その結果を示す演出図柄変動演出においてリーチを発生させるか否かを決める乱数である。リーチとは、複数の演出図柄（装飾図柄）のうち変動表示されている演出図柄が残り一つとなっている状態であって、変動表示されている演出図柄がどの図柄で停止表示されるか次第で大当たり当選を示す演出図柄の組み合わせとなる状態（例えば「７↓７」の状態）のことである。なお、リーチ状態において停止表示されている演出図柄は、表示画面７ａ内で多少揺れているように表示されていてもよい。このリーチ乱数は、０～１２７までの範囲で値をとる。
【０２６６】

また、変動パターン乱数は、変動時間を含む変動パターンを決めるための乱数である。変動パターン乱数は、０～１２７までの範囲で値をとる。また、ゲート２８の通過に基づいて取得される乱数には、図４０（Ｂ）に示す普通図柄乱数（当たり乱数）がある。普通図柄乱数は、電チュー２２を開放させる補助遊技を行うか否かの抽選（普通図柄抽選）のための乱数である。普通図柄乱数は、０～２５５までの範囲で値をとる。

【０２６７】

７．遊技状態の説明

次に、本形態のパチンコ遊技機１の遊技状態に関して説明する。パチンコ遊技機１の特別図柄表示器４１および普通図柄表示器４２には、それぞれ、確率変動機能と変動時間短縮機能がある。特別図柄表示器４１の確率変動機能が作動している状態を「高確率状態」といい、作動していない状態を「通常確率状態（非高確率状態）」という。高確率状態では、大当たり確率が通常確率状態よりも高くなっている。すなわち、大当たりと判定される大当たり乱数の値が通常確率状態で用いる大当たり判定テーブルよりも多い大当たり判定テーブルを用いて、大当たり判定を行う（図４１（Ａ）参照）。つまり、特別図柄表示器４１の確率変動機能が作動すると、作動していないときに比して、特別図柄表示器４１による特別図柄の可変表示の表示結果（すなわち停止図柄）が大当たり図柄となる確率が高くなる。

【０２６８】

また、特別図柄表示器４１の変動時間短縮機能が作動している状態を「時短状態」といい、作動していない状態を「非時短状態」という。時短状態では、特別図柄の変動時間（変動表示開始時から表示結果の導出表示時までの時間）が、非時短状態よりも短くなっている。すなわち、変動時間の短い変動パターンが選択されることが非時短状態よりも多くなるように定められた変動パターンテーブルを用いて、変動パターンの判定を行う（図４２参照）。つまり、特別図柄表示器４１の変動時間短縮機能が作動すると、作動していないときに比して、特別図柄の可変表示の変動時間として短い変動時間が選択されやすくなる。その結果、時短状態では、特図保留の消化のペースが速くなり、始動口への有効な入賞（特図保留として記憶され得る入賞）が発生しやすくなる。そのため、スムーズな遊技の進行のもとで大当たりを狙うことができる。

【０２６９】

特別図柄表示器４１の確率変動機能と変動時間短縮機能とは同時に作動することもあるし、片方のみが作動することもある。そして、普通図柄表示器４２の確率変動機能および変動時間短縮機能は、特別図柄表示器４１の変動時間短縮機能に同期して作動するようになっている。すなわち、普通図柄表示器４２の確率変動機能および変動時間短縮機能は、時短状態において作動し、非時短状態において作動しない。よって、時短状態では、普通図柄抽選における当選確率が非時短状態よりも高くなっている。すなわち、当たりと判定される普通図柄乱数（当たり乱数）の値が非時短状態で用いる普通図柄当たり判定テーブルよりも多い普通図柄当たり判定テーブルを用いて、当たり判定（普通図柄の判定）を行う（図４１（Ｃ）参照）。つまり、普通図柄表示器４２の確率変動機能が作動すると、作動していないときに比して、普通図柄表示器４２による普通図柄の可変表示の表示結果が、普通当たり図柄となる確率が高くなる。

【０２７０】

また時短状態では、普通図柄の変動時間が非時短状態よりも短くなっている。本形態では、普通図柄の変動時間は非時短状態では３０秒であるが、時短状態では１秒である（図４１（Ｄ）参照）。さらに時短状態では、補助遊技における電チュー２２の開放時間が、非時短状態よりも長くなっている（図４３参照）。すなわち、電チュー２２の開放時間延長機能が作動している。加えて時短状態では、補助遊技における電チュー２２の開放回数が非時短状態よりも多くなっている（図４３参照）。すなわち、電チュー２２の開放回数増加機能が作動している。

【０２７１】

普通図柄表示器４２の確率変動機能と変動時間短縮機能、および、電チュー２２の開放

時間延長機能と開放回数増加機能が作動している状況下では、これらの機能が作動していない場合に比して、電チュー２２が頻繁に開放され、第２始動口２１へ遊技球が頻繁に入賞することとなる。その結果、発射球数に対する賞球数の割合であるベースが高くなる。従って、これらの機能が作動している状態を「高ベース状態」といい、作動していない状態を「低ベース状態」という。高ベース状態では、手持ちの遊技球を大きく減らすことなく大当たりを狙うことができる。なお、高ベース状態とは、いわゆる電サポ制御（電チュー２２により第２始動口２１への入賞をサポートする制御）が実行されている状態である。

【０２７２】

高ベース状態（電サポ制御状態）は、上記の全ての機能が作動するものでなくてもよい。すなわち、普通図柄表示器４２の確率変動機能、普通図柄表示器４２の変動時間短縮機能、電チュー２２の開放時間延長機能、および、電チュー２２の開放回数増加機能のうち一つ以上の機能の作動によって、その機能が作動していないときよりも電チュー２２が開放され易くなっていればよい。また、高ベース状態（電サポ制御状態）は、時短状態に付随せずに独立して制御されるようにしてもよい。

【０２７３】

本形態のパチンコ遊技機１では、Ｖロング大当たりへの当選による大当たり遊技後の遊技状態は、その大当たり遊技中に特定領域３９への通過がなされていれば、高確率状態かつ時短状態かつ高ベース状態である。この遊技状態を特に「高確高ベース状態」という。高確高ベース状態は、所定回数（本形態では１６０回）の特別図柄の可変表示が実行されるか、又は、大当たりに当選してその大当たり遊技が実行されることにより終了する。

【０２７４】

また、Ｖショート大当たりへの当選による大当たり遊技後の遊技状態は、その大当たり遊技中に特定領域３９の通過がなされていなければ（なされることは略ない）、通常確率状態（非高確率状態すなわち低確率の状態）かつ時短状態かつ高ベース状態である。この遊技状態を特に「低確高ベース状態」という。低確高ベース状態は、所定回数（本形態では１００回）の特別図柄の可変表示が実行されるか、又は、大当たりに当選してその大当たり遊技が実行されることにより終了する。

【０２７５】

なお、パチンコ遊技機１を初めて遊技する場合において電源投入後の遊技状態は、通常確率状態かつ非時短状態かつ低ベース状態（非電サポ制御状態）である。この遊技状態を特に「低確低ベース状態」という。低確低ベース状態を「通常遊技状態」と称することもある。また、特別遊技（大当たり遊技）の実行中の状態を「特別遊技状態（大当たり遊技状態）」と称することとする。さらに、高確率状態および高ベース状態のうち少なくとも一方の状態に制御されている状態を「特定遊技状態」という。

【０２７６】

高確高ベース状態や低確高ベース状態といった高ベース状態では、右打ちにより右遊技領域３Ｂ（図８参照）へ遊技球を進入させた方が有利に遊技を進行できる。電サポ制御により低ベース状態と比べて電チュー２２が開放されやすくなっており、第１始動口２０への入賞よりも第２始動口２１への入賞の方が容易となっているからである。そのため、普通図柄抽選の契機となるゲート２８へ遊技球を通過させつつ、第２始動口２１へ遊技球を入賞させるべく右打ちを行う。これにより左打ちをするよりも、多数の始動入賞（始動口への入賞）を得ることができる。なお本パチンコ遊技機１では、大当たり遊技中も右打ちにて遊技を行う。

【０２７７】

これに対して、低ベース状態では、左打ちにより左遊技領域３Ａ（図８参照）へ遊技球を進入させた方が有利に遊技を進行できる。電サポ制御が実行されていないため、高ベース状態と比べて電チュー２２が開放されにくくなっており、第２始動口２１への入賞よりも第１始動口２０への入賞の方が容易となっているからである。そのため、第１始動口２０へ遊技球を入賞させるべく左打ちを行う。これにより右打ちするよりも、多数の始動入

賞を得ることができる。

【０２７８】

８．パチンコ遊技機１の動作

次に、図４４に基づいて遊技制御用マイコン８１の動作について説明し、図４５～図４６に基づいて演出制御用マイコン９１の動作について説明する。まず、遊技制御用マイコン８１の動作について説明する。

【０２７９】

［メイン側タイマ割り込み処理］遊技制御用マイコン８１は、図４４に示すメイン側タイマ割り込み処理を例えば４ｍｓｅｃといった短時間毎に繰り返す。まず、遊技制御用マイコン８１は、大当たり抽選に用いる大当たり乱数、大当たりの種別を決めるための当たり種別乱数、装飾図柄変動演出においてリーチ状態とするか否か決めるためのリーチ乱数、変動パターンを決めるための変動パターン乱数、普通図柄抽選に用いる普通図柄乱数（当たり乱数）等を更新する乱数更新処理を行う(S101)。なお各乱数の少なくとも一部は、カウンタＩＣ等からなる公知の乱数生成回路を利用して生成される、いわゆるハードウェア乱数であってもよい。全ての乱数をハードウェア乱数とする場合、ソフトウェアによる乱数の更新処理は必要ない。また乱数発生回路は、遊技制御用マイコン８１に内蔵されていてもよい。

【０２８０】

次に、遊技制御用マイコン８１は、入力処理を行う(S102)。入力処理(S102)では、主にパチンコ遊技機１に取り付けられている各種センサ（第１始動口センサ２０ａ、第２始動口センサ２１ａ、第１大入賞口センサ３０ａ、第２大入賞口センサ３５ａ、普通入賞口センサ２７ａ等（図３６参照））が検知した検出信号を読み込み、入賞口の種類に応じた賞球を払い出すための払い出しデータをＲＡＭ８４の所定の記憶領域にセットする。

【０２８１】

続いて、遊技制御用マイコン８１は、始動口センサ検出処理(S103)、特別動作処理(S104)および普通動作処理(S105)を実行する。始動口センサ検出処理(S103)では、第１始動口センサ２０ａによる入賞検知があれば、保留記憶が４個未満であることを条件に大当たり乱数等の乱数（図４０（Ａ）参照）を取得する。また、第２始動口センサ２１ａによる入賞検知があれば、保留記憶が４個未満であることを条件に大当たり乱数等の乱数（図４０（Ａ）参照）を取得する。また、ゲートセンサ２８ａによる通過検知があれば、すでに記憶されている当たり乱数が４個未満であることを条件に普通図柄乱数（図４０（Ｂ）参照）を取得する。

【０２８２】

特別動作処理(S104)では、始動口センサ検出処理にて取得した大当たり乱数等の乱数を所定の判定テーブルを用いて判定する。そして、大当たり抽選の結果を示すための特別図柄の表示（変動表示と停止表示）を行う。この特別図柄の表示に際しては、特別図柄の変動表示の変動パターンの情報を含む変動開始コマンドをＲＡＭ８４の所定の記憶領域にセットする。そして、大当たり乱数の判定の結果、大当たりに当選していた場合には、大当たりの種別に応じた所定の開放パターン（開放時間や開放回数、図３９参照）に従って第１大入賞口３０，第２大入賞口３５を開放させる大当たり遊技（特別遊技）を行う。この大当たり遊技の実行に際しては、当選した大当たり図柄の種別の情報を含むオープニングコマンドをＲＡＭ８４の所定の記憶領域にセットする。なお特別動作処理(S104)において、大当たり乱数等の乱数の記憶がない場合には、演出制御用マイコン９１に客待ち演出を実行させるための客待ち待機コマンドをセットする。

【０２８３】

普通動作処理(S105)では、始動口センサ検出処理にて取得した普通図柄乱数を所定の判定テーブルを用いて判定する。そして、その判定結果を報知するための普通図柄の表示（変動表示と停止表示）を行う。普通図柄乱数の判定の結果、普通当たり図柄に当選していた場合には、遊技状態に応じた所定の開放パターン（開放時間や開放回数、図３９参照）に従って電チュー２２を開放させる補助遊技を行う。

【０２８４】
次に、遊技制御用マイコン８１は、上述の各処理においてセットしたコマンド等をサブ制御基板９０等に出力する出力処理(S106)を行う。
【０２８５】
以上の遊技制御用マイコン８１における処理と並行して、演出制御用マイコン９１は図４５～図４６に示す処理を行う。演出制御用マイコン９１の動作について、以下に説明する。
【０２８６】
［サブ側タイマ割り込み処理］演出制御用マイコン９１は、図４５に示すようなサブ側タイマ割り込み処理を所定の短時間毎に繰り返す。サブ側タイマ割り込み処理ではまず、受信コマンド解析処理(S1001)を行う。
【０２８７】
［受信コマンド解析処理］図４６に示すように、受信コマンド解析処理(S1001)では演出制御用マイコン９１はまず、遊技制御用マイコン８１から変動開始コマンドを受信しているか否かを判定する(S1101)。受信していなければ、ステップS1104に進むが、受信していれば、変動演出パターン選択処理(S1102)を行う。
【０２８８】
変動演出パターン選択処理(S1102)では、変動演出パターン決定用乱数を取得するとともに、変動開始コマンドの解析結果等に基づいて一つのテーブルを選択し、その選択したテーブルを用いて、取得した変動演出パターン決定用乱数を判定することにより、変動演出パターンを選択する。なお、選択した変動演出パターンを示すデータはＲＡＭ９４の所定の記憶領域に格納される。この変動演出パターンの選択により、盤ランプ５を発光させる演出の実行の有無やそのタイミング、枠ランプ６６を発光させる演出の実行の有無やそのタイミング、枠可動体１５を動作させる演出の実行の有無やそのタイミング、さらに、右側可動体ユニット２０２Ｒの右側可動体２０３のＬＥＤ３６５、および、左側可動体ユニット２０２Ｌの左側可動体２５３のＬＥＤ３６５を発光させる演出（第１表示演出）の実行の有無やそのタイミングといった詳細までを含めて演出の内容が決定される。
【０２８９】
本形態では、右側可動体２０３のＬＥＤ３６５、および、左側可動体２５３のＬＥＤ３６５を発光させる演出として、図４８（Ａ）に示すような第１表示演出がある。第１表示演出は、変動表示中の特別図柄の抽選結果（判定結果）について、メータを用いて示す表示演出である。具体的には、６つの領域の色を白色から他の色に変更表示して、当選の期待度を遊技者に示す演出である。
【０２９０】
次に演出制御用マイコン９１は、ステップS1102で選択した変動演出パターンで変動演出を開始させるための変動演出開始コマンドを、ＲＡＭ９４の所定の記憶領域にセットする(S1103)。そしてステップS1104に進む。
【０２９１】
なお、決定された演出に上記第１表示演出がある場合には、サブ側タイマ割り込み処理（図４５）のステップS1004の可動体処理にて、各可動体２０３，２５３の上側回転体３２０および下側回転体３３０の表示部を、上側第１表示部３２１および下側第１表示部３３１に切り替える。さらに、ステップS1005のランプ処理にて、第１表示演出を実行する。すなわち、各可動体２０３，２５３のＬＥＤ３６５を発光させる。このように、ＲＡＭ９４の所定の記憶領域に、上記第１表示演出に関する変動演出開始コマンドがセットされた場合が、第１表示演出の実行条件の成立に該当する。つまり、このような場合が、「第１の実行条件が成立した場合」に相当する。
【０２９２】
ステップS1104では演出制御用マイコン９１は、遊技制御用マイコン８１からオープニングコマンドを受信しているか否かを判定する。受信していなければ、ステップS1107に進むが、受信していれば、大当たり演出パターン選択処理(S1105)を行う。

【０２９３】
大当たり演出パターン選択処理(S1105)では、オープニングコマンドの解析結果に基づいて、大当たり遊技中に実行する大当たり演出の演出パターン（大当たり演出パターン）を選択する。なお、ここで選択した大当たり演出パターンを示すデータはＲＡＭ９４の所定の記憶領域に格納される。この大当たり演出パターンの選択により、大当たり遊技中における盤ランプ発光演出の実行の有無やそのタイミング、可動体駆動演出の実行の有無やそのタイミング、さらに、右側可動体ユニット２０２Ｒの右側可動体２０３のＬＥＤ３６５、および、左側可動体ユニット２０２Ｌの左側可動体２５３のＬＥＤ３６５を発光させる演出（第２表示演出）の実行の有無やそのタイミングといった詳細までを含めて演出の内容が決定される。
【０２９４】
本形態では、右側可動体２０３のＬＥＤ３６５、および、左側可動体２５３のＬＥＤ３６５を発光させる演出として、図４８（Ｂ）に示すような第２表示演出がある。第２表示演出は、装飾図柄表示演出である。すなわち、大当たり遊技の間、大当たり時にゾロ目で停止した装飾図柄の数字を表示する演出である。
【０２９５】
次に演出制御用マイコン９１は、ステップS1105で選択した大当たり演出パターンで大当たり演出を開始させるための大当たり演出開始コマンドを、ＲＡＭ９４の所定の記憶領域にセットする(S1106)。その後、その他の処理として他の受信コマンドに基づく処理を行って(S1107)、受信コマンド解析処理を終える。
【０２９６】
本形態では、決定された演出に上記第２表示演出がある場合には、サブ側タイマ割り込み処理（図４５）のステップS1004の可動体処理にて、各可動体２０３，２５３の上側回転体３２０および下側回転体３３０の表示部を、上側第２表示部３２２および下側第２表示部３３２に切り替える。さらに、ステップS1005のランプ処理にて、第２表示演出を実行する。すなわち、各可動体２０３，２５３の所望のＬＥＤ３６５を発光させる。このように、ＲＡＭ９４の所定の記憶領域に、第２表示演出に関する変動演出開始コマンドがセットされた場合が、第２表示演出の実行条件の成立に該当する。つまり、このような場合が、「第２の実行条件が成立した場合」や「表示演出の実行条件が成立した場合」に相当する。
【０２９７】
図４５に戻り、演出制御用マイコン９１は、受信コマンド解析処理(S1001)に続いてコマンド送信処理(S1002)を行う。コマンド送信処理(S1002)では、受信コマンド解析処理でセットした各種コマンドを画像制御基板１００に送信する。コマンド送信処理が実行されると、コマンドを受信した画像制御基板１００は、画像表示装置６，７を用いて各種の演出（変動演出や大当たり演出、客待ち演出など）を実行する。例えば、ステップS1103でセットされた変動演出開始コマンドを受信した画像制御基板１００は、変動演出開始コマンドに指定された内容の変動演出を実行する。
【０２９８】
続いて演出制御用マイコン９１は、音声処理(S1003)を行う。音声処理(S1003)では、受信コマンド解析処理で選択した演出パターンの演出に合うタイミングでスピーカ６７から音声等を出力させるべく、音データ（スピーカ６７からの音声等の出力を制御するデータ）を作成したり、音声制御基板１０６に出力したりする。次に演出制御用マイコン９１は、可動体処理(S1004)およびランプ処理(S1005)を行う。
【０２９９】
可動体処理(S1004)では、ＲＡＭ９４にセットされた変動演出開始コマンドや大当たり演出開始コマンドに基づいて、各可動体２０３，２５３の上側回転体３２０および下側回転体３３０をそれぞれ回転移動させて、遊技者に示す表示部（上側表示部，下側表示部）を切り替える処理を行う。
【０３００】

例えば、ＲＡＭ９４にセットされた変動演出開始コマンドに上記第１表示演出に関するものがある場合には、各可動体２０３，２５３の上側回転体３２０および下側回転体３３０をそれぞれ回転移動させて、遊技者に示す表示部を、上側第１表示部３２１および下側第１表示部３３１に切り替える（図４８（Ａ）参照）。また例えば、大当たり演出開始コマンドがＲＡＭ９４にセットされた場合には、各可動体２０３，２５３の上側回転体３２０および下側回転体３３０をそれぞれ回転移動させて、遊技者に示す表示部を、上側第２表示部３２２および下側第２表示部３３２に切り替える（図４８（Ｂ）参照）。なお回転移動の際、下側回転体３３０を、上側回転体３２０の回転方向とは逆方向に回転させる。

【０３０１】

ランプ処理(S1005)では、例えば、ＲＡＭ９４にセットされた変動演出開始コマンドに上記第１表示演出に関するものがある場合には、各可動体２０３，２５３のＬＥＤ３６５を用いて上述した第１表示演出を実行する（図４８（Ａ）参照）。また例えば、大当たり演出開始コマンドがＲＡＭ９４にセットされた場合には、各可動体２０３，２５３のＬＥＤ３６５を用いて上述した第２表示演出を実行する（図４８（Ｂ）参照）。

【０３０２】

９．本形態の効果等

以上詳細に説明したように本形態のパチンコ遊技機１では、遊技機枠５０は、図２３に示す第１位置と、図２４に示す第２位置との間で変位可能な左側可動体２５３を備えているので、複数の態様に変化可能な遊技機枠５０を備えたパチンコ遊技機１とすることが可能となっている。

【０３０３】

左側可動体２５３が第２位置にある状態で内枠５２が開いた場合には、第１位置にある場合よりも、左側可動体２５３の上部の先端部が前方にある分、小さい回転角度で当該パチンコ遊技機１の外部に到達し易い。左側可動体２５３がパチンコ遊技機１の外部に到達してしまうと、隣のパチンコ遊技機など遊技場（ホール）の設備との間で接触や衝突が発生し易くなる。

【０３０４】

これに対し、本パチンコ遊技機１の左側可動体２５３は、開閉枠ＫＷが開く場合には、前方に傾いた状態となる第２位置から、直立した状態となる第１位置に変位し得る（図２６参照）。よって、左側可動体２５３が第２位置にある状態、すなわち前方に傾いた状態で開閉枠ＫＷが開いてしまうのを防ぐことが可能となっている。従って、左側可動体２５３が前方にある状態で開閉枠ＫＷが開いた場合に生じ得る不具合（例えば、左側可動体２５３への衝突等）の発生を抑えることが可能となっている。

【０３０５】

また、変位機構をなす左側ベース部２６０には、開閉枠ＫＷが開く場合に左側可動体２５３を第１位置に配置させ得るコイルスプリング２９９が設けられている（図２３参照）。しかも、そのコイルスプリング２９９は、開閉枠ＫＷが開く場合には左第３アーム２７６を付勢して第１状態にさせ得るものである。このため、開閉枠ＫＷが開く場合には、コイルスプリング２９９の付勢によって、左側可動体２５３を第１位置に配置させることが可能となっている。かくして、左側可動体２５３が第２位置にある状態で開閉枠ＫＷが開いてしまうのを確実に防ぐことが可能となっている。

【０３０６】

また、左側に配された回動軸を中心として開閉枠ＫＷが開く場合に、左側可動体２５３および右側可動体２０３のうち、回動軸に近い遊技機枠５０の左側に配置されている左側可動体２５３の方が、右側可動体２０３よりも小さい回転角度でパチンコ遊技機１の外部に到達し易い。

【０３０７】

これに対し、本パチンコ遊技機１では、回動軸に近い左側に配置された左側可動体２５３について、開閉枠ＫＷが開く場合に第２位置から第１位置に変位させるため、開閉枠ＫＷが開いたときの左側可動体２５３への衝突の発生を確実に抑えることが可能になってい

る。
【０３０８】
　また、遊技機枠５０の上部に配置された左側可動体２５３は、第２位置にある場合には後方から前方にかけて下向きに傾斜した状態である。そのため、第２位置に変位させることで、遊技者に見やすい位置に左側可動体２５３を配置可能となっている。よって、開閉枠ＫＷを閉じた遊技可能な状態のパチンコ遊技機１では、左側可動体２５３に設けた左側可動体ランプ６９Ｌを用いた演出（第１表示演出，第２表示演出）を、遊技者に見やすい位置で実行可能となっている。
【０３０９】
　また、本形態のパチンコ遊技機１では、左側可動体２５３は、開閉枠ＫＷが閉じる場合には図２３に示す第１位置から、その第１位置よりも遊技者に視認させ易い、図２４に示す第２位置に変位可能である。よって、開閉枠ＫＷが閉じ終えたときには、そのような第２位置に左側可動体２５３を自動的に配置させることが可能となっている。従って、開閉枠ＫＷを閉じる際に、遊技者にとって見やすい位置（第２位置）に左側可動体２５３を変位し忘れてしまうのを防止可能となっている。
【０３１０】
　特に、本形態のパチンコ遊技機１では、左側可動体２５３の第２位置とは第１位置よりも遊技者に視認させ易い位置である。よって、開閉枠ＫＷを閉じる際に、遊技者にとって見やすい位置（第２位置）に左側可動体２５３を変位し忘れてしまうのを防止可能となっている。
【０３１１】
　また、押圧部材５８は、開閉枠ＫＷが閉じる場合には、左第１アーム２６６を押圧して第２状態にさせ得る（図２４参照）。よって、開閉枠ＫＷが閉じ終えたときには、左側可動体２５３を第２位置に確実に配置させることが可能となっている。
【０３１２】
　また、左側ベース部２６０は、左第３アーム２７６を付勢して第１状態にさせ得るコイルスプリング２９９を備えている。そして、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６は、開閉枠ＫＷが開いているときには、そのコイルスプリング２９９の付勢によって第１状態になり得る一方、開閉枠ＫＷが閉じているときには、押圧部材５８の押圧によって第２状態になり得る。よって、開閉枠ＫＷが開いているときには左側可動体２５３を第１位置に確実に配置させ、閉じているときには第２位置に確実に配置させることが可能となっている。
【０３１３】
　また、台座２９５は、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６が第２状態のときに、第２位置から第１位置に左側可動体２５３が変位した場合には、その変位とともに、第２姿勢から第１姿勢に変更され得る（図２５参照）。このため、例えば遊技者によって、第２位置にある左側可動体２５３が第１位置に故意に変位させられたとしても、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６について第２状態のままとし、押圧部材５８について左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔを押圧した状態のままとすることが可能となっている。つまり、第２位置にある左側可動体２５３にそのような変位が生じた場合でも、左第１アーム２６６、左第２アーム２７１および左第３アーム２７６や押圧部材５８に無理な力がかかって不具合が発生するのを防止可能となっている。
【０３１４】
　また、押圧部材５８は、前枠５３が閉じる場合も内枠５２が閉じる場合も、姿勢保持部材５７によって左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔを押圧し得る。よって、左第１アーム２６６の被押圧部２６６Ｔを押圧する押圧部材５８を内枠５２に設けた本パチンコ遊技機１について、前枠５３が閉じる場合も内枠５２が閉じる場合も、第２位置に左側可動体２５３を配置させることが可能となっている。
【０３１５】

また、左側可動体２５３に設けた左側可動体ランプ６９Ｌを用いて演出（第１表示演出，第２表示演出）を実行し得る。よって、開閉枠ＫＷが閉じているときの第２位置を演出位置とすることが可能であり、開閉枠ＫＷが閉じ終えたときには、その演出位置に左側可動体２５３を自動的に配置させることが可能となっている。

【０３１６】

また、遊技機枠５０の上部に配置された左側可動体２５３は、第２位置にある場合には後方から前方にかけて下向きに傾斜した状態である。そのため、第２位置に変位させることで、遊技者に見やすい位置に可動体を配置することが可能である。よって、開閉枠ＫＷが閉じた遊技可能な状態の遊技機では、左側可動体２５３に設けた左側可動体ランプ６９Ｌを用いた上記演出を、遊技者に見やすい位置で実行可能となっている。

【０３１７】

また、本形態のパチンコ遊技機１では、遊技機枠５０は、開閉枠ＫＷが閉じているときには複数の位置に変位可能な右側可動体２０３を備えているので、開閉枠ＫＷの閉塞時に複数の態様に変化可能な遊技機枠５０を備えたパチンコ遊技機１とすることが可能となっている。

【０３１８】

なお、例えば、第１位置よりも前方の第２位置に右側可動体２０３がある状態で、隣のパチンコ遊技機１の開閉枠ＫＷが開いて当該パチンコ遊技機１の前方に移動してきた場合には、その開閉枠ＫＷが右側可動体２０３に衝突し易いため、好ましくない。

【０３１９】

これに対し、右側可動体２０３は、第１位置又は第２位置に変位され得るものなので、隣のパチンコ遊技機１の開閉枠ＫＷが開くときに、第２位置から第１位置に右側可動体２０３を変位させることで、その右側可動体２０３への衝突を回避可能となっている。

【０３２０】

また、右側可動体２０３が変位可能な複数の位置には、第１位置と第２位置との間の中間位置にあたる第３位置がある（図１６参照）。よって、右側可動体２０３を第１位置に配置すると右側可動体２０３の後方にあるホール設備に干渉してしまう場合には、第１位置を除いた、第２位置と第３位置との間で右側可動体２０３を変位させることが可能となっている。従って、隣のパチンコ遊技機１の開閉枠ＫＷが開くときに、第２位置から第３位置に右側可動体２０３を変位させることで、その右側可動体２０３への衝突を回避可能となっている。

【０３２１】

また、遊技機枠５０は、右側可動体２０３は手動にて変位され得るものであるため、遊技者や遊技場の関係者が必要に応じてすぐにその右側可動体２０３を変位させることが可能となっている。しかも、遊技機枠５０は、第１位置および第２位置を含む複数の位置に右側可動体２０３を固定し得るラッチ構造体２４０を備えているので、右側可動体２０３を手動で変位させる際に、第１位置や第２位置といった所定の位置にその右側可動体２０３を配置させ易い。

【０３２２】

ところで、左側に配された回動軸を中心として開閉枠ＫＷが開く場合に、左側可動体２５３および右側可動体２０３のうち、回動軸に遠い遊技機枠５０の右側に配置されている右側可動体２０３の方が、左側可動体２５３よりも、隣のパチンコ遊技機１の開いた開閉枠ＫＷが衝突しやすい。

【０３２３】

これに対し、本パチンコ遊技機１では、回動軸に遠い右側に配置された右側可動体２０３について、第２位置から第１位置に変位可能になっている。このため、隣のパチンコ遊技機１の開閉枠ＫＷが開くときに第２位置から第１位置に右側可動体２０３を変位させることで、右側可動体２０３への衝突を回避可能となっている。

【０３２４】

また、本パチンコ遊技機１では、上側第１表示部３２１でレンズ部３２１Ｘがなす表示

形態と、上側第２表示部３２２でレンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇがなす表示形態とが互いに異なっている。また、下側第１表示部３３１でレンズ部３３１Ｘがなす表示形態と、下側第２表示部３３２でレンズ部３３２Ｄ，３３２Ｅ，３３２Ｆがなす表示形態とが互いに異なっている。よって、複数種類の表示部を切り替えて遊技者に示すことが可能であり、遊技興趣の向上が可能となっている。

【０３２５】

また、複数のＬＥＤ３６５を仕切る光源側仕切部材３６６は、上側仕切部材３２１Ｓとともに、第１光源群に属するＬＥＤ３６５からレンズ部３２１Ｘまでの光の進路を区画する仕切部材ＳＢ１を構成する一方、上側仕切部材３２２Ｓとともに、第２光源群に属するＬＥＤ３６５からレンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇまでの光の進路を区画する仕切部材ＳＣ１，ＳＣ２，ＳＣ３，ＳＣ４を構成する。すなわち、光源側仕切部材３６６は、上側仕切部材３２１Ｓと上側仕切部材３２２Ｓとの両方に対応する仕切パターンを有している。

【０３２６】

よって、共通部材（光源側仕切部材）を用いて、第１光源群からの光をレンズ部３２１Ｘに確実に透過させたり、第２光源群からの光をレンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇに確実に透過させたりすることが可能である。従って、ＬＥＤ３６５を仕切る光源側仕切部材として、各仕切部材３２１Ｓ，３２２Ｓに対応する複数の仕切部材を設けなくて済むため、コンパクト化と低コスト化を図ることが可能となっている。

【０３２７】

また、仕切部材ＳＢ１によって、第１光源群に属するＬＥＤ３６５からレンズ部３２１Ｘまでの光の進路が区画され、また、仕切部材ＳＣ１によって、第２光源群に属するＬＥＤ３６５からレンズ部３２２Ｄまでの光の進路が区画されるので、複数のＬＥＤ３６５の前方に配置される表示部に合わせて、複数のＬＥＤ３６５を効率良く発光可能となっている。

【０３２８】

また、上側第１表示部３２１と下側第１表示部３３１、また、上側第２表示部３２２と下側第２表示部３３２とで１つのモチーフを形成するので、１つのモチーフが完成したときに遊技者に驚きを与えることが可能となっている。

【０３２９】

また、上側回転体３２０は、上側表示部３２１，３２２，３２３，３２４の切り替え時に、下側回転体３３０とは逆の方向に回転させられる。よって、上側回転体３２０および下側回転体３３０での表示部の切り替え動作をそれぞれ異ならせることが可能であり、遊技者の注目度を向上可能となっている。

【０３３０】

また、本形態のパチンコ遊技機１では、上側第２表示部３２２の透光部材３２２Ｘは、複数の部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇと介在部３２２Ｈとを備える１部材である。よって、部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇが複数あるにもかかわらず透光部材３２２Ｘの部品点数を少なく抑えることが可能となっている。

【０３３１】

また、不透光部材３２２Ｙの凸部３２２Ｗと介在部３２２Ｈの嵌合部３２２Ｊとが嵌合しているので、不透光部材３２２Ｙに対する透光部材３２２Ｘの位置ズレを防止可能となっている。

【０３３２】

また、透光不能な凸部３２２Ｗと、透光部材３２２Ｘの介在部３２２Ｈに設けられた嵌合部３２２Ｊとが嵌合するので、部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇから介在部３２２Ｈの嵌合部３２２Ｊ付近まで、透光部材３２２Ｘ内を光が移動してきた場合には、その光について凸部３２２Ｗで遮蔽することが可能となっている。

【０３３３】

また、凸部３２２Ｗは、嵌合部３２２Ｊの厚み方向の全域に嵌合しているので、部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇから介在部３２２Ｈの嵌合部３２２Ｊ付近まで透光部材３２２Ｘ内を光が移動してきた場合には、その光が凸部３２２Ｗの反対側に届くのを抑制可能となっている。

【０３３４】

また、図３４に示したように、透光部材３３２Ｘは、第１部分レンズ部３３２Ｄから第２部分レンズ部３３２Ｅまでの介在部３３２Ｈを通しての第３距離Ｚ３が第１距離Ｚ１よりも長くなっている。その分（第１部分レンズ部３３２Ｄから第２部分レンズ部３３２Ｅまでの介在部３３２Ｈを通しての第３距離Ｚ３が第１距離Ｚ１よりも長くなっている分）、第１部分レンズ部３３２Ｄと第２部分レンズ部３３２Ｅとの間の距離を稼ぐことが可能であり、第１部分レンズ部３３２Ｄと第２部分レンズ部３３２Ｅとの間で光の移動（透光）が生じ難いパチンコ遊技機１とすることが可能となっている。

【０３３５】

さらに、凸部３３２Ｗは、第１部分レンズ部３３２Ｄと第３部分レンズ部３３２Ｆとの間に配置されているので、第１部分レンズ部３３２Ｄ又は第３部分レンズ部３３２Ｆからその凸部３３２Ｗまで、透光部材３３２Ｘ内を光が移動してきた場合には、その光を凸部３３２Ｗで遮蔽可能である。よって、第１部分レンズ部３３２Ｄと第３部分レンズ部３３２Ｆとの間で光の移動（透光）が生じるのを抑えることが可能となっている。

【０３３６】

１０．変更例

以下、変更例について説明する。なお、変更例の説明において、上記の第１形態のパチンコ遊技機１と同様の構成については、同じ符号を付して説明を省略する。

【０３３７】

上記形態では、直立した状態（上下方向に平行な状態）にある左側可動体２５３の位置を第１位置とし、角度θ５が２４度の状態にある左側可動体２５３の位置を第２位置とした。しかしながら、例えば、０度よりも大きく、且つ１８０度以下の角度のうち、２４度以外の角度θ５になる状態にある左側可動体２５３を第２位置としてもよい。

【０３３８】

また、右側可動体２０３についても同様である。直立した状態（上下方向に平行な状態）にある右側可動体２０３の位置を第１位置とし、角度θ２が２４度の状態にある右側可動体２０３の位置を第２位置とした。しかしながら、例えば、０度よりも大きく、且つ１８０度以下の角度のうち、２４度以外の角度θ２になる状態にある右側可動体２０３を第２位置としてもよい。

【０３３９】

また、右側可動体２０３について、角度θ３が１２度の状態にある右側可動体２０３の位置を第３位置とした。しかしながら、例えば、０度よりも大きく、９０度よりも小さい角度のうち、１２度以外の角度θ３になる状態にある右側可動体２０３を第３位置としてもよい。また、角度θ２の半分にあたる角度をθ３としたが、第３位置を第１位置と第２位置との間の位置となる角度であれば、角度θ３を１２度以外のものとしてもよい。

【０３４０】

上記形態では、直立した状態（上下方向に平行な状態）にある左側可動体２５３，右側可動体２０３の位置を第１位置とした。しかしながら、第１位置を、後方から前方にかけて下向きに傾斜した状態にある左側可動体２５３，右側可動体２０３の位置としてもよい。その場合に、例えば、第２位置を、直立した状態（上下方向に平行な状態）にある位置としてもよい。つまり、上記形態の第１位置と第２位置とを入れ替えた構成でもよい。すなわち、可動体の少なくとも一部について、第２位置にあるときの可動体よりも前方に配置させる位置を第１位置としてもよい。また、第１位置および第２位置の少なくとも一方を、前方から後方にかけて上向きに傾斜した状態にある左側可動体２５３，右側可動体２０３の位置としてもよい。

【０３４１】

また上記形態では、第１位置にある左側可動体２５３の状態と、第１位置にある右側可動体２０３の状態とを同じにした。つまり、どちらの状態についても直立した状態とした。しかしながら、第１位置にある左側可動体２５３の状態と、第１位置にある右側可動体２０３の状態とが互いに異なっていてもよい。また、第２位置にある左側可動体２５３の状態と、第２位置にある右側可動体２０３の状態とを同じにした。つまり、どちらの状態についても角度θ２および角度θ５を２４度とした。しかしながら、第２位置にある左側可動体２５３の状態と、第２位置にある右側可動体２０３の状態とを互いに異ならせてもよい。

【０３４２】

また上記形態では、左側可動体２５３，右側可動体２０３を回動させて、第１位置と第２位置との間を変位させる構成とした。しかしながら、左側可動体２５３，右側可動体２０３をスライド（平行移動）させて、第１位置と第２位置との間を変位させる構成でもよい。具体的に例えば、左側可動体２５３の第２位置を、第１位置から前方に移動させた位置としてもよい。この構成の場合、通常時（開閉枠の閉塞時）の可動体の位置を、遊技者により近い位置にすることができ、遊技中の遊技者に可動体の存在感を与えることが可能であるとともに、開閉枠の開放時には、第１位置に可動体を自動的に収容可能である。

【０３４３】

また例えば、左側可動体２５３について、第１位置から左方に移動させた位置としてもよい。具体的に例えば、図４９に示すように、パチンコ遊技機には、押圧部材５８の押圧によって、前後方向に可動できる可動部材５００と、左側可動体２５３を第１位置から左方に変位可能な直動機構５１０と、レール部５２０とがある。

【０３４４】

可動部材５００は、上記実施形態の押圧部材５８に後方から押圧される被押圧部５０１、および、前後方向に延びるラック５０２からなる。なお、可動部材５００は、押圧部材５８からの押圧がない場合には、ラック５０２を後方に移動させる構造になっている。つまり、この可動部材５００では、被押圧部５０１が押圧部材５８に押圧されると、それに伴ってラック５０２が前方に移動し、被押圧部５０１が押圧部材５８に押圧されなくなると、ラック５０２が後方に移動する。

【０３４５】

直動機構５１０は、ギヤ５１１と、ネジ軸５１２と、組付部材５１４とを備えている。ギヤ５１１は、ネジ軸５１２の右端に一体回転可能に取付けられている。また、上記ラック５０２と噛合している。そのため、ラック５０２が前後方向に移動するとギヤ５１１およびネジ軸５１２が回転するようになっている。ネジ軸５１２の周面には、螺旋状で且つ溝状の雄ネジ５１３が形成されている。また、組付部材５１４は、左側可動体２５３に組付けるためのものである。すなわち、左側可動体２５３は、組付部材５１４を介してネジ軸５１２に組付けられる。組付部材５１４は、ネジ軸５１２を挿通可能な挿通部５１４Ｘを有し、この挿通部５１４Ｘの内周面に螺旋状で且つ突状の雌ネジ（不図示）が形成されている。このため、ネジ軸５１２が組付部材５１４の挿通部５１４Ｘに挿通されると、挿通部５１４Ｘの雌ネジとネジ軸５１２の雄ネジ５１３とが螺着して、いわゆる送りネジ機構が構成される。この送りネジ機構により、ネジ軸５１２が正方向に回転すると、組付部材５１４がネジ軸５１２に沿って左方に移動（直動）し、ネジ軸５１２が正方向と逆である逆方向に回転すると、組付部材５１４がネジ軸５１２に沿って右方に移動するようになっている。

【０３４６】

レール部５２０は、左側可動体２５３の底部の直下に配置されており、左右方向に沿って延びている。なお、左側可動体２５３の底部には、レール部５２０上を転動可能な車輪（不図示）が設けられている。このため、左側可動体２５３は、車輪によって、レール部５２０上を左右方向に移動することが可能となっている。

【０３４７】

開閉枠ＫＷが開いている場合には、上記実施形態と同じく、左側可動体２５３は第１位

置にある。そして、開いていた開閉枠ＫＷが閉じると、可動部材５００の被押圧部５０１が押圧部材５８によって押圧されることになり、ラック５０２が前方に移動することになる。すると、そのラック５０２に噛合するギヤ５１１が回動して、ネジ軸５１２も正方向に回転する。これにより、組付部材５１４がネジ軸５１２に沿って左方に移動（直動）するとともに、組付部材５１４に組み付けられた、レール部５２０上の左側可動体２５３もまた左方に移動する。かくして、第１位置に左側可動体２５３があるときに開閉枠ＫＷが閉じると、その左側可動体２５３は、第１位置から、その左方にあたる第２位置に変位することになる。

【０３４８】

そのような第２位置に左側可動体２５３があるときに開閉枠ＫＷが開くと、可動部材５００の被押圧部５０１が押圧部材５８によって押圧されなくなるため、ラック５０２が後方に移動することになる。これにより、ギヤ５１１およびネジ軸５１２が逆方向に回転する。従って、組付部材５１４がネジ軸５１２に沿って右方に移動（直動）するとともに左側可動体２５３もまた右方に移動する。かくして、第２位置に左側可動体２５３があるときに開閉枠ＫＷが開くと、その左側可動体２５３は、第２位置から第１位置に変位することになる。

【０３４９】

この構成の場合、通常時（開閉枠の閉塞時）の遊技機枠をより広く遊技者に見せることが可能であるとともに、開閉枠の開放時には、第１位置に可動体を自動的に収容可能である。

【０３５０】

また例えば、左側可動体２５３の第２位置を、左側可動体２５３の少なくとも一部が第１位置から左方、且つ、基枠の左外方に移動させた位置としてもよい。また例えば、左側可動体２５３の少なくとも一部が第１位置から右方に移動させた位置としてもよい。また例えば、左側可動体２５３の少なくとも一部が第１位置から右方、且つ、基枠の右外方に移動させた位置に移動させた位置としてもよい。また例えば、左側可動体２５３の少なくとも一部が第１位置から前方且つ左方に移動させた位置としてもよい。また例えば、左側可動体２５３の少なくとも一部が第１位置から前方且つ右方に移動させた位置としてもよい。また例えば、左側可動体２５３の少なくとも一部が第１位置から上方又は下方に移動させた位置としてもよい。

【０３５１】

また例えば、右側可動体２０３の第２位置を、右側可動体２０３の少なくとも一部が第１位置から右方に移動させた位置としてもよい。また例えば、右側可動体２０３の少なくとも一部が第１位置から右方、且つ、基枠の右外方に移動させた位置としてもよい。また例えば、右側可動体２０３の少なくとも一部が第１位置から左方に移動させた位置としてもよい。また例えば、右側可動体２０３の少なくとも一部が第１位置から左方、且つ、基枠の左外方に移動させた位置に移動させた位置としてもよい。また例えば、右側可動体２０３の少なくとも一部が第１位置から前方且つ左方に移動させた位置としてもよい。また例えば、右側可動体２０３の少なくとも一部が第１位置から前方且つ右方に移動させた位置としてもよい。また例えば、右側可動体２０３の少なくとも一部が第１位置から上方又は下方に移動させた位置としてもよい。

【０３５２】

また上記形態では、光が透過する表示部を演出手段として左側可動体２５３に設けた。しかしながら、ランプ以外の演出手段を設けてもよい。具体的に例えば、スピーカを設けてもよい。この構成の場合、通常時にスピーカを遊技者に向けて配置可能であり、遊技者による聞き逃しを防いで音声演出を実行することが可能である。

【０３５３】

また例えば、遊技盤の中央に位置する画像表示装置６，７に加えて、サブ液晶を設けてもよい。この構成の場合、通常時（開閉枠の閉塞時）にサブ液晶を用いた演出を、遊技者に見やすい位置で実行可能である。しかも、左側可動体２５３が直立した状態の場合、遊

技機の正面に着席している遊技者にとってはサブ液晶上の表示は見づらいけれども、開閉枠の開放作業を行うホール関係者には近い位置にある。つまり、上記画像表示装置６，７よりも、直立状態の左側可動体２５３の前側面に設けられたサブ液晶の画面の方が、起立しているホール関係者には見やすい位置にある。そこで、例えば、サブ液晶にホール関係者に向けた表示（具体的には、エラーメッセージや、エラーを取り除くための作業手順など）を開閉枠の開放時に第１位置にある左側可動合い２５３のサブ液晶に表示させる構成としてもよい。

【０３５４】

また上記形態では、左側可動体２５３に設けた演出手段（回転体の表示部）を用いて演出を実行し得る形態としたが、左側可動体２５３自体を用いて演出を実行し得る形態でもよい。すなわち、左側可動体２５３を用いた駆動演出を実行し得る形態でもよい。なお、駆動演出の態様としては、例えば、第１位置と第２位値との間で変位駆動する態様でもよい。また例えば、第２位置と、第１位置とは異なる１又は複数の位置との間を変位駆動する態様でもよい。また、例えば回動軸を中心に回転駆動する態様でもよい。

【０３５５】

また上記形態では、内枠５２が開く場合に変位機構によって変位可能な可動体を１つ設けた形態としたが、そのような変位可能な可動体を複数設けてもよい。例えば、左側可動体２５３に加え、右側可動体２０３についても、開閉枠が開く場合に変位機構によって変位可能な可動体としてもよい。また例えば、そのような変位可能な可動体として、左側可動体３５３および右側可動体２０３とは異なる可動体を１又は複数設けてもよい。

【０３５６】

また上記形態では、内枠５２が開く場合に変位機構によって変位可能な可動体を、遊技機枠５０の回動軸に近い側の部位、すなわち左側の部位に設けた。しかしながら、左側に限らず、例えば、右側や左右中央に設けてもよい。

【０３５７】

また上記形態では、左第１アーム、左第２アームおよび左第３アームを位置変更部材とした。つまり、３つの部材からなるものを位置変更部材とした。しかしながら、３つの部材からなるもの以外の構成のものを位置変更部材としてもよい。すなわち、例えば、１つの部材からなるものや、２つの部材からなるものや、４つ以上の部材からなるものを位置変更部材としてもよい。また、位置変更部材を設けない構成でもよい。すなわち、例えば、押圧部材が可動体を直接押圧して第１位置から第２位置に変位させる構成でもよい。また例えば、押圧部材が台座を押圧して姿勢を変更することで、可動体を第１位置から第２位置に変位させる構成でもよい。

【０３５８】

また上記形態では、コイルスプリング２９９によって左第３アーム２７６を付勢する構成とした。しかしながら、左第３アーム以外の、左第１アームや左第２アームを付勢する構成でもよい。

【０３５９】

また上記形態では、コイルスプリング２９９を、開閉枠ＫＷが開く場合に左側可動体２５３を第１位置に配置させ得る誘導部材とした。つまり、コイルスプリング２９９の付勢力を利用して、開閉枠ＫＷが開く場合に左側可動体２５３を第１位置に配置させ得る構成とした。しかしながら、付勢力以外の力を用いて、開閉枠ＫＷが開く場合に左側可動体２５３を第１位置に配置させ得る構成としてもよい。

【０３６０】

具体的に例えば、図５０に示すように、左側可動体２５３の後方にあたる外枠５１の部位に永久磁石６０１を配置し、その永久磁石６０１の磁力を利用する構成が挙げられる。なお、左側可動体２５３の後部に金属体６０２を設けておく。また、永久磁石６０１による磁力がない場合には、第２位置に配置される構成になっている。

【０３６１】

図５０（Ａ）に示すように、開閉枠ＫＷが閉じているときには、左側可動体２５３に設

けた金属体６０２を永久磁石６０１の所定の強さの磁場内に配置させることで、左側可動体２５３を直立させることが可能となっている。よって、開閉枠ＫＷが閉じているときには、左側可動体２５３を第１位置にすることが可能である。

【０３６２】

一方、図５０（Ｂ）に示すように、開閉枠ＫＷが開くと、外枠５１の永久磁石６０１と左側可動体２５３の金属体６０２とが離間されて、金属体６０２が上記所定の強さの磁場から外れることになる。かくして、開閉枠ＫＷが開くと、左側可動体２５３を第２位置にする配置させることになる。

【０３６３】

また上記形態では、左側可動体２５３について、遊技機枠５０の上部に配置した。しかしながら遊技機枠の上部に限らず、例えば、上下方向の中央や下部に配置してもよい。右側可動体２０３についても同じく、遊技機枠の上部に限らず、例えば、上下方向の中央や下部に配置してもよい。

【０３６４】

また上記形態では、内枠５２に押圧部材５８を設けたが、内枠に代えて外枠５１に押圧部材を設けてもよい。

【０３６５】

また上記形態では、変位機構に押圧部材５８を用いたものとしたが、例えば、開閉枠の開閉を検知可能な枠開閉検知センサと駆動モータとを用いて可動体を変位させる変位機構としてもよい。具体的には、枠開閉検知センサの信号に基づき、開閉枠が開いたときには、可動体を第１位置から第２位置に変位させ、開閉枠が閉じたときには、第２位置から第１位置に変位させるよう前枠に設けた駆動モータを駆動させる。

【０３６６】

また上記形態では、左側ベース部２６０に台座２９５を設けた構成としたが、台座がない構成でもよい。つまり例えば、第２ベース本体部２６３の台座接続部２６３Ｘに、左側可動体２５３の底部を回動可能に接続させる構成でもよい。

【０３６７】

また上記形態では、内枠５２の開放によらず変位可能な右側可動体２０３を３つの位置に変位可能なものとした。しかしながら、４つ以上の位置に変位可能なものとしてもよい。また、そのような内枠５２の開放によらず変位可能な可動体を１つ設けた形態としたが、そのような可動体を複数設けてもよい。例えば、右側可動体２０３に加え、左側可動体２５３についても、開閉枠の開放によらず変位可能な可動体としてもよい。また例えば、そのような可動体として、左側可動体３５３および右側可動体２０３とは異なる可動体を１又は複数設けてもよい。

【０３６８】

また上記形態では、例えば隣のパチンコ遊技機１の内枠５２が開く場合に、手動で右側可動体２０３を変位させる。しかしながら、例えば、隣の遊技機の開閉枠の開閉を検知可能な枠開閉検知センサと駆動モータとを用いて可動体を変位させる変位機構を備えた構成でもよい。具体的には、枠開閉検知センサの信号に基づき、隣の遊技機の開閉枠が開いたときには、可動体を第２位置から第１位置（又は第３位置）に変位させ、開閉枠が閉じたときには、第１位置に変位させるよう前枠に設けた駆動モータを駆動させる。

【０３６９】

上記形態では、可動体（右側可動体２０３，左側可動体２５３）の回転体３２０，３３０をなす表示部を４種類とした。しかしながら、４種類以外の複数の表示部を備える可動体でもよい。

【０３７０】

また、上記形態では、第１光源群をＬＥＤ３６５全部とし、第２光源群を図３５に示すＬＥＤ３６５とした。しかしながら、第２光源群は、第１光源群とは異なっていればよく、図３５に示すＬＥＤ３６５以外のＬＥＤ（光源）を用いたものとしてもよい。

【０３７１】

また、上記形態では、上側第１表示部３２１のレンズ部３２１Ｘの形態を、図３１に示すようなものとした。しかしながら、この形態に限定されるものではない。また、上側第２表示部３２２の部分レンズ部３２２Ｄ，３２２Ｅ，３２２Ｆ，３２２Ｇの形態を図３３に示すようなものとしたが、そのような形態に限定されるものではない。

【０３７２】

また、上記形態では、上側第１表示部３２１のレンズ部３２１Ｘ、および、下側第１表示部３３１のレンズ部３３１Ｘの形態について、６段階のメータ表示とした。しかしながら、６段階以外のメータ表示、例えば、１段階～５段階のいずれかの段階としたメータ表示や、７段階以上の段階としたメータ表示としてもよい。また、上下方向に並んだメータ表示としたが、横方向（左右方向）に並んだメータ表示としてもよい。

【０３７３】

また、上記形態では、上側回転体３２０の上側第２表示部３２２に「７セグメント」のうちの「４セグメント」を配置し、下側回転体３３０の下側第２表示部３３２に「３セグメント」を配置した。しかしながら、上側回転体３２０の上側第２表示部３２２に「３セグメント」を配置して、下側回転体３３０の下側第２表示部３３２に「４セグメント」を配置してもよい。

【０３７４】

また、上記形態では、上側第１表示部３２１側に配置した上側仕切部材３２１Ｓと、光源側仕切部材３６６とからなる仕切部材ＳＢ１とした。しかしながら、上側仕切部材３２１Ｓ、光源側仕切部材３６６に、新たな仕切部材を加えて仕切部材ＳＢ１としてもよい。つまり、２部材からなる仕切部材ＳＢ１を、上側仕切部材３２１Ｓおよび光源側仕切部材３６６を含む３部材以上からなる部材でもよい。また、上側仕切部材３２１Ｓだけからなる第１仕切部材でもよい。また、光源側仕切部材３６６だけからなる第１仕切部材でもよい。

【０３７５】

また、上記形態では、右側可動体２０３について、構造体の数を２つ（上側回転体３２０および下側回転体３３０）とした。しかしながら、１つの回転体（構造体）からなるものとしてもよい。また、３つ以上の構造体（回転体）からなるものとしてもよい。左側可動体２５３についても同様に、１つの構造体（回転体）としても、また、３つ以上の構造体（回転体）としてもよい。

【０３７６】

また、上記形態では、右側可動体２０３の上側回転体３２０および下側回転体３３０をいずれも回転移動によってＬＥＤ３６５の前方に表示部を配置させる構成とした。しかしながら、構造体を回転体以外の構成としてもよい。具体的には、図５１（Ａ）に示すように、光源部３４０の前方左側に回転軸を設け、光源部３４０を開閉可能に配置した上側第１表示部３２１と、光源部３４０の前方右側に回転軸を設け、光源部３４０を開閉可能に配置した第２表示部とを備える構造体としてもよい。

【０３７７】

この構造体では、切替機構を用いて光源部３４０の光源３６５の前方の表示部を上側第１表示部３２１に切り替える場合には、まず光源部３４０の前方にある上側第２表示部３２２を、上方から見て反時計回りに回動（９０度回動）させて、上側第２１表示部３２２を光源部３４０の右前方に配置させる。その後、光源部３４０の左前方にある上側第１表示部３２１を、上方から見て反時計回りに回動（９０度回動）させて、光源部３４０の前方に配置させる（図５１（Ｂ）参照）。

【０３７８】

また、切替機構を用いて光源部３４０の光源３６５の前方の表示部を上側第２表示部３２２を切り替える場合には、まず光源部３４０の前方にある上側第１表示部３２１を、上方から見て時計回りに回動（９０度回動）させて、上側第１表示部３２１を光源部３４０の左前方に配置させる。その後、光源部３４０の右前方にある上側第２表示部３２２を、上方から見て時計回りに回動（９０度回動）させて、光源部３４０の前方に配置させる（

図５１（Ｃ）参照）。
【０３７９】
また、上記形態では、可動体（右側可動体２０３，左側可動体２５３）について、上側回転体３２０の回転方向を下側回転体３３０の回転方向とは逆にした。しかしながら、上側回転体３２０の回転方向と下側回転体３３０の回転方向とを同じ方向にしてもよい。
【０３８０】
また、上記形態では、可動体（右側可動体２０３，左側可動体２５３）の第２表示部３３２の透光部材３３２Ｘを無色透明な部材としたが、有色透明な部材としてもよい。つまり、色の有無によらず、透光可能な部材であればよい。
【０３８１】
また、上記形態では、凸部３３２Ｗを、嵌合部３３２Ｊの厚み方向の全域に嵌合しているものとした。しかしながら、嵌合部３３２Ｊの厚み方向の一部の範囲にて嵌合する凸部でもよい。
【０３８２】
また、上記形態では、不透光部材３３２Ｙを透光不能なものとした。しかしながら、不透光部材を、透光部材よりも透光困難なものとしてもよい。
【０３８３】
また、上記形態では、図３３中、上下方向に延びる１条の凸部３２２Ｗとした。しかしながら、複数の凸部、具体的に例えば、２条の凸部７０１Ｗ，７０２Ｗを備える不透光部材とし、図５２（Ａ）に示す嵌合部７０１Ｊ，７０２Ｊを備える透光部材としてもよい。特に、嵌合部７０１Ｊ，７０２Ｊ（凸部７０１Ｗ，７０２Ｗ）を、図５２（Ａ）に示すように、介在部３３２Ｈのうち第１部分レンズ部３３２Ｄ側および第３部分レンズ部３３２Ｆ側にそれぞれ配置する形態がより好ましい。介在部３３２Ｈの中央よりも第１部分レンズ部３３２Ｄ側に配置することで、第１部分レンズ部３３２Ｄから光が漏れた場合には、その第１部分レンズ部３３２Ｄにより近い位置で漏れた光を遮断することが可能なためである。また、介在部３３２Ｈの中央よりも第２部分レンズ部３３２Ｆ側に配置することで、第２レンズ部３３２Ｆから光が漏れた場合には、その第２部分レンズ部３３２Ｆにより近い位置でその漏れた光を遮断することが可能なためである。
【０３８４】
また、平面視で直線形状以外の形状の凸部、具体的に例えばＸ字形状の凸部７０３を備える不透光部材とし、図５２（Ｂ）に示す嵌合部７０３Ｊを備える透光部材としてもよい。また、例えば、平面視でＹ字形状、Ｕ字形状、Ｏ字形状、Ｖ字形状としてもよい。
【０３８５】
また上記形態では、遊技機をパチンコ遊技機１としたが、スロットマシン（回胴式遊技機，パチスロ遊技機）としてもよい。このような構成の場合、前面が開口する筐体における上下左右の壁部が基枠に、その筐体の左側端に回動自在に取り付けられた前面扉が開閉枠にそれぞれ該当する。
【０３８６】
１１．上記した実施の形態に示されている発明
上記した実施の形態には、以下の各手段の発明が示されている。以下に記す手段の説明では、上記した実施の形態における対応する構成名や表現、図面に使用した符号を参考のためにかっこ書きで付記している。但し、各発明の構成要素はこの付記に限定されるものではない。
【０３８７】
〈手段Ａ〉
手段Ａ１に係る発明は、
基枠（外枠５１）と、前記基枠に対して開閉可能に取り付けられた開閉枠（ＫＷ）と、を含む遊技機枠（５０）を備え、
前記遊技機枠は、
第１位置（図２３参照）と第２位置（図２４参照）との間で変位可能な可動体（左側

可動体２５３）を備えていることを特徴とする遊技機（パチンコ遊技機１）である。
【０３８８】
この構成の遊技機によれば、遊技機枠は、第１位置と第２位置との間で変位可能な可動体を備えているので、複数の態様に変化可能な遊技機枠を備えた遊技機とすることが可能である。
【０３８９】
手段Ａ２に係る発明は、
手段Ａ１に記載の遊技機であって、
前記第２位置とは、前記可動体の少なくとも一部を、前記第１位置にあるときよりも前方、左方および右方の少なくともいずれかに配置させる位置であり、
前記可動体は、
前記開閉枠が開く場合には、前記第２位置から前記第１位置に変位可能なものであることを特徴とする遊技機である。
【０３９０】
可動体は、可動体の少なくとも一部を第１位置よりも前方に配置させる第２位置にある状態で開閉枠が開いた場合には、第１位置にある場合よりも小さい回転角度で遊技機の外部に到達し易い。また、可動体の少なくとも一部を第１位置よりも左方又は右方に配置させる第２位置にある状態で開閉枠が開いた場合には、第１位置にある場合よりも小さい回転角度で遊技機の外部に到達してしまう場合がある。可動体が遊技機の外部に到達してしまうと、隣の遊技機など遊技場の設備との間で接触や衝突が発生し易くなる。
【０３９１】
これに対し、上記構成の遊技機によれば、可動体は、開閉枠が開く場合には第２位置から第１位置に変位可能であるため、可動体が第２位置にある状態で開閉枠が開くのを防止可能である。従って、可動体が第２位置にある状態で開閉枠が開いた場合に生じ得る不具合（例えば、可動体への衝突等）の発生を抑えることが可能である。
【０３９２】
手段Ａ３に係る発明は、
手段Ａ２に記載の遊技機であって、
前記遊技機枠は、
前記第１位置と前記第２位置との間で前記可動体を変位させる変位機構（押圧部材５８，左側ベース部２６０）を備え、
前記変位機構は、
前記開閉枠が開く場合に前記可動体を前記第１位置に配置させ得る誘導部材（コイルスプリング２９９）を備えていることを特徴とする遊技機である。
【０３９３】
この構成の遊技機によれば、変位機構は、開閉枠が開く場合に可動体を第１位置に配置させ得る誘導部材を備えているので、可動体が第２位置にある状態で開閉枠が開くのを確実に防ぐことが可能である。
【０３９４】
手段Ａ４に係る発明は、
手段Ａ３に記載の遊技機であって、
前記変位機構は、
前記開閉枠に設けられ、前記可動体の位置を変更可能に可動し得る位置変更部材（左第１アーム２６６，左第２アーム２７１，左第３アーム２７６）を備え、
前記位置変更部材は、
可動に伴って、前記可動体を前記第１位置にさせる第１状態（図２３参照）、又は、前記可動体を前記第２位置にさせ得る第２状態（図２４参照）になり得るものであり、
前記誘導部材は、
前記開閉枠が開く場合には、前記位置変更部材を付勢して前記第１状態にさせ得る付勢部材であることを特徴とする遊技機である。

【０３９５】
この構成の遊技機によれば、変位機構の誘導部材は、開閉枠が開く場合には位置変更部材を付勢して第１状態にさせ得る付勢部材である。このため、開閉枠が開く場合には、付勢部材の付勢によって可動体を第１位置に配置させることが可能であり、可動体が第２位置にある状態で開閉枠が開くのを確実に防ぐことが可能である。
【０３９６】
手段Ａ５に係る発明は、
手段Ａ２、手段Ａ３および手段Ａ４のいずれかに記載の遊技機であって、
前記開閉枠は、
左側又は右側に配された回動軸を中心に回動し得るものであり、
前記可動体は、
前記開閉枠における左側および右側のうち、前記回動軸に近い側に配置されていることを特徴とする遊技機である。
【０３９７】
左側又は右側に配された回動軸を中心として開閉枠が開く場合に、左右方向のうち、回動軸に近い側の遊技機枠の部位に可動体が配置されている方が、回動軸に遠い側に配置される場合よりも小さい回転角度で可動体が当該遊技機の外部に到達し易い。
【０３９８】
これに対し、上記構成の遊技機によれば、開閉枠における左側および右側のうち、回動軸に近い側に配置された可動体について、開閉枠が開く場合には、第２位置から第１位置に変位させ得ることになる。従って、開閉枠が開いたときの可動体への衝突の発生を確実に抑えることが可能である。
【０３９９】
手段Ａ６に係る発明は、
手段Ａ２、手段Ａ３、手段Ａ４および手段Ａ５のいずれかに記載の遊技機であって、
遊技に伴う演出を実行可能な演出制御手段（サブ制御基板９０）を備え、
前記可動体は、
前記遊技機枠の上部に配置されたものであり、
前記可動体が前記第２位置にある場合には、後方から前方にかけて下向きに傾斜した状態であり、
前記演出制御手段は、
前記可動体を用いて、又は、前記可動体に設けた演出手段（上側第１表示部３２１）を用いて前記演出を実行し得るものであることを特徴とする遊技機である。
【０４００】
この構成の遊技機によれば、遊技機枠の上部に配置された可動体は、第２位置にある場合には後方から前方にかけて下向きに傾斜した状態である。そのため、第２位置に変位させることで、遊技者に見やすい位置に可動体を配置可能である。よって、開閉枠を閉じた遊技可能な状態の遊技機では、可動体又は可動体に設けた演出手段を用いた演出を、遊技者に見やすい位置で実行可能である。
【０４０１】
手段Ａ７に係る発明は、
基枠（外枠５１）と、前記基枠に対して開閉可能に取り付けられた開閉枠（ＫＷ）と、を含む遊技機枠（５０）と、
遊技に伴う演出を実行可能な演出制御手段（サブ制御基板９０）と、を備え、
前記遊技機枠は、
第１位置（図２３参照）と第２位置（図２４参照）との間で変位可能な可動体（左側可動体２５３）を備え、
前記第２位置とは、前記可動体の少なくとも一部を、前記第１位置にあるときよりも前方、左方および右方の少なくともいずれかに配置させる位置であり、
前記可動体は、

前記演出制御手段による前記演出の実行によらず、前記第１位置と前記第２位置との間で変位可能なものであり、
前記開閉枠が開く場合には、前記第２位置から前記第１位置に変位可能なものであることを特徴とする遊技機（パチンコ遊技機１）である。
【０４０２】
この構成の遊技機によれば、可動体は、開閉枠が開く場合には第２位置から第１位置に変位可能である。そのため、可動体が第２位置にある状態で開閉枠が開くのを防止可能である。従って、可動体が第２位置にある状態で開閉枠が開いた場合に生じ得る衝突（干渉）の発生を抑えることが可能である。
【０４０３】
〈手段Ｂ〉
手段Ｂ１に係る発明は、
基枠（外枠５１）と、前記基枠に対して開閉可能に取り付けられた開閉枠（ＫＷ）と、を含む遊技機枠（５０）を備え、
前記遊技機枠は、
第１位置（図２３参照）と第２位置（図２４参照）との間で変位可能な可動体（左側可動体２５３）を備え、
前記可動体は、
前記開閉枠が閉じているときには、前記第１位置および前記第２位置の少なくとも一方の位置に配置されるものであることを特徴とする遊技機（パチンコ遊技機１）である。
【０４０４】
この構成の遊技機によれば、遊技機枠は、第１位置と第２位置との間で変位可能な可動体を備えているので、複数の態様に変化可能な遊技機枠を備えた遊技機とすることが可能である。
【０４０５】
手段Ｂ２に係る発明は、
手段Ｂ１に記載の遊技機であって、
前記可動体は、
前記開閉枠が閉じる場合には、前記第１位置から前記第２位置に変位可能なものであることを特徴とする遊技機である。
【０４０６】
この構成の遊技機によれば、可動体は、開閉枠が閉じる場合には第１位置から第２位置に変位可能なので、開閉枠が閉じ終えたときには、第２位置に可動体を自動的に配置させることが可能である。よって、開閉枠を閉じる際に、可動体を変位し忘れてしまうのを防止可能である。
【０４０７】
手段Ｂ３に係る発明は、
手段Ｂ２に記載の遊技機であって、
前記遊技機枠は、
前記第１位置と前記第２位置との間で前記可動体を変位させる変位機構（押圧部材５８，左側ベース部２６０）を備え、
前記変位機構は、
前記開閉枠に設けられ、前記可動体の位置を変更可能に可動し得る位置変更部材（左第１アーム２６６，左第２アーム２７１，左第３アーム２７６）と、
前記開閉枠に設けられ、前記位置変更部材を押圧可能な押圧部材（５８）と、を備え、
前記位置変更部材は、
可動に伴って、前記可動体を前記第１位置にさせる第１状態（図２３参照）、又は、前記可動体を前記第２位置にさせる第２状態（図２４参照）になり得るものであり、
前記押圧部材は、

前記開閉枠が閉じる場合には、前記位置変更部材を押圧して、前記第２状態にさせ得るものであることを特徴とする遊技機である。

【０４０８】

この構成の遊技機によれば、変位機構の押圧部材は、開閉枠が閉じる場合には、位置変更部材を押圧して第２状態にさせ得る。よって、開閉枠が閉じ終えたときには、可動体を第２位置に確実に配置させることが可能である。

【０４０９】

手段Ｂ４に係る発明は、

手段Ｂ３に記載の遊技機であって、

前記変位機構は、

前記位置変更部材を付勢して前記第１状態にさせることが可能な付勢部材（コイルスプリング２９９）を備え、

前記位置変更部材は、

前記開閉枠が開いているときには、前記付勢部材の付勢によって前記第１状態になり得る一方、

前記開閉枠が閉じているときには、前記押圧部材の押圧によって前記第２状態になり得るものであることを特徴とする遊技機である。

【０４１０】

この構成の遊技機によれば、変位機構は、位置変更部材を付勢して第１状態にさせ得る付勢部材を備えており、位置変更部材は、開閉枠が開いているときには、付勢部材の付勢によって第１状態になり得る一方、開閉枠が閉じているときには、押圧部材の押圧によって第２状態になり得る。よって、開閉枠が開いているときには可動体を第１位置に確実に配置させ、閉じているときにはその可動体を第２位置に確実に配置させることが可能である。

【０４１１】

手段Ｂ５に係る発明は、

手段Ｂ３又は手段Ｂ４に記載の遊技機であって、

前記変位機構は、

前記可動体を搭載し、その可動体を前記第１位置に配置する第１姿勢（図２３参照）、又は、前記第２位置に配置する第２姿勢（図２４参照）になり得る台座（２９５）を備え、

前記位置変更部材は、

前記第１状態のときには前記台座を前記第１姿勢にさせ、前記第２状態のときには前記台座を前記第２姿勢にさせ得るものであり、

前記台座は、

前記位置変更部材が前記第２状態のときに前記第２位置から前記第１位置に前記可動体が変位した場合には、その変位とともに、前記第２姿勢から前記第１姿勢に変更され得るものであることを特徴とする遊技機である。

【０４１２】

この構成の遊技機によれば、台座は、位置変更部材が第２状態のときに第２位置から第１位置に可動体が変位した場合には、その変位とともに、第２姿勢から第１姿勢に変更され得る。このため、例えば遊技者によって、第２位置にある可動体が第１位置に故意に変位させられたとしても、位置変更部材について第２状態のままとし、押圧部材について位置変更部材を押圧した状態のままとすることが可能である。つまり、第２位置にある可動体にそのような変位が生じた場合でも、位置変更部材や押圧部材に無理な力が掛かって不具合が発生するのを防止可能である。

【０４１３】

手段Ｂ６に係る発明は、

手段Ｂ３、手段Ｂ４および手段Ｂ５のいずれかに記載の遊技機であって、

前記開閉枠は、

遊技盤（２）を保持する保持枠部（内枠５２）と、
前記保持枠部の前方に位置する装飾枠部（前枠５３）と、を備え、
前記装飾枠部には、前記可動体と前記台座と前記位置変更部材とが設けられ、
前記保持枠部には、前記押圧部材が設けられ、
前記基枠には、前記押圧部材に前記位置変更部材を押圧させる基枠押圧機構（姿勢保持部材５７）が設けられ、
前記押圧部材は、
前記装飾枠部が閉じる場合も前記保持枠部が閉じる場合も、前記基枠押圧機構によって、前記位置変更部材を押圧し得るものであることを特徴とする遊技機である。

【０４１４】

この構成の遊技機によれば、押圧部材は、装飾枠部が閉じる場合も保持枠部が閉じる場合も、基枠押圧機構によって位置変更部材を押圧し得る。よって、位置変更部材を押圧する押圧部材を保持枠部に設けた遊技機において、装飾枠部が閉じる場合も保持枠部が閉じる場合も、第２位置に可動体を配置させることが可能である。

【０４１５】

手段Ｂ７に係る発明は、
手段Ｂ３、手段Ｂ４、手段Ｂ５および手段Ｂ６のいずれかに記載の遊技機であって、
遊技に伴う演出を実行可能な演出制御手段（サブ制御基板９０）を備え、
前記演出制御手段は、
前記可動体を用いて、又は、前記可動体に設けた演出手段（上側第１表示部３２１）を用いて前記演出を実行し得るものであることを特徴とする遊技機である。

【０４１６】

この構成の遊技機によれば、可動体を用いて、又は、可動体に設けた演出手段を用いて演出を実行し得る。よって、開閉枠が閉じているときの第２位置を演出位置とすることが可能である。すなわち、開閉枠が閉じ終えたときには、演出位置に可動体を自動的に配置させることが可能である。

【０４１７】

手段Ｂ８に係る発明は、
手段Ｂ７に記載の遊技機であって、
前記可動体は、
前記遊技機枠の上部に配置されたものであり、
前記可動体が前記第２位置にある場合には、後方から前方にかけて下向きに傾斜した状態であることを特徴とする遊技機である。

【０４１８】

この構成の遊技機によれば、遊技機枠の上部に配置された可動体は、第２位置にある場合には後方から前方にかけて下向きに傾斜した状態である。そのため、第２位置に変位させることで、遊技者に見やすい位置に可動体を配置することが可能である。よって、開閉枠を閉じた遊技可能な状態の遊技機では、可動体又は可動体に設けた演出手段を用いた演出を、遊技者に見やすい位置で実行可能である。

【０４１９】

手段Ｂ９に係る発明は、
基枠（外枠５１）と、前記基枠に対して開閉可能に取り付けられた開閉枠（ＫＷ）と、を含む遊技機枠（５０）と、
遊技制御手段（主制御基板８０）と、
遊技に伴う演出を実行可能な演出制御手段（サブ制御基板９０）と、を備え、
前記遊技機枠は、
第１位置（図２３参照）と第２位置（図２４参照）との間で変位可能な可動体（左側可動体２５３）を備え、
前記演出制御手段は、
前記遊技制御手段から出力される情報（コマンド）を受信可能、かつ、その情報に基

づいた前記演出を実行可能なものであり、
前記可動体は、
前記演出制御手段による前記演出の実行によらず、前記第１位置と前記第２位置との間で変位可能なものであり、
前記開閉枠が閉じる場合には、前記第１位置から前記第２位置に変位可能なものであることを特徴とする遊技機（パチンコ遊技機１）である。
【０４２０】
この構成の遊技機によれば、可動体は、開閉枠が閉じる場合には第１位置から第２位置に変位可能なので、開閉枠が閉じ終えたときには、第２位置に可動体を自動的に配置させることが可能である。よって、開閉枠を閉じる際に、可動体を変位し忘れてしまうのを防止可能である。
【０４２１】
〈手段Ｃ〉
手段Ｃ１に係る発明は、
基枠（外枠５１）と、前記基枠に対して開閉可能に取り付けられた開閉枠（ＫＷ）と、を含む遊技機枠（５０）を備え、
前記遊技機枠は、
複数の位置に変位可能な可動体（右側可動体２０３）を備えていることを特徴とする遊技機（パチンコ遊技機１）である。
【０４２２】
この構成の遊技機によれば、遊技機枠は、複数の位置に変位可能な可動体を備えているので、開閉枠の閉塞時に複数の態様に変化可能な遊技機枠を備えた遊技機とすることが可能である。
【０４２３】
手段Ｃ２に係る発明は、
手段Ｃ１に記載の遊技機であって、
前記複数の位置は、
第１位置（図１６参照）と、
前記可動体の少なくとも一部を、前記第１位置にあるときの前記可動体よりも前方、左方および右方の少なくともいずれかに配置させる第２位置（図１６参照）と、を含むことを特徴とする遊技機である。
【０４２４】
例えば、第１位置よりも前方の第２位置に可動体がある状態で、隣の遊技機の開閉枠が開いて当該遊技機の前方に移動してきた場合には、その開閉枠が可動体に衝突し易いため、好ましくない。また、可動体の少なくとも一部を第１位置よりも左方又は右方に配置させる第２位置にある状態で、隣の遊技機の開閉枠が開いた場合にも、その開閉枠が可動体に衝突してしまう場合がある。
【０４２５】
これに対し、上記構成の遊技機によれば、可動体の複数の位置には、第１位置と第２位置とを含む。よって、隣の遊技機の開閉枠が開くときに、第２位置から第１位置に可動体を変位させることで、可動体への衝突を回避させることが可能である。
【０４２６】
手段Ｃ３に係る発明は、
手段Ｃ２に記載の遊技機であって、
前記複数の位置には、前記第１位置と前記第２位置との中間にあたる中間位置（図１６に示す第３位置）が少なくとも１つあることを特徴とする遊技機である。
【０４２７】
この構成の遊技機によれば、複数の位置には、中間位置が少なくとも１つあるので、可動体を第１位置に配置すると可動体の後方にあるホール設備に干渉してしまう場合に、第２位置と中間位置との間で可動体を変位させることが可能である。よって、隣の遊技機の

開閉枠が開くときに、第２位置から中間位置に可動体を変位させることで、可動体への衝突を回避可能である。

【０４２８】

手段Ｃ４に係る発明は、

手段Ｃ２又は手段Ｃ３に記載の遊技機であって、

前記可動体は、

手動にて変位され得るものであり、

前記遊技機枠は、

前記第１位置および前記第２位置を含む複数の位置に前記可動体を固定し得るラッチ機構（ラッチ構造体２４０）を備えていることを特徴とする遊技機である。

【０４２９】

この構成の遊技機によれば、可動体は手動にて変位され得るものであるため、遊技者や遊技場の関係者が必要に応じてすぐに可動体を変位させることが可能である。しかも、遊技機枠は、第１位置および第２位置を含む複数の位置に可動体を固定し得るラッチ機構を備えているので、可動体を手動で変位させる際に、第１位置や第２位置といった所定の位置に可動体を配置させ易い。

【０４３０】

手段Ｃ５に係る発明は、

手段Ｃ２、手段Ｃ３および手段Ｃ４のいずれかに記載の遊技機であって、

前記開閉枠は、

左側又は右側に配された回動軸を中心に回動し得るものであり、

前記可動体は、

前記開閉枠における左側および右側のうち、前記回動軸に遠い側に配置されていることを特徴とする遊技機である。

【０４３１】

回動軸を中心として開閉枠が開く場合に、回動軸に遠い側の遊技機枠の部位に配置された可動体の方が、回動軸に近い側に配置された可動体よりも、開いた隣の開閉枠が衝突しやすい。また例えば、可動体の少なくとも一部を、第１位置にあるときよりも前方に配置させる位置が第２位置の場合には、可動体が第２位置にある方が、第１位置にあるときよりも、開いた隣の遊技機の開閉枠が衝突しやすい。また例えば、可動体の少なくとも一部を、第１位置にあるときよりも左方又は右方に配置させる位置が第２位置の場合には、可動体が第２位置にある方が、第１位置にあるときよりも、開いた隣の遊技機の開閉枠が衝突してしまう場合がある。

【０４３２】

これに対し、上記構成の遊技機によれば、開閉枠における左側および右側のうち回動軸に遠い側に配置された可動体について、第２位置から第１位置に変位可能になっているので、隣の遊技機の開閉枠が開くときに第２位置から第１位置に可動体を変位させることで、可動体への衝突を回避可能である。

【０４３３】

手段Ｃ６に係る発明は、

基枠（外枠５１）と、前記基枠に対して開閉可能に取り付けられた開閉枠（ＫＷ）と、を含む遊技機枠（５０）と、

遊技に伴う演出を実行可能な演出制御手段（サブ制御基板９０）と、を備え、

前記遊技機枠は、

複数の位置に変位可能な可動体を備え、

前記複数の位置には、

第１位置（図１６参照）と、

前記可動体の少なくとも一部を、前記第１位置にあるときの前記可動体よりも前方、左方および右方の少なくともいずれかに配置させる第２位置（図１６参照）と、

前記第１位置と前記第２位置との中間にあたる、少なくとも１つの中間位置（図１６

に示す第３位置）と、があり、
前記可動体は、
前記開閉枠が閉じているときには、前記演出制御手段による前記演出の実行によらず、変位可能なものであることを特徴とする遊技機である。
【０４３４】
この構成の遊技機によれば、複数の位置には、中間位置が少なくとも１つあるので、可動体を第１位置に配置すると可動体の後方にあるホール設備に干渉してしまう場合に、第２位置と中間位置との間で可動体を変位させることが可能である。よって、隣の遊技機の開閉枠が開くときに、第２位置から中間位置に可動体を変位させることで、可動体への衝突を回避可能である。
【０４３５】
〈手段Ｄ〉
手段Ｄ１に係る発明は、
複数の光源（ＬＥＤ３６５）と、第１表示部（上側第１表示部３２１）および第２表示部（上側第２表示部３２２）を含む複数の表示部を備える構造体（上側回転体３２０）と、前記複数の表示部のうち、前記複数の光源の前方に配置する表示部を切り替え可能な切替機構（３４０）と、を有する演出装置（右側可動体２０３）と、
前記複数の光源の発光を制御可能な発光制御手段（サブ制御基板９０）と、を備え、
前記第１表示部は、透光可能な第１レンズ部（レンズ部３２１Ｘ）を備え、
前記第２表示部は、透光可能な第２レンズ部（第１部分レンズ部３２２Ｄ，第２部分レンズ部３２２Ｅ，第３部分レンズ部３２２Ｆ，第４部分レンズ部３２２Ｇ）を備え、
前記第１表示部で前記第１レンズ部がなす表示形態（図４７（Ａ）に示す表示態様）と、前記第２表示部で前記第２レンズ部がなす表示形態（図４７（Ｂ）に示す表示態様）とが互いに異なっていることを特徴とする遊技機（パチンコ遊技機１）である。
【０４３６】
この構成の遊技機によれば、第１表示部で第１レンズ部がなす表示形態と、第２表示部で第２レンズ部がなす表示形態とが互いに異なっている。よって、複数種類の表示部を切り替えて遊技者に示すことが可能であり、遊技興趣の向上が可能である。
【０４３７】
手段Ｄ２に係る発明は、
手段Ｄ１に記載の遊技機であって、
前記演出装置は、
前記複数の光源を仕切る光源側仕切部材（光源側仕切部材３６６）と、
第１表示部側仕切部材（上側仕切部材３２１Ｓ）と、
第２表示部側仕切部材（上側仕切部材３２２Ｓ）と、を備え、
前記光源側仕切部材は、
前記第１表示部側仕切部材とともに、前記複数の光源のうち第１光源群に属する光源から前記第１レンズ部までの光の進路を区画する第１仕切部材（仕切部材ＳＢ１）を構成する一方、
前記第２表示部側仕切部材とともに、前記複数の光源のうち第２光源群に属する光源から前記第２レンズ部までの光の進路を区画する第２仕切部材（仕切部材ＳＣ１，ＳＣ２，ＳＣ３，ＳＣ４）を構成するものであることを特徴とする遊技機である。
【０４３８】
この構成の遊技機によれば、複数の光源を仕切る光源側仕切部材は、第１表示部側仕切部材とともに、第１光源群に属する光源から第１レンズ部までの光の進路を区画する第１仕切部材を構成する一方、第２表示部側仕切部材とともに、第２光源群に属する光源から第２レンズ部までの光の進路を区画する第２仕切部材を構成する。よって、共通部材（光源側仕切部材）を用いて、第１光源群からの光を第１レンズ部に確実に透過させたり、第２光源群からの光を第２レンズ部に確実に透過させたりすることが可能であり、部品点数を抑えた演出装置とすることが可能である。

【０４３９】
また、第１仕切部材によって、第１光源群に属する光源から第１レンズ部までの光の進路が区画され、また、第２仕切部材によって、第２光源群に属する光源から第２レンズ部までの光の進路が区画されるので、複数の光源の前方に配置される表示部に合わせて、複数の光源を効率良く発光可能である。
【０４４０】
手段Ｄ３に係る発明は、
手段Ｄ１又は手段Ｄ２に記載の遊技機であって、
前記構造体として、第１構造体（上側回転体３２０）および第２構造体（下側回転体３３０）を備え、
前記第１構造体の前記第１表示部と前記第２構造体の前記第１表示部とで、１つのモチーフ（図４７（Ａ）に示すモチーフ）を形成することを特徴とする遊技機である。
【０４４１】
この構成の遊技機によれば、第１構造体の第１表示部と第２構造体の第１表示部とで１つのモチーフを形成するので、それら２つの表示部によって１つのモチーフが完成したときに、遊技者に驚きを与えることが可能である。
【０４４２】
手段Ｄ４に係る発明は、
手段Ｄ３に記載の遊技機であって、
前記第１構造体は、
前記複数の表示部が周壁（ＵＷ）をなす回転体であり、前記複数の光源の前方に配置する表示部の切り替え時に回転させられるものであり、
前記第２構造体は、
前記複数の表示部が周壁（ＤＷ）をなす回転体であり、前記複数の光源の前方に配置する表示部の切り替え時に、前記第１構造体とは逆の方向に回転させられるものであることを特徴とする遊技機である。
【０４４３】
この構成の遊技機によれば、第２構造体は、表示部の切り替え時に、第１構造体とは逆の方向に回転させられる。よって、第１構造体および第２構造体での表示部の切り替え動作をそれぞれ異ならせることが可能であり、遊技者の注目度を向上可能である。
【０４４４】
手段Ｄ５に係る発明は、
複数の光源（ＬＥＤ３６５）と、第１表示部（上側第１表示部３２１）および第２表示部（上側第２表示部３２２）を含む複数の表示部を備える構造体（上側回転体３２０）と、前記複数の表示部のうち、前記複数の光源の前方に配置する表示部を切り替え可能な切替機構（３４０）と、を有する演出装置（右側可動体２０３）と、
遊技に伴う演出を実行可能な演出制御手段（サブ制御基板９０）と、を備え、
前記第１表示部は、透光可能な第１レンズ部（レンズ部３２１Ｘ）を備え、
前記第２表示部は、透光可能な第２レンズ部（第１部分レンズ部３２２Ｄ，第２部分レンズ部３２２Ｅ，第３部分レンズ部３２２Ｆ，第４部分レンズ部３２２Ｇ）を備え、
前記第１表示部で前記第１レンズ部がなす表示形態（図４７（Ａ）に示す表示態様）と、前記第２表示部で前記第２レンズ部がなす表示形態（図４７（Ｂ）に示す表示態様）とが互いに異なっており、
前記演出装置は、
前記複数の光源を仕切る光源側仕切部材（光源側仕切部材３６６）と、
第１表示部側仕切部材（上側仕切部材３２１Ｓ）と、
第２表示部側仕切部材（上側仕切部材３２２Ｓ）と、を備え、
前記光源側仕切部材は、
前記第１表示部側仕切部材とともに、前記複数の光源のうち第１光源群に属する光源から前記第１レンズ部までの光の進路を区画する第１仕切部材（仕切部材ＳＢ１）を構成

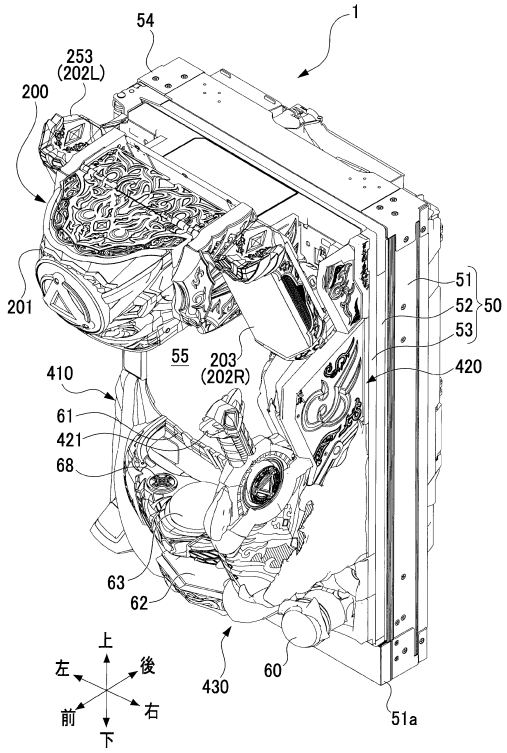
する一方、
　前記第２表示部側仕切部材とともに、前記複数の光源のうち第２光源群に属する光源から前記第２レンズ部までの光の進路を区画する第２仕切部材（仕切部材ＳＣ１，ＳＣ２，ＳＣ３，ＳＣ４）を構成するものであり、
　前記演出制御手段は、
　前記演出装置を用いた演出を実行し得るものであり、
　第１の実行条件が成立した場合には、前記複数の光源の前方に前記第１表示部を配置して、前記第１光源群に属する光源を発光し得るものであり、
　第２の実行条件が成立した場合には、前記複数の光源の前方に前記第２表示部を配置して、前記第２光源群に属する光源を発光し得るものであることを特徴とする遊技機である。
【０４４５】
　この構成の遊技機によれば、複数の光源を仕切る光源側仕切部材は、第１表示部側仕切部材とともに、第１光源群に属する光源から第１レンズ部までの光の進路を区画する第１仕切部材を構成する一方、第２表示部側仕切部材とともに、第２光源群に属する光源から第２レンズ部までの光の進路を区画する第２仕切部材を構成する。よって、共通部材（光源側仕切部材）を用いて、第１光源群からの光を第１レンズ部に確実に透過させたり、第２光源群からの光を第２レンズ部に確実に透過させたりすることが可能であり、部品点数を抑えた演出装置とすることが可能である。
【０４４６】
　さらに、第１の実行条件が成立した場合には、複数の光源の前方に第１表示部を配置して、第１光源群に属する光源を発光し、第２の実行条件が成立した場合には、複数の光源の前方に第２表示部を配置して、第２光源群に属する光源を発光し得る。よって、光源の前方に第１表示部を配置しても第２表示部を配置しても、レンズ部から好適な光輝を放つ表示部を演出に用いることが可能である。
【０４４７】
〈手段Ｅ〉
　手段Ｅ１に係る発明は、
　光源（ＬＥＤ３６５）と、
　透光可能な透光部材（３３２Ｘ）、および、透光不能又は透光困難な不透光部材（３３２Ｙ）を含む表示部（下側第２表示部３３２）と、
　前記光源の発光を制御可能な発光制御手段（サブ制御基板９０）と、を備え、
　前記透光部材は、
　複数のレンズ部（第１部分レンズ部３３２Ｄ，第２部分レンズ部３３２Ｅ，第３部分レンズ部３３２Ｆ）と、これら複数のレンズ部の間を介在する介在部（３３２Ｈ）とを備え、
　前記複数のレンズ部は、
　前記発光制御手段によって前記光源の発光がなされた場合には、その光源からの光を透過させ得るものである遊技機（パチンコ遊技機１）であって、
　前記透光部材は１部材からなることを特徴とする遊技機である。
【０４４８】
　この構成の遊技機によれば、透光部材は、複数のレンズ部と介在部とを備える１部材であるので、レンズ部が複数あるにもかかわらず透光部材の部品点数を少なく抑えることが可能である。
【０４４９】
　手段Ｅ２に係る発明は、
　手段Ｅ１に記載の遊技機であって、
　前記不透光部材は、背後側に突設した凸部（３３２Ｗ）を備え、
　前記介在部は、前記凸部に嵌合可能な嵌合部（３３２Ｊ）を備え、
　前記凸部と前記嵌合部とが嵌合していることを特徴とする遊技機である。

【０４５０】
この構成の遊技機によれば、不透光部材の凸部と介在部の嵌合部とが嵌合しているので、不透光部材に対する透光部材（レンズ部）の位置ズレを防止可能である。また、透光不能な凸部と、透光部材の介在部に設けられた嵌合部とが嵌合するので、レンズ部から介在部の嵌合部付近まで、透光部材内を光が移動してきた場合には、その光について凸部で遮蔽することが可能である。
【０４５１】
手段Ｅ３に係る発明は、
手段Ｅ２に記載の遊技機であって、
前記凸部は、
前記嵌合部の厚み方向の全域に嵌合していることを特徴とする遊技機である。
【０４５２】
この構成の遊技機によれば、凸部は、嵌合部の厚み方向の全域に嵌合しているので、レンズ部から介在部の嵌合部付近まで透光部材内を光が移動してきた場合には、その光が凸部の反対側に届くのを抑制可能である。
【０４５３】
手段Ｅ４に係る発明は、
手段Ｅ２又は手段Ｂ３に記載の遊技機であって、
前記複数のレンズ部には、第１部分レンズ部（３３２Ｄ）と第２部分レンズ部（３３２Ｅ）と第３部分レンズ部（３３２Ｆ）とがあり、
前記光源には、前記第１部分レンズ部に透過させる光を発光可能な第１光源（第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第１縦仕切部３５１、第３縦仕切部３５３および第５縦仕切部３５５で仕切られたＬＥＤ３６５）と、前記第２部分レンズ部に透過させる光を発光可能な第２光源（第４横仕切部３４４よりも下側に配置されたＬＥＤ３６５）と、前記第３部分レンズ部に透過させる光を発光可能な第３光源（第１横仕切部３４１、第４横仕切部３４４、第２縦仕切部３５２、第４縦仕切部３５４および第６縦仕切部３５６で仕切られたＬＥＤ３６５）と、があり、
前記発光制御手段は、
前記第１光源、前記第２光源、および、前記第３光源を同時に発光可能なものであり、
前記透光部材は、
前記第１部分レンズ部と前記第２部分レンズ部との第１距離（Ｚ１）が、前記第１部分レンズ部と前記第３部分レンズ部との第２距離（Ｚ２）よりも近くなっており、
前記第１部分レンズ部から前記第２部分レンズ部までの前記介在部を通しての距離（第３距離Ｚ３）が、前記第１距離よりも長くなっており、
前記凸部は、
前記第１部分レンズ部と前記第３部分レンズ部との間に配置されているものであることを特徴とする遊技機である。
【０４５４】
この構成の遊技機によれば、透光部材は、第１部分レンズ部から第２部分レンズ部までの介在部を通しての距離が第１距離よりも長くなっている。その分（第１部分レンズ部から第２部分レンズ部までの介在部を通しての距離が第１距離よりも長くなっている分）、第１部分レンズ部と第２部分レンズ部との間の距離を稼ぐことが可能であり、第１部分レンズ部と第２部分レンズ部との間で光の移動（透光）が生じ難い遊技機とすることが可能である。
【０４５５】
さらに、凸部は、第１部分レンズ部と第３部分レンズ部との間に配置されているので、第１部分レンズ部又は第３部分レンズ部からその凸部までの透光部材内を光が移動してきた場合には、その光を凸部で遮蔽可能である。よって、第１部分レンズ部と第３部分レンズ部との間で光の移動（透光）が生じるのを抑えることが可能である。

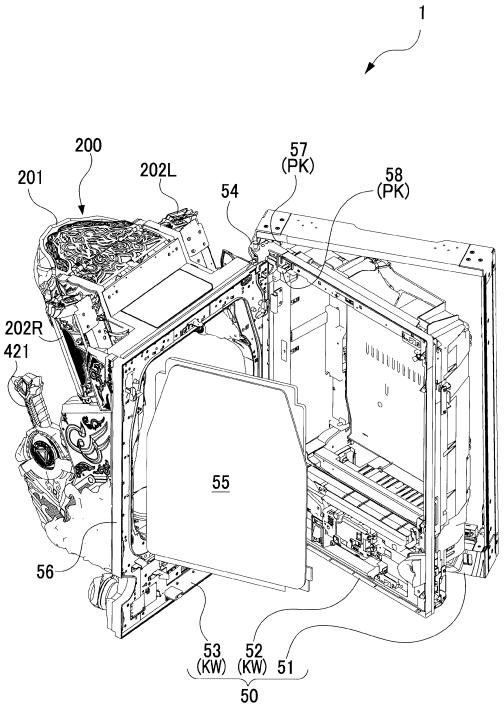
【０４５６】
手段Ｅ５に係る発明は、
光源（ＬＥＤ３６５）と、
透光可能な透光部材（３３２Ｘ）、および、透光不能又は透光困難な不透光部材（３３２Ｙ）を含む表示部（下側第２表示部３３２）と、
遊技に伴う演出を実行可能な演出制御手段（サブ制御基板９０）と、を備え、
前記透光部材は、
複数のレンズ部（第１部分レンズ部３３２Ｄ，第２部分レンズ部３３２Ｅ，第３部分レンズ部３３２Ｆ）と、これら複数のレンズ部の間を介在する介在部（３３２Ｈ）とを備える遊技機（パチンコ遊技機１）であって、
前記透光部材は１部材からなり、
前記不透光部材は、背後側に突設した凸部（３３２Ｗ）を備え、
前記介在部は、前記凸部に嵌合可能な嵌合部（３３２Ｊ）を備え、
前記凸部と前記嵌合部とが嵌合しており、
前記演出制御手段は、
前記表示部を用いた表示演出（図４８（Ｂ）に示す表示演出）を実行し得るものであり、
前記表示演出の実行条件が成立した場合には、前記複数の光源の少なくとも一部の光源を発光し得るものであることを特徴とする遊技機である。
【０４５７】
この構成の遊技機によれば、不透光部材の凸部と介在部の嵌合部とが嵌合しているので、不透光部材に対する透光部材（レンズ部）の位置ズレを防止可能である。また、透光不能な凸部と、透光部材の介在部に設けられた嵌合部とが嵌合するので、レンズ部から介在部の嵌合部付近まで、透光部材内を光が移動してきた場合には、その光について凸部で遮蔽することが可能である。
【符号の説明】
【０４５８】
１…パチンコ遊技機（遊技機）
２…遊技盤
５０…遊技機枠
５１…外枠（基枠）
５２…内枠（保持枠部）
５３…前枠（装飾枠部）
５７…姿勢保持部材（基枠押圧機構）
５８…押圧部材（変位機構）
８０…主制御基板（遊技制御手段）
９０…サブ制御基板（演出制御手段，発光制御手段）
２０３…右側可動体（可動体，演出装置）
２４０…ラッチ構造体（ラッチ機構）
２５３…左側可動体（可動体，演出装置）
２６０…左側ベース部（変位機構）
２６６…左第１アーム（位置変更部材）
２７１…左第２アーム（位置変更部材）
２７６…左第３アーム（位置変更部材）
２９５…台座
２９９…コイルスプリング（誘導部材，付勢部材）
３２０…上側回転体（構造体，第１構造体）
３２１…上側第１表示部（第１表示部，演出手段）
３２１Ｓ…上側仕切部材（第１表示部側仕切部材）
３２１Ｘ…レンズ部（第１レンズ部）

３２２…上側第２表示部（第２表示部，演出手段）
３２２Ｄ…第１部分レンズ部（第２レンズ部，レンズ部）
３２２Ｅ…第２部分レンズ部（第２レンズ部，レンズ部）
３２２Ｆ…第３部分レンズ部（第２レンズ部，レンズ部）
３２２Ｇ…第４部分レンズ部（第２レンズ部，レンズ部）
３２２Ｈ，３３２Ｈ…介在部
３２２Ｊ，３３２Ｊ…嵌合部
３２２Ｓ…上側仕切部材（第２表示部側仕切部材）
３２２Ｗ，３３２Ｗ…凸部
３２２Ｘ，３３２Ｘ…透光部材
３２２Ｙ，３３２Ｙ…不透光部材
３３０…下側回転体（構造体，第２構造体）
３３１…下側第１表示部（第１表示部，演出手段）
３３１Ｓ…下側仕切部材（第１表示部側仕切部材）
３３１Ｘ…レンズ部（第１レンズ部）
３３２…下側第２表示部（第２表示部，表示部，演出手段）
３３２Ｄ…第１部分レンズ部（第２レンズ部，レンズ部）
３３２Ｅ…第２部分レンズ部（第２レンズ部，レンズ部）
３３２Ｆ…第３部分レンズ部（第２レンズ部，レンズ部）
３３２Ｓ…下側仕切部材（第２表示部側仕切部材）
３４０…切替機構
３６５…ＬＥＤ（光源）
３６６…光源側仕切部材
ＳＢ１，ＳＢ２，ＳＢ３，ＳＢ４…仕切部材（第１仕切部材）
ＳＣ１，ＳＣ２，ＳＣ３，ＳＣ４，ＳＣ５，ＳＣ６，ＳＣ７…仕切部材（第２仕切部材）
ＤＷ，ＵＷ…周壁
ＫＷ…開閉枠
Ｚ１…第１距離
Ｚ２…第２距離
Ｚ３…第３距離

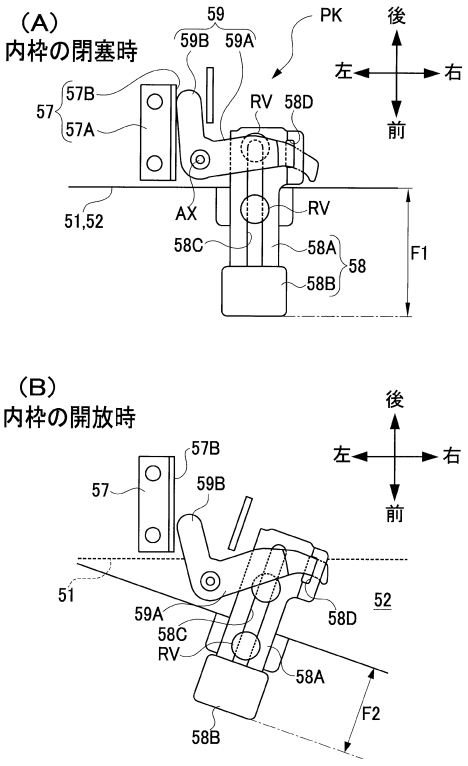
【図１】


1
54
253
(202L)
200
201
51
52
50
53
55
203
(202R)
420
410
61
421
68
63
62
430
60
51a
上
左
後
右
前
下

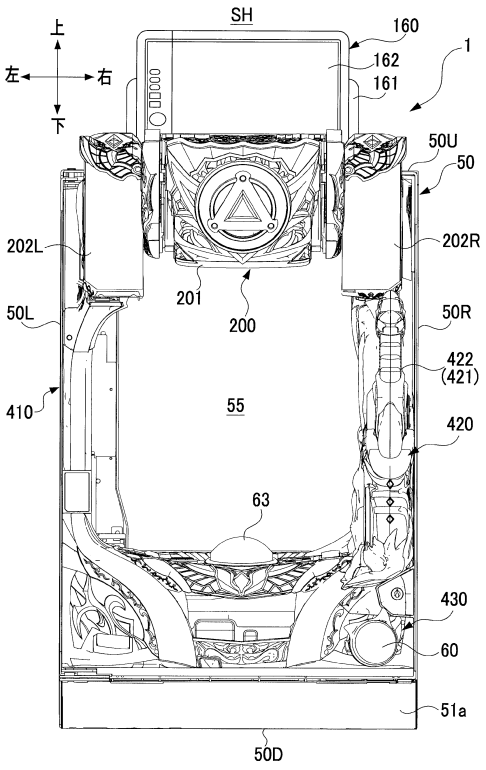
【図２】


1
200
201
202L
54
57
(PK)
58
(PK)
202R
421
55
56
53
(KW)
52
(KW)
51
50

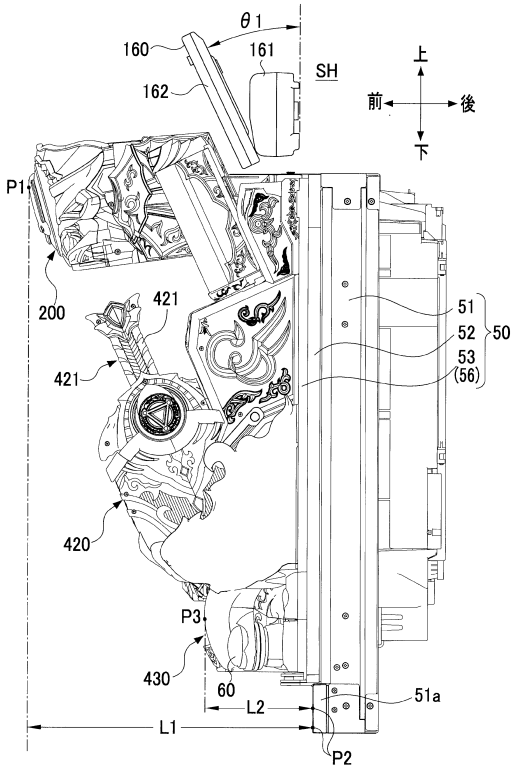
【図３】


(A)
内枠の閉塞時
59
59B
59A
PK
後
左
右
前
57
57B
57A
RV
58D
51,52
AX
RV
58C
58A
58
58B
F1
(B)
内枠の開放時
後
左
右
前
57B
57
59B
51
59A
58C
RV
58D
52
58A
F2
58B

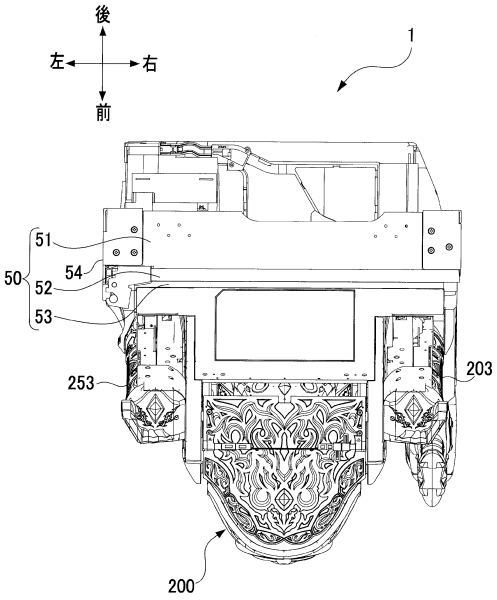
【図４】


SH
160
1
上
左
右
下
162
161
50U
50
202L
202R
201
200
50L
50R
422
(421)
410
55
420
63
430
60
51a
50D

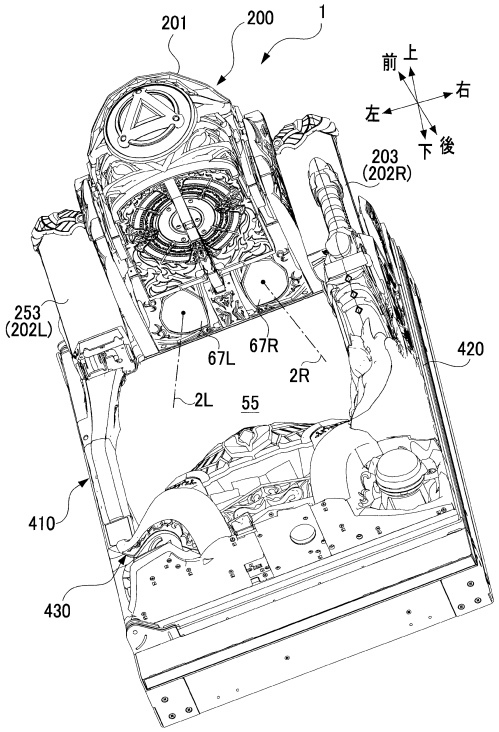
【図５】


θ1
160
161
SH
162
上
前
後
下
P1
200
421
51
52
53
(56)
50
421
420
P3
430
60
L2
51a
L1
P2

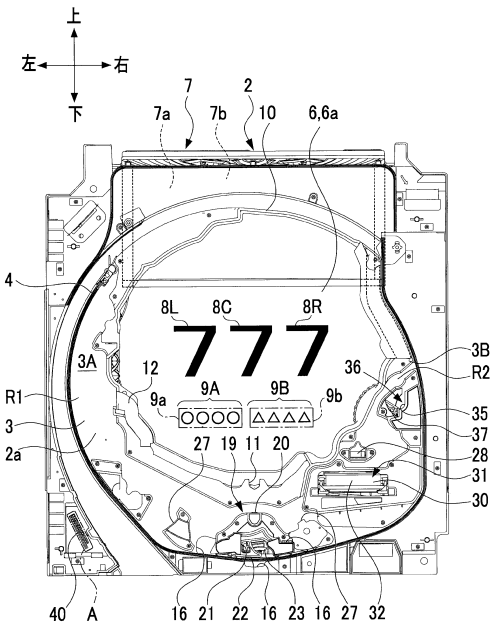
【図６】


後
左
右
前
1
51
50
54
52
53
253
203
200

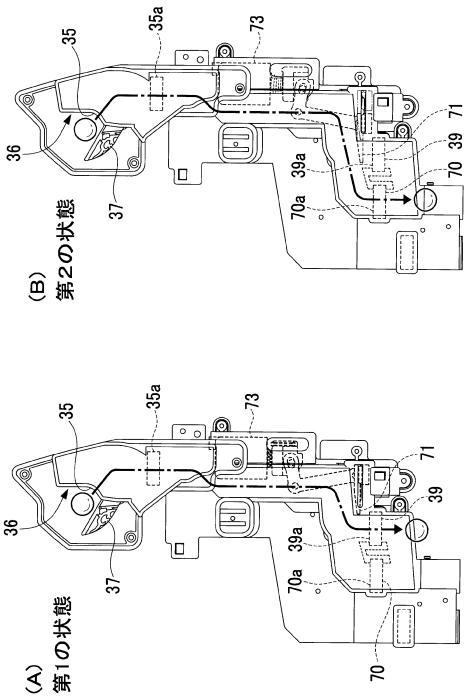
【図７】


201
200
1
前
上
右
左
下
後
203
(202R)
253
(202L)
67L
67R
2R
420
2L
55
410
430

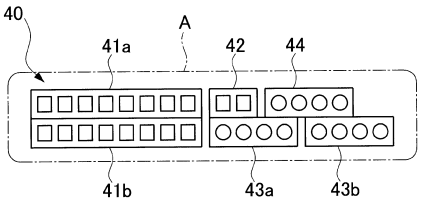
【図８】


上
左
右
下
7
2
7a
7b
10
6,6a
4
8L
8C
8R
777
3A
12
3B
R2
36
R1
9a
9A
9B
9b
35
3
37
2a
27
19
11
20
28
31
30
40
A
16
21
22
16
23
16
27
32

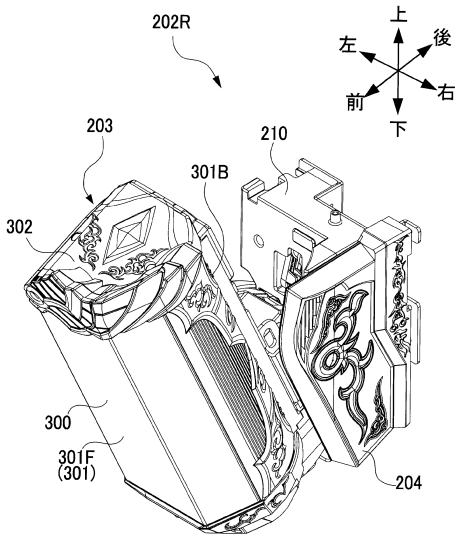
【図９】



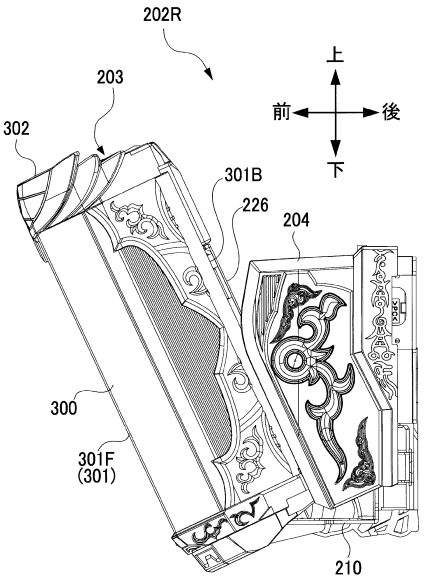
【図１０】



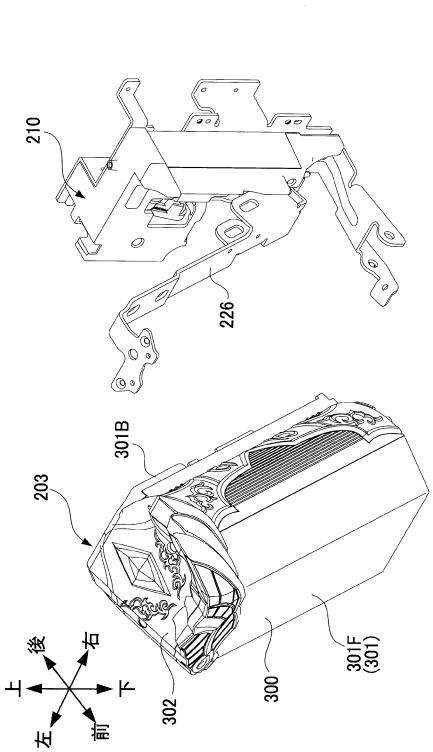
【図１１】



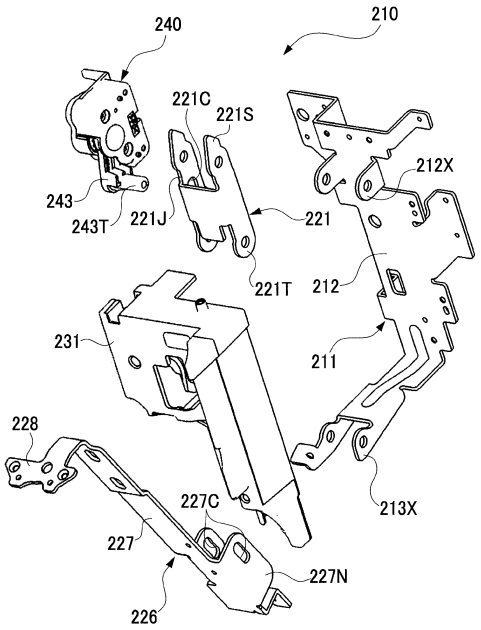
【図１２】



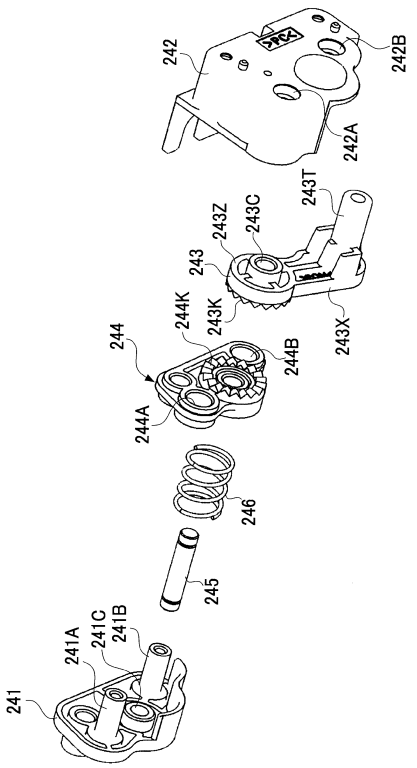
【図１３】



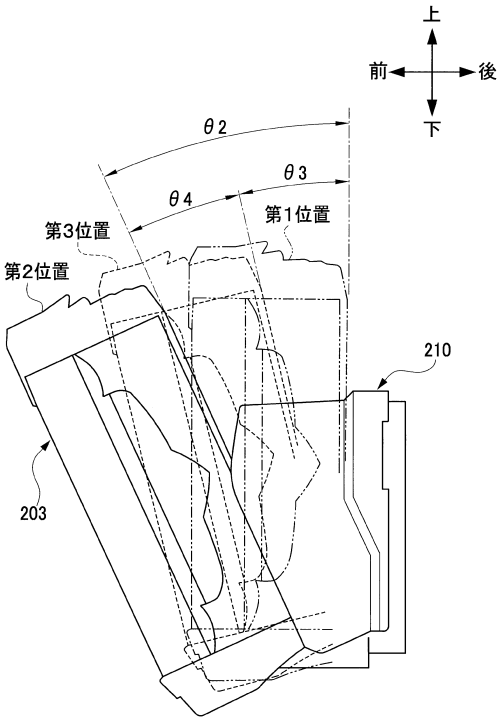
【図１４】



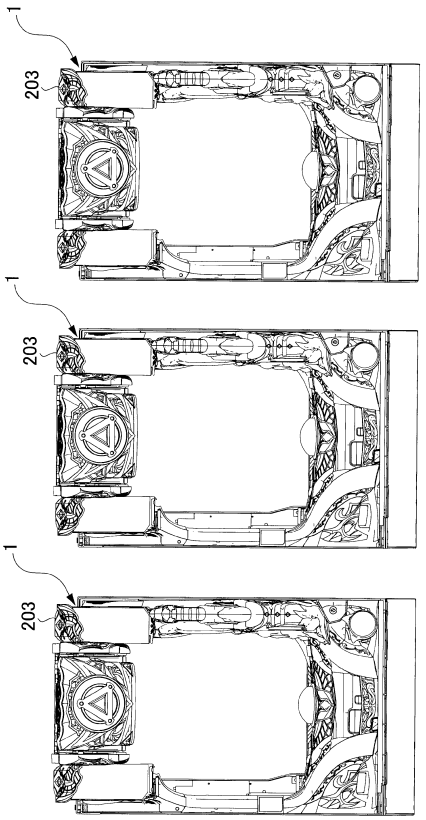
【図１５】



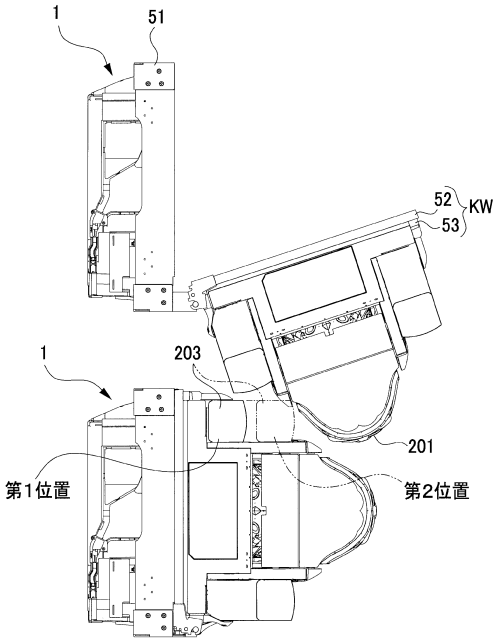
【図１６】



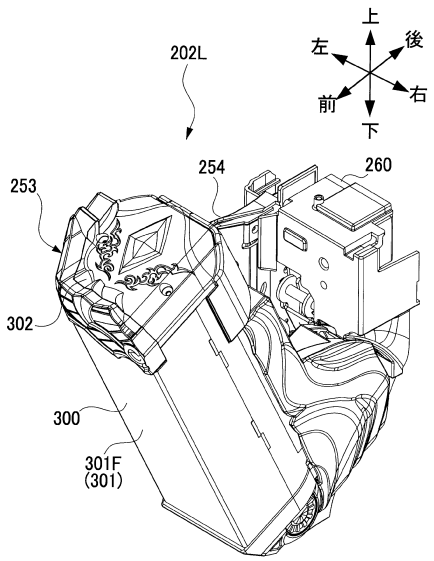
【図１７】



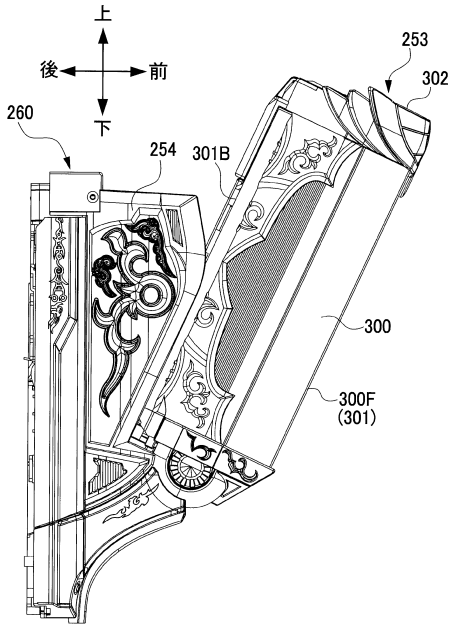
【図１８】



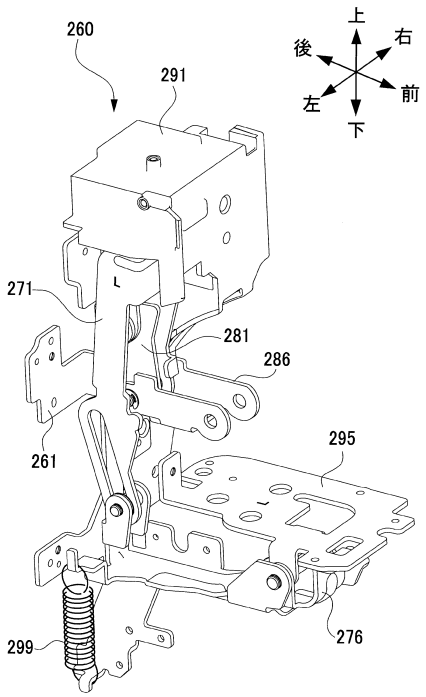
【図１９】



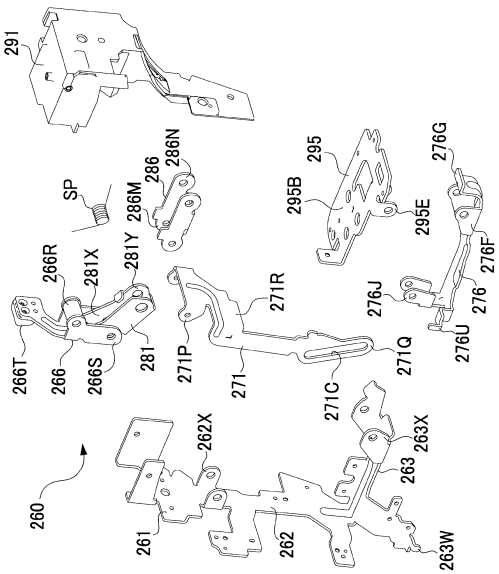
【図２０】



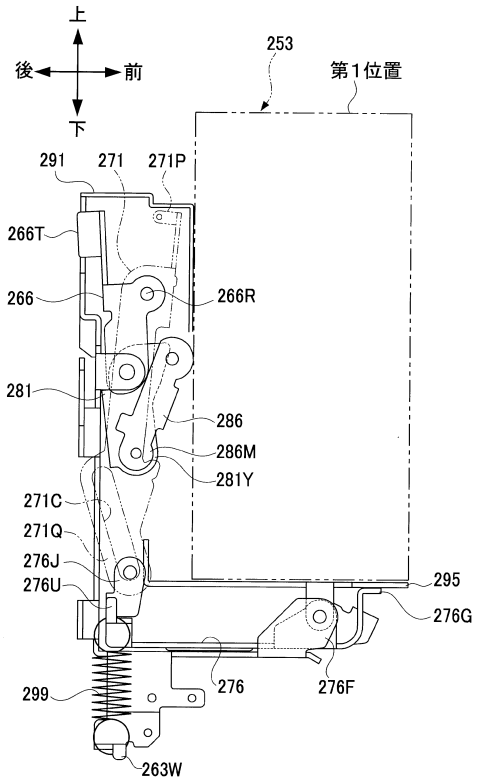
【図２１】



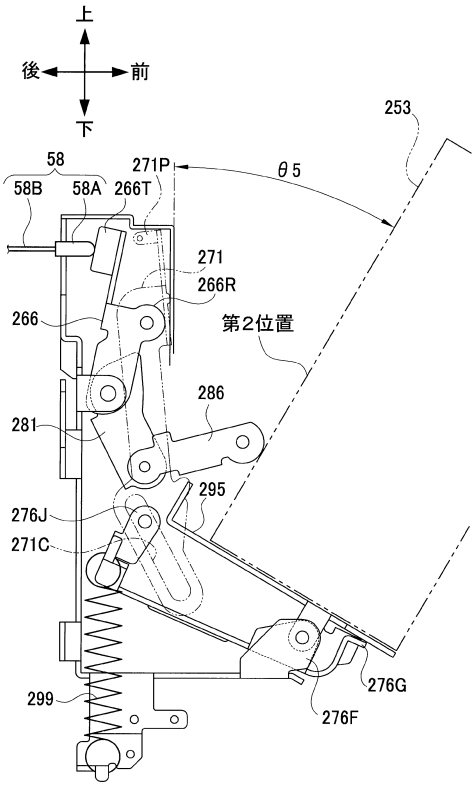
【図２２】



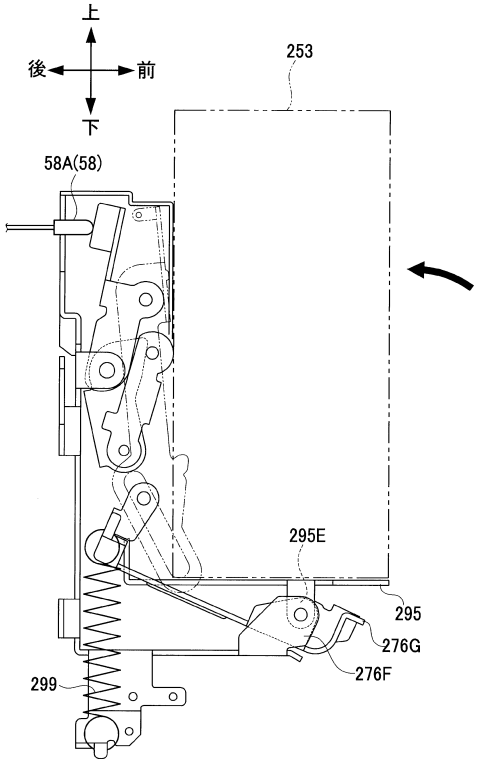
【図２３】



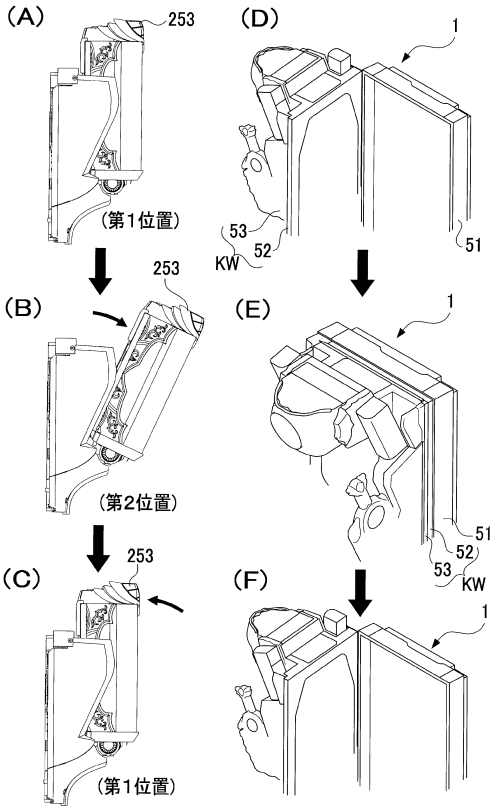
【図２４】



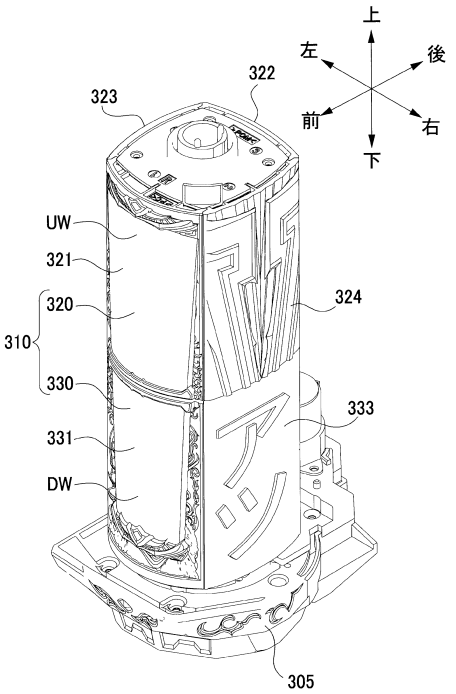
【図２５】



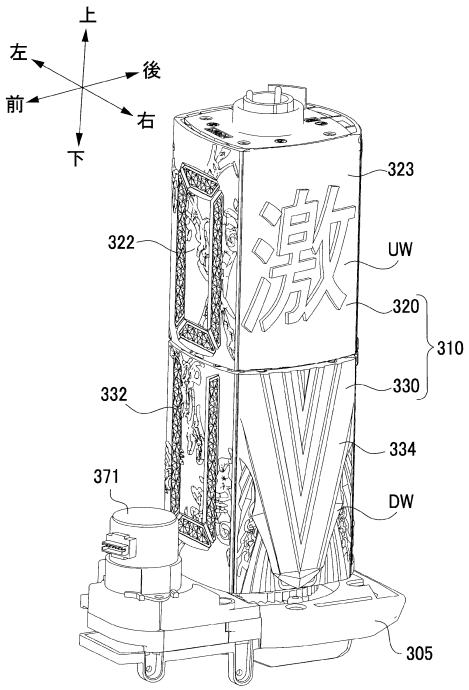
【図２６】



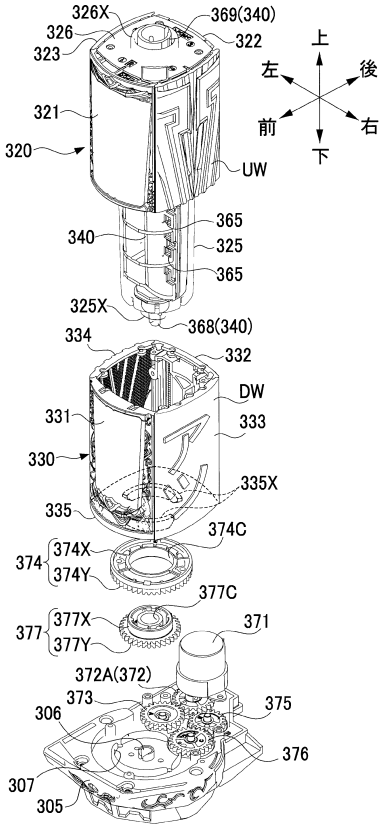
【図２７】



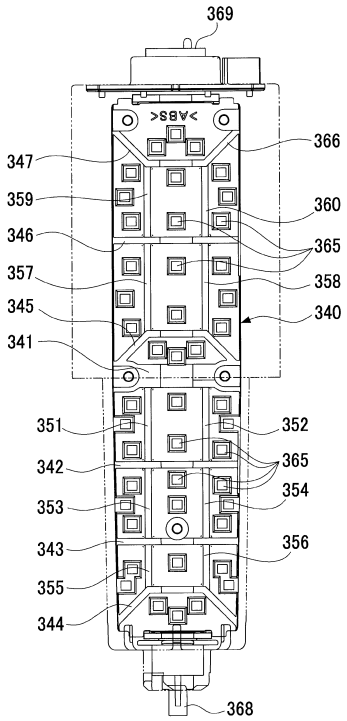
【図２８】



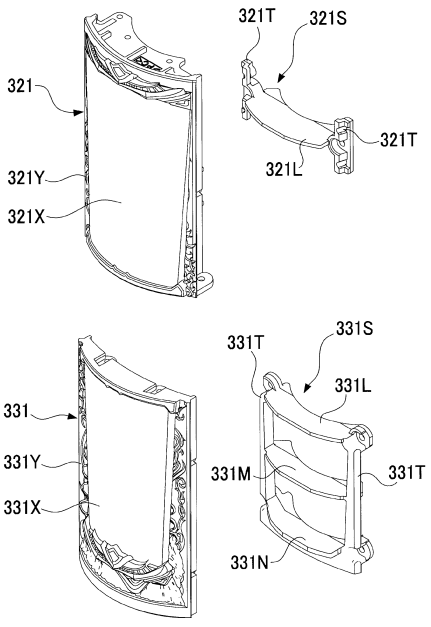
【図２９】



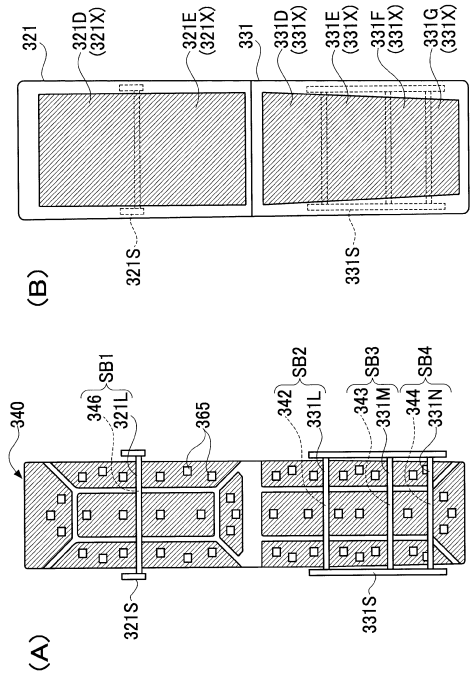
【図３０】



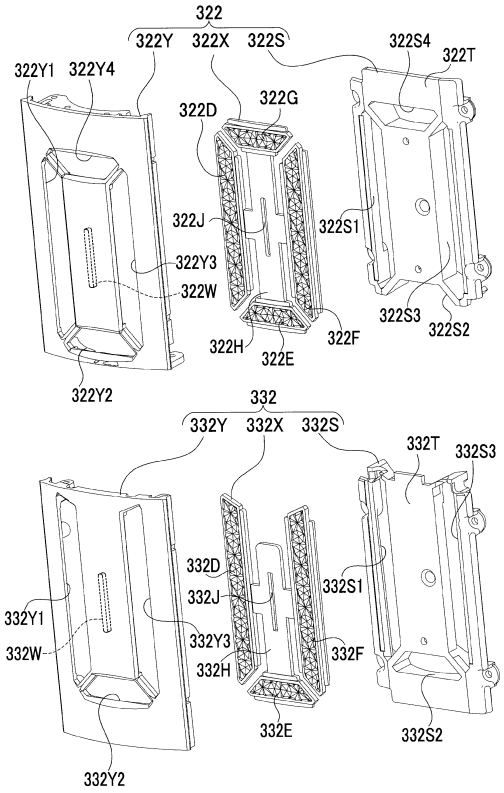
【図３１】



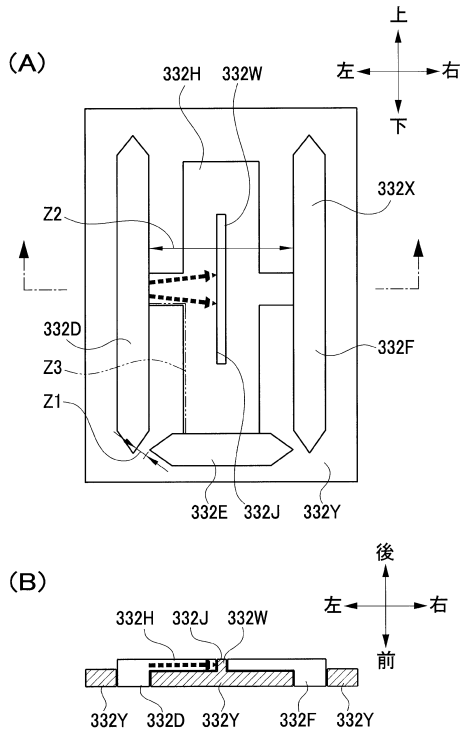
【図３２】



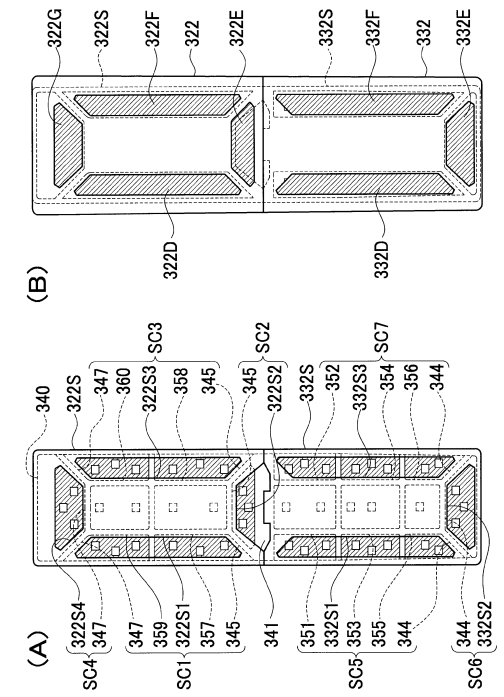
【図３３】



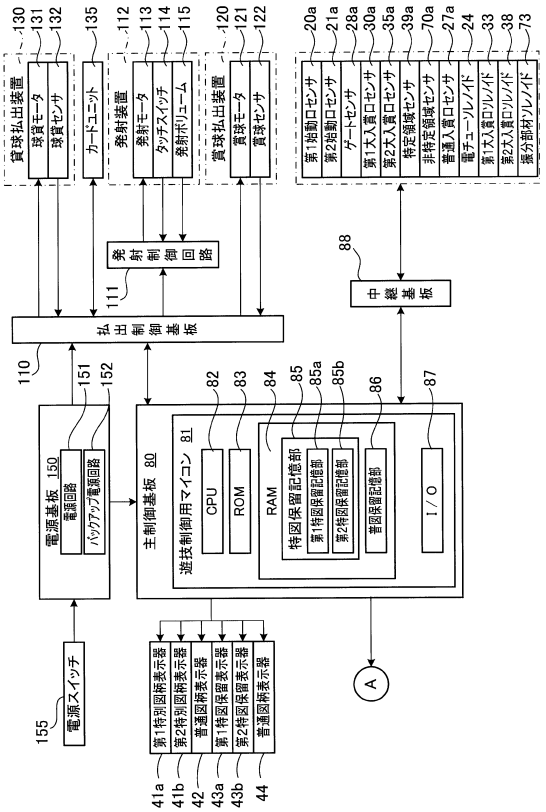
【図３４】



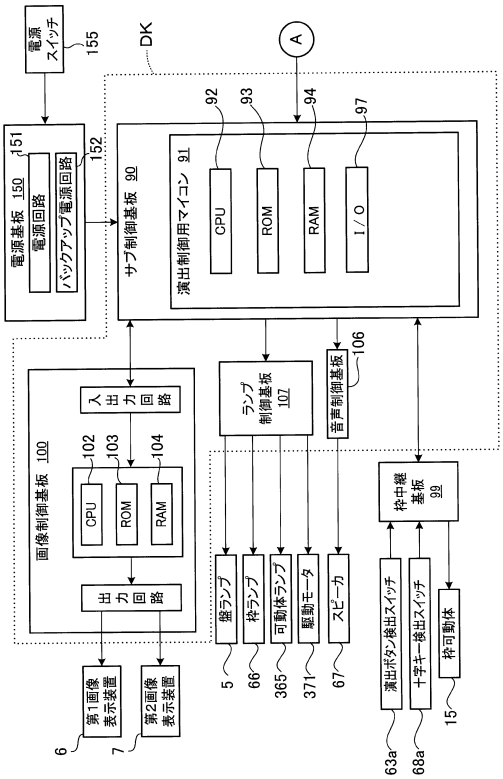
【図３５】



【図３６】



【図３７】



【図３８】

大当たり種別判定テーブル

特別図柄	大当たり種別乱数値	大当たりの種別	特別図柄の種別	特図停止図柄データ	振分率(%)
特図1	0～4	16R Vロング大当たり	特図1_大当たり図柄1	11H	50
	5～9	16R(実質13R) Vショート大当たり	特図1_大当たり図柄2	12H	50
特図2	0～9	16R Vロング大当たり	特図2_大当たり図柄1	21H	100

【図３９】

大入賞口の開放態様

特図停止図柄データ	大入賞口開放テーブル	ラウンド数(R)	開放する大入賞口		開放回数(回)／R	開放時間(秒)／回	*備考
11H,21H	TBL1	16	1R目～13R目	第1大入賞口	1	29.5	Vロング開放パターン
			14R目および16R目	第2大入賞口	1	29.5	
			15R目	第1大入賞口	1	29.5	
12H	TBL2	16(実質13)	1R目～13R目	第1大入賞口	1	29.5	Vショート開放パターン
			14R目および16R目	第2大入賞口	1	0.1	
			15R目	第1大入賞口	1	0.1	

【図４０】

(A)

乱数カウンタ名	乱数名	数値範囲	用途
ラベル-TRND-A	大当たり乱数	0～65535	大当たり判定用
ラベル-TRND-AS	大当たり種別乱数	0～9	大当たり種別決定用
ラベル-TRND-RC	リーチ乱数	0～127	リーチの有無の決定用
ラベル-TRND-T1	変動パターン乱数	0～127	変動パターン決定用

(B)

乱数カウンタ名	乱数名	数値範囲	用途
ラベル-TRND-H	普通図柄乱数（当たり乱数）	0～255	普通図柄抽選の当否判定用

【図４１】

(A)大当たり判定テーブル

状態	大当たり乱数値	判定結果
通常確率状態（非高確率状態）	0～204	大当たり
	0～65535のうち上記以外の数値	ハズレ
高確率状態	0～424	大当たり
	0～65535のうち上記以外の数値	ハズレ

(B)リーチ判定テーブル

状態	リーチ乱数値	判定結果
非時短状態	0～13	リーチ有り
	0～127のうち上記以外の数値	リーチ無し
時短状態	0～5	リーチ有り
	0～127のうち上記以外の数値	リーチ無し

(C)普通図柄当たり判定テーブル

状態	普通図柄乱数値	判定結果
非時短状態	0～2	当たり
	0～255のうち上記以外の数値	ハズレ
時短状態	0～254	当たり
	0～255のうち上記以外の数値	ハズレ

(D)普通図柄変動パターン選択テーブル

状態	普通図柄の変動時間(秒)
非時短状態	30秒
時短状態	1秒

【図４２】

変動パターン判定テーブル

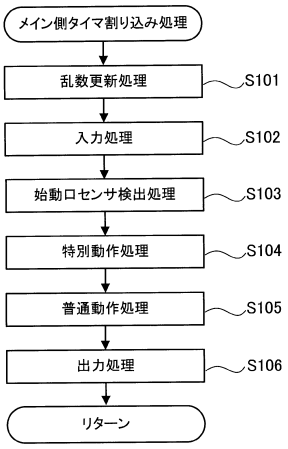
始動口	状態	判定結果	保留球数	変動パターン乱数値	変動パターン	変動時間(ms)	＊備考
第1始動口	非時短状態	大当たり VロングV	–	0～127	P1	40000	SPリーチ
		大当たり Vショート	–	0～127	P2	40000	SPリーチ
		リーチ有りハズレ	–	0～25	P3	40000	SPリーチ
				26～127	P4	15000	ノーマルリーチ
		リーチ無しハズレ	0～2	0～127	P5	10000	–
			3～4		P6	5000	–
	時短状態	大当たり VロングV	–	0～127	P11	40000	SPリーチ
		大当たり Vショート	–	0～127	P12	40000	SPリーチ
		リーチ有りハズレ	–	0～127	P13	40000	SPリーチ
		リーチ無しハズレ	0～1	0～127	P14	10000	–
			2～4		P15	3000	–
第2始動口	非時短状態	大当たり(VロングV)	–	0～127	P21	40000	SPリーチ
		リーチ有りハズレ	–	0～25	P22	40000	SPリーチ
				26～127	P23	15000	ノーマルリーチ
		リーチ無しハズレ	0～2	0～127	P24	10000	–
			3～4		P25	5000	–
	時短状態	大当たり(VロングV)	–	0～127	P31	40000	SPリーチ
		リーチ有りハズレ	–	0～127	P32	40000	SPリーチ
		リーチ無しハズレ	0～1	0～127	P33	10000	–
			2～4		P34	3000	–

【図４３】

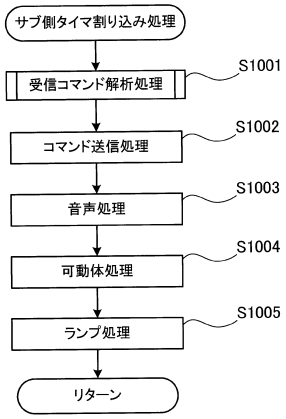
電チューの開放パターン(作動態様)決定テーブル

状態	普通図柄の種別	参照テーブル	開放回数(回)	開放時間(秒)／回	インターバル時間(秒)
非時短状態	普通当たり図柄	電チュー開放TBL1	1	0.2	–
時短状態		電チュー開放TBL2	3	2.0	1.0

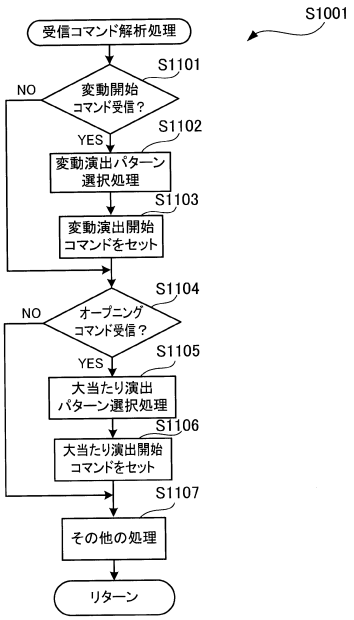
【図４４】



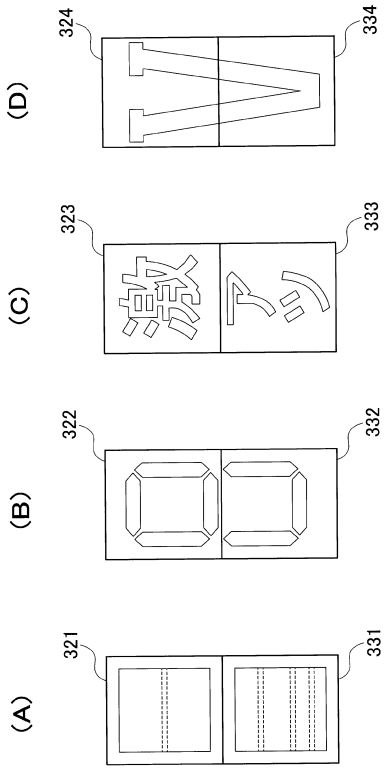
【図４５】



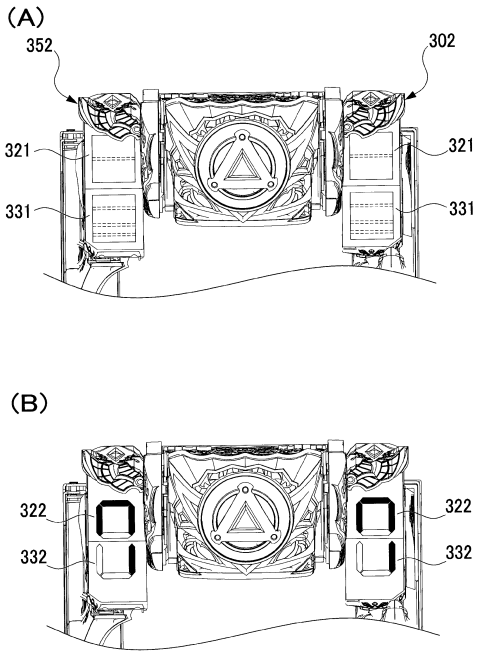
【図４６】



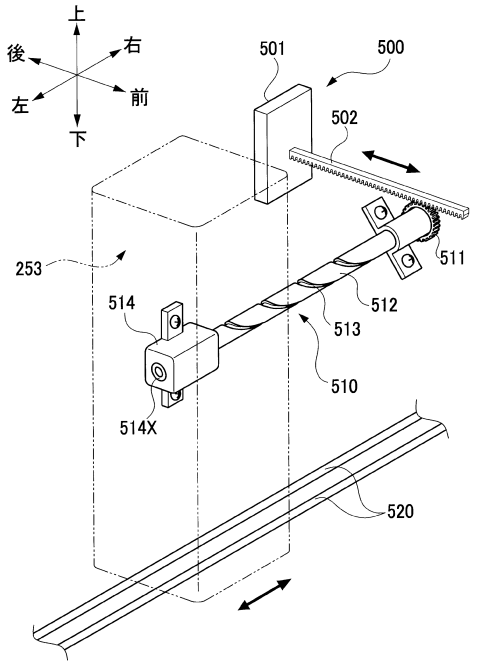
【図４７】



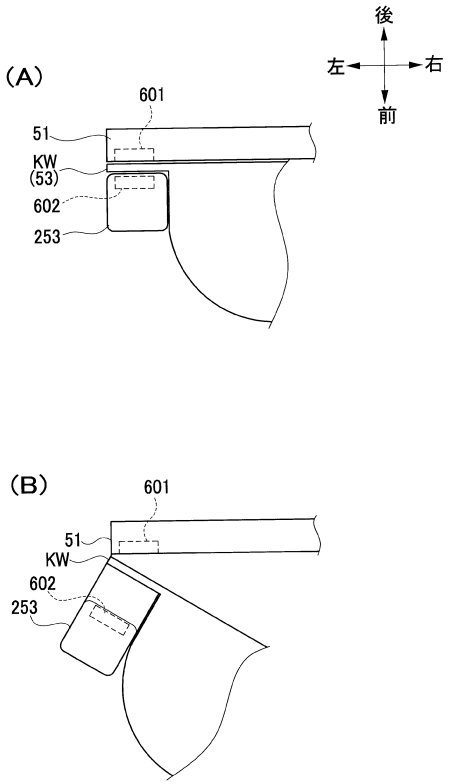
【図４８】



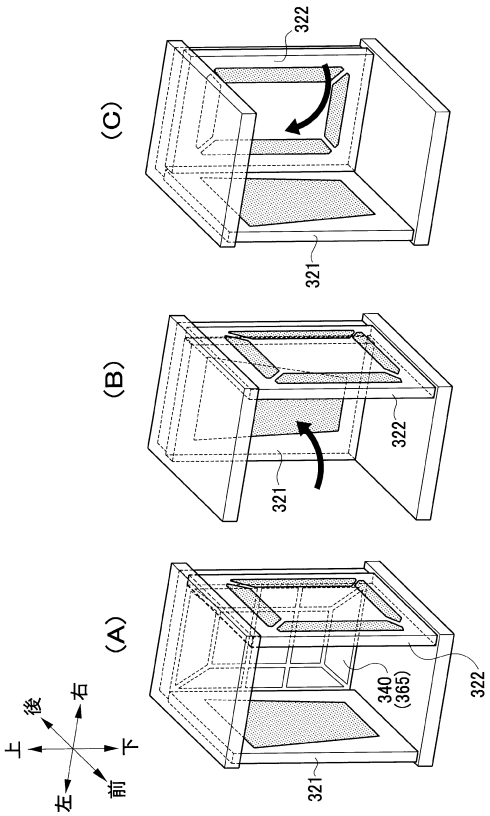
【図４９】



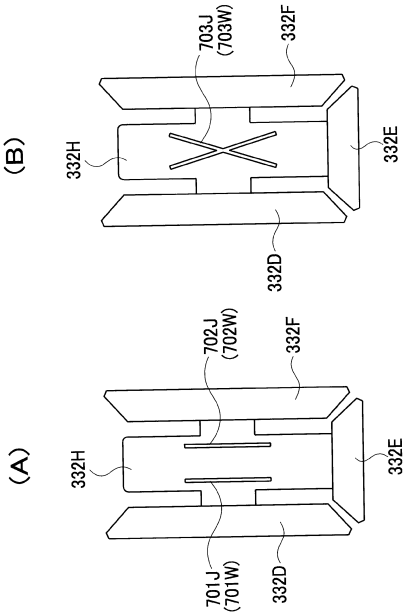
【図５０】



【図５１】



【図５２】



フロントページの続き

審査官　福田　知喜

(56)参考文献　特開２０１３－２２０２１５（ＪＰ，Ａ）
特開２０１２－２１７５２３（ＪＰ，Ａ）
特開２０１３－２５２２６２（ＪＰ，Ａ）
特開２０１６－１９８５５９（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６３Ｆ　　７／０２
Ａ６３Ｆ　　５／０４